

岩出遺跡群(第5、7、8次)発掘調査報告

～ 三重県度会郡玉城町岩出所在 ～

2006 (平成18) 年3月

三重県埋蔵文化財センター

序

大台山系を源にして、伊勢湾に注ぐ宮川は一級河川で国土交通省が行う水質調査で全国一位に挙げられる清流です。その中流域から下流域に至る左岸に位置する玉城町岩出地区は、背後に丘陵地をひかえ、前面の南東側に宮川や神宮林を望む穏やかな風景の地域です。この地域に所在する遺跡は「岩出遺跡群」として認識され、近畿自動車道伊勢線やその関連道路などの建設に伴って平成元年に発掘調査を実施してから平成16年度まで8次にわたって発掘調査が行われてきました。

今回発掘調査報告書として刊行させていただくのは、平成15年及び16年度に実施した一般農道整備事業玉城南部地区に伴う発掘調査で、第5次調査と第7次並びに第8次発掘調査の結果です。

今回の調査では、鎌倉時代を中心に、約130mほど延々と続く溝や掘立柱建物跡をはじめ、中世の岩出集落の様子を伺わせる遺構や多量の遺物など貴重な成果をあげることができました。これらの成果は今後当地域の歴史を解明して行くうえで、重要な資料となるものと言えましょう。

県の埋蔵文化財センターでは、各種の開発事業に伴って発掘調査を実施するばかりでなく、その成果を広く県民の皆様や地域の皆様に公開して、地域の歴史を通じて郷土への愛着心や誇りを持っていただくための一助になればと願っております。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、ご理解とご協力を賜りました地元岩出地区の皆様をはじめ関係各位並びに南勢志摩県民局農水商工部の方々に厚く感謝申し上げます。

平成18年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水康夫

例 言

1 本書は、三重県度会郡玉城町岩出地内に属する岩出遺跡群の、第5次、第7次、第8次の発掘調査報告書である。

2 各調査は、平成15年度及び平成16年度の一般農道整備事業玉城南部地区に伴って緊急の発掘調査を実施したものである。

3 調査の体制は以下のとおりである。

〈岩出遺跡群第5次調査〔岩出遺跡群清水地区（第1次）調査〕〉

調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター
調査研究Ⅱグループ
主幹兼GL 新田 洋
技師 池本浩弥

調査期間 平成15年10月27日～10月31日

〈岩出遺跡群第7次調査〔岩出遺跡群ケカノ辻地区（第6次）調査〕〉

調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター
調査研究Ⅱグループ
主事 奥野 実
主事 大村伸一

調査期間 平成16年3月2日～3月9日

〈岩出遺跡群第8次調査〔岩出遺跡群清水地区（第2次）調査〕〉

調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター
調査研究Ⅱグループ
主幹 木本勝己
主査 中川 明

調査期間 平成16年5月20日～平成16年8月13日

4 発掘調査の経費は、三重県農水商工部が負担した。

5 本報告書の作成業務は、執筆及び全体編集は木本勝己が担当し、挿図等の作成は木本勝己、中川明が行った。

凡 例

〈地図類〉

- 1 本報告書で使用した地図類は、国土地理院発行1/25,000地形図、玉城町都市計画図である。
- 2 これらの地図については、国土調査法の日本測地系による座標第VI系（旧国土座標）で表現されているために、平成14年4月から施行されている世界測地系・測地成果2000には対応していない。
- 3 図方位は全て座標北で示している。なお、磁針方位は西偏約6°30′（平成10年）である。

〈遺構類〉

- 1 遺構平面図は、測地成果2000に対応している。
- 2 土層断面図は、層の区分を実線で、調査区壁面及び採録深度に相当する部分を一点鎖線で示している。
- 3 土層断面図等の土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帳』（日本色研事業株式会社 19版 1997年）を用いた。
- 4 本報告書の遺構番号は、岩出遺跡群内の過去の発掘からの通算番号にしている。（但し発掘調査があった年度毎に百単位でくりあげた上で、一の位は1から始めている。同年度調査において調査地区が複数の場合は、遺構検出地区を明確にするために欠番もありうる。）

- 5 遺構番号の頭につく略符号は以下を表している。

S B…………掘立柱建物 S A…………柵 S K…………土坑 S D…………溝
S Z…………性格不明遺構 P i t…………ピット（小穴・柱穴）

- 6 遺構一覧表は、以下の要領で記載している。

岩出遺跡群遺構番号…岩出遺跡群内で行われた発掘で検出された遺構の通算番号である。

地区…第8次調査区でのA地区かB地区かを表す。

検出時遺構番号…現地調査で検出時に使っていた仮遺構番号である。

性格…遺構の性格を表す。

出土遺物時期…遺構から出土した遺物の時期をあらわす。なお、時期区分は、伊藤裕偉氏の南勢地区の中世の時期区分に基づいた^①。具体的には以下の時期である。

I期…11世紀第II四半期～12世紀第IV四半期頃

II期…12世紀第IV四半期末～14世紀第I四半期頃（遺物内容によって前期〈IIa期〉、後期〈IIb期〉に分けられる。）

III期…14世紀第II四半期～15世紀第II四半期頃（遺物内容によって前期〈IIIa期〉、後期〈IIIb期〉に分けられる。）

IV期…15世紀第III四半期～16世紀第IV四半期頃

小地区番号…遺構の存在した小地区（グリッド）番号である。

長さ・幅・深さ…長さ・幅は、遺構のそれぞれの最長部を、深さは遺構の最深部で計測した数値である。なお、さらに調査区外へ続くと考えられる遺構や途中から滅失している等の遺構もあるが、総て調査区内で確認された遺構分の数値である。

備考…その他特にその遺構の特徴となる事柄があれば記した。

〈遺物類〉

1 本報告書の出土遺物実測図は1／4である。

2 出土遺物観察表は、以下の要領で記載している。

報告番号…出土遺物実測図挿図掲載番号である。

登録番号…実測段階の登録番号である。

器種…遺物の器種を示す。

地区…第8次調査区における遺物の出土地区（A地区かB地区か）を表す。

出土位置…出土時の位置の小地区（グリッド）番号である。

出土遺構…出土した遺構（岩出遺跡群内通算遺構番号で表示）である。

取上時遺構名…出土遺構の現地調査時の仮遺構番号である。

法量（cm）…遺物の法量である。「口」は口縁部径、「底」は底部径、「高台」は高台部径、「鏝」は鏝部径、「穴」は穴部径、「高」は高さ、「長」は長さ、「幅」は幅、「厚」は厚さを示す。なお数値はそれぞれの部位の最大径で内法や実測段階時の置点ではない。

調整・技法の特徴…主な特徴を示した。「内」は内面、「外」は外面を示す。

胎土…小石等の混和材を除いた素地の緻密さを、「密」「やや密」「やや粗」「粗」で示した。

焼成…焼成の度合いを表す（並か良か）

色調…その遺物の色調を記載した。表記は前記『新版標準土色帳』による。

残存度…ある部位を12分割した際の残存度をもとに求めた残存割合である。全体が完全に残っているものは「完存」、ある部位が完全に残っているものは「高台完存」などと記した。

備考…その他特にその遺物の特徴となる事柄があれば記した。

〈写真図版〉

1 出土遺物の写真図版の番号は、出土遺物実測図挿図掲載番号（出土遺物観察表報告番号）と対応している。

2 出土遺物の写真図版は、縮尺不同である。

〔註〕

- ① 伊藤裕偉「楠ノ木遺跡」（『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告』第3分冊 三重県埋蔵文化財センター 1992）及び、伊藤裕偉「岩出地区内遺跡群発掘調査報告―一度会郡玉城町岩出所在、ケカノ辻・角垣内・蚊山地区の調査―」（三重県埋蔵文化財センター 1996）

本文目次

I	前言	1
1	調査の契機	1
2	調査の経過（第8次調査）	1
3	調査の方法（第8次調査）	2
II	位置と環境	7
1	位置と地形	7
2	歴史的環境	7
III	層序と遺構（第8次調査）	9
1	層序	9
2	遺構	9
IV	遺物（第8次調査）	24
V	第5次調査	43
1	調査の経過と方法	43
2	調査の成果	43
VI	第7次調査	45
1	調査の経過と方法	45
2	調査の成果	45
VII	結語	48
1	SD701について	48
2	掘立柱建物、柵について	48
3	遺物について	49
4	岩出中世集落について	50

挿図目次

第1図	遺跡位置図	4
第2図	岩出遺跡群遺跡範囲図	5
第3図	調査区位置図・範囲確認調査試掘坑配置図	6
第4図	A地区遺構平面図	12
第5図	B地区遺構平面図（1）	13
第6図	B地区遺構平面図（2）	14
第7図	土層断面図（1）	15
第8図	土層断面図（2）	16
第9図	SD701各部断面図	20
第10図	各土坑断面図	21
第11図	掘立柱建物、柵平面図・断面図	22
第12図	遺物出土状況図	23
第13図	出土遺物実測図（1）	25
第14図	出土遺物実測図（2）	26
第15図	出土遺物実測図（3）	27
第16図	出土遺物実測図（4）	28
第17図	出土遺物実測図（5）	29

第18図	出土遺物実測図 (6)	30
第19図	出土遺物実測図 (7)	31
第20図	出土遺物実測図 (8)	32
第21図	出土遺物実測図 (9)	33
第22図	出土遺物実測図 (10)	34
第23図	出土遺物実測図 (11)	35
第24図	出土遺物実測図 (12)	43
第25図	第5次調査区遺構平面図・土層断面図	44
第26図	出土遺物実測図 (13)	46
第27図	第7次調査区遺構平面図・土層断面図	47

表 目 次

第1表	遺構一覧表 (1)	17
第2表	遺構一覧表 (2)	18
第3表	遺構一覧表 (3)	19
第4表	出土遺物観察表 (1)	36
第5表	出土遺物観察表 (2)	37
第6表	出土遺物観察表 (3)	38
第7表	出土遺物観察表 (4)	39
第8表	出土遺物観察表 (5)	40
第9表	出土遺物観察表 (6)	41
第10表	出土遺物観察表 (7)	42
第11表	出土遺物観察表 (8)	44
第12表	出土遺物観察表 (9)	46
第13表	第8次調査区土器組成	49
第14表	大溝S D 701土器組成	49

写真図版目次

図版1	第8次調査区 (1)	53
図版2	第8次調査区 (2)	54
図版3	第8次調査区各遺構 (1)	55
図版4	第8次調査区各遺構 (2)	56
図版5	第8次調査区各遺構 (3)	57
図版6	第8次調査区各遺構 (4)	58
図版7	第8次調査区各遺構 (5)・第7次調査区	59
図版8	第8次調査区出土遺物 (1)	60
図版9	第8次調査区出土遺物 (2)	61
図版10	第8次調査区出土遺物 (3)	62
図版11	第8次調査区出土遺物 (4)	63
図版12	第8次調査区出土遺物 (5)	64
図版13	第5次・第7次調査区出土遺物	65

I 前 言

1 調査の契機

岩出遺跡群は、行政上は度会郡玉城町岩出に所在する。玉城町遺跡番号は302である。

岩出遺跡群の過去の発掘調査については、近畿自動車道（勢和～伊勢）建設に関わり、平成元年度には、岩出遺跡群第1次調査が所り垣地区で行われた。また同じくこの年度には、岩出遺跡群第2次調査が左郡地区で行われた^①。

さらに、県道岩出新田線建設に関わり、平成2年度には岩出遺跡群第3次調査がケカノ辻・角垣内地区で、また平成4年度には岩出遺跡群第4次調査が蚊山地区で行われた^②。

以後の当遺跡群にも関わる道路建設事業については、農産物収穫輸送等を円滑にすることによる農業振興の必要性から一般農道整備事業玉城南部地区による新農道の建設が行われてきていたが、平成15年度以降はその最終地点として岩出地内の北西部にまで及ぶこととなった。そこで、平成15年度と平成16年度の同事業に関わって緊急発掘調査の必要性が生じた。

平成15年7月10日・11日には、同字清水地区において範囲確認調査を行った。道路建設予定地に8ヶ所の試掘坑を開けて調査した結果は、事業地内1,830㎡に平安時代末～鎌倉時代前半にかけての遺構が検出された。そこで、当事業の主体者である三重県農水商工部南勢志摩県民局農林水産商工部と当センターで協議を行った。その結果、道路建設による現状変更に伴う部分の遺跡記録保存のための緊急発掘調査が、2回に分けて行われることになった。

まず、第1回目の調査（岩出遺跡群第5次調査）

が平成15年の10月27日～31日に行われた。最終調査面積は100㎡である。

平成15年11月7日には、前述の前回範囲確認調査の延長上にあたるケカノ辻地区の一般農道整備事業予定地内で新たな範囲確認調査（岩出遺跡群第6次調査）を行った。試掘坑を4ヶ所設定して調査した結果は、現表土以下の土層は、砂利採集及び南勢水道水道管理設のために攪乱さえていて遺構・遺物ともになかった。この結果、試掘対象範囲の980㎡は本発掘調査の必要性はなく工事にも差し支えないと判断したが、但し工事中新たな埋蔵文化財が発見されたときは工事を中断し当センターに連絡するように、同事業主体者に通知した。

さらに、平成16年2月2日にも、ケカノ辻地区の一般農道整備事業予定地内に試掘坑を1ヶ所を設定して範囲確認調査を行った。この結果、平安時代末から鎌倉時代前半を中心とした遺構が存在することが明らかになり、300㎡が保存対象になった。そこで同事業主体者と協議した結果、道路建設での現状変更部分の、遺跡の記録保存のための発掘調査が早急に必要になり、平成16年3月2日～3月9日まで岩出遺跡群第7次調査として行われた。最終調査面積は、65㎡である。

平成16年度には、平成15年7月の範囲確認調査の結果から残されていた第2回目の調査が、大規模な発掘調査として平成16年5月20日～8月13日まで清水地区で行われた。最終調査面積は、1,645㎡である。これが、岩出遺跡群第8次調査である。

2 調査の経過（第8次調査）

(1) 調査の経過

調査区は東西2地区に分かれており、調査は6月から西側のA地区の調査から開始した。A地区は遺構密度も比較的薄かったので、6月下旬にはB地区

の調査に入った。この発掘調査地区と極めて近い位置にある過去の岩出遺跡群第3次調査の結果や、この調査の契機となった平成15年7月の範囲確認調査での試掘の結果から遺構密度は高いと予想された

が、特に調査面積の広いB地区では当初の予想通り高い密度で遺構を検出した。

さらに、B地区では、この地区の南北に端から端まで通る大溝（SD701）が検出され、その掘削に予想以上の期間がかかり、当初予定よりも半月ほど調査期間が延び、8月13日にすべて終了した。

以下、発掘調査の経過を調査日誌等により辿る。

- 6月2日 A地区で重機による抜根作業、表土掘削開始。
- 6月7日 作業員10名で作業スタート。
- 6月9日 包含層掘削開始。
- 6月10日 A地区東半分で人力による遺構検出掘削開始。B地区で、重機による表土掘削開始。
- 6月18日 ローリングタワーによるA地区東側半分全景写真撮影（完掘状態）
- 6月23日 B地区中間部分で遺構検出・掘削開始
- 6月26日 A地区西側部分で遺構検出掘削開始・個別遺構実測図作成（29日 7月7日・8日・9日も）
- 7月2日 ローリングタワーによるA地区全景写真撮影（完掘状態）
- 7月5日 A地区壁面土層写真撮影（～7日）
- 7月7日 B地区西側部分で遺構検出・掘削開始
- 7月8日 B地区個別遺構実測図作成（20日・21日・22日も）
- 7月9日 A地区遺構平面実測図作成（12日、14日も）
B地区東側部分で遺構検出・掘削開始
- 7月12日 B地区個別遺構写真撮影（23日・27日も）
- 7月13日 A地区土層断面実測図作成（22日、29日も）
- 7月26日 ラジコンヘリによるA・B両地区全景の空中写真撮影（完掘状態） ローリングタワーによるB地区全景写真撮影（完掘状態） 現場撤収作業

7月27日 B地区の遺構平面実測図作成（28日・29日も）

7月29日 B地区土層断面実測図作成 壁面土層写真撮影

8月13日 現地引渡し、調査期間終了

なお現地調査については、下記の作業員の方々のご参加により、恙なく進行し終了することができた。ここにご芳名を記し感謝の意を表したい。

（現地調査作業員）

小林 仁、中川源吉、高木洋惣治郎、松本六太郎

森本虎喜、松田敏己、岩崎武雄、深堀俊明

沖塚克司、酒井光広、西堀友子、岩崎ひろ子

池山昌子、池山多恵子、中川はな子、吉中貞利

西田忠司、米山博茂、中村 功、竹内重雄

川又一雄、中村辰雄、坂本利文、矢本勝敏

佐田淳子、中村 桂、橋本敏孝（順不同、敬称略）

(2) 当発掘調査にかかる普及・公開

当発掘にかかる普及・公開事業のために、次の広報を発行した。

・「岩出遺跡群発掘調査ニュース1」（2004年5月発行 岩出・中角両地区全戸回覧）

・「岩出遺跡群発掘調査ニュース2」（2004年7月発行 岩出・中角両地区全戸回覧）

(3) 文化財保護法による諸通知

文化財保護法（以下法）等による諸通知は、以下により行っている。

・法に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項（県教育長あて）

平成15年10月8日付け勢農第9-39号

・法第58条の2第1項（県教育長あて）

平成16年5月25日付け教理第74号

・遺物紛失にかかる文化財発見・認定通知（伊勢警察署長あて）

平成16年9月7日付け教理第4号の5

3 調査の方法（第8次調査）

(1) 調査区の設定

調査区は道路建設予定地という関係上等より、南北に細長い2つの調査区が設定された。西側をA地

区、東側をB地区とした。

調査では、両地区内それぞれを杭により4㎡正方の柵目で区切るにより小地区（グリッド）単位

であらわした。B地区は、東西方向がアラビア数字で東から西へ1・2・3・・・38、南北方向がアルファベット（大文字）で、南から北へB・C・Dとして、1Bグリッド、1Cグリッド・・・というようにしていった。

また、A地区については、東西方向がアラビア数字で東から西へ51・52・53・・・65、南北方向がアルファベット（大文字）で、南から北へA・B・C・Dとして、51Bグリッド、51Cグリッド・・・というようにしていった。

アラビア数字の39～50番を欠番にしたのと、B地区から附番したのは、両調査区の位置形状や調査計画上の理由による。なお、A地区とB地区のグリッド割りは座標軸とは無関係のそれぞれ任意のものである。

(2) 掘削の方法

A地区の掘削は、表土の運搬上より、東側から着手して西側へと進めていった。表土は重機で掘削し、包含層から遺構検出面までと、各遺構掘削は人力で行った。

B地区は調査区の形状より作業能率上、中間部分、西側部分、東側部分という順で進めていった。

表土掘削は重機で行い、包含層も出土遺物の密度が大変少なかったもので、重機で行っていった。遺構として大溝（SD701）が検出されだしたので、この溝にトレンチを入れた結果、上層部は重機でできると判断し重機掘削を行っていったが、下層部と溝壁面は人力掘削を行った。B地区の他の各遺構検出については、人力掘削を行った。

(3) 出土遺物の回収

出土遺物は取り上げに際し、専用ラベルに出土地区、出土グリッド、出土遺構名、出土年月日を記入したものを添えた。

(4) 図面作成について

遺構検出段階で1/40の略測図（遺構カード）を作成し、これをもとに1/100の遺構平面略図を作成した。

掘削完了後には、遺構平面実測図、および土層断面実測図は1/20で作成し、個別遺構実測図は1/

20で、遺物出土状況は1/10で作成した。

(5) 遺構写真について

各地区の全景写真は4×5版ウスタカメラと補助として35mmカメラも使い撮影した。撮影方法としてはローリングタワーによる撮影の他、4×5版ウスタカメラを搭載したラジコンヘリによる撮影も行った。個別遺構写真は4×5版ウスタカメラと35mmカメラを併用して撮影した。フィルムはモノクロとカラーリバーサルを用いた。

(6) 整理作業とその方法

① 遺物類の整理、記録

現地で出土した遺物は当センターへ搬送後、洗浄・注記・接合作業を行った。

平成16年度中に発掘調査の報告書掲載遺物と参考遺物、未掲載遺物の区別をし、報告書掲載遺物・参考遺物については実測作業を行った。

実測図が完成した遺物は、報告書作成のための観察や図版作成を平成16年度中に行い、写真撮影は平成17年度になってから行った。

遺物写真は、報告書掲載資料の中から主だったものを選び、4×5版（ウスタカメラ）で撮影した。

報告書掲載遺物と参考遺物については、一点ずつ専用ラベルを添付し、報告書掲載遺物については報告番号順にも整理した。両遺物とも今後の活用にも備えるために当センター内の収蔵スペースで保管している。未掲載遺物については袋詰めにして整理箱に収納し専用収蔵庫へと搬入した。

② 発掘記録類の保管

発掘作業の記録類には、調査関連図面（遺構平面実測図、土層断面実測図、個別遺構実測図など）、遺構カード（1/40縮尺）、調査日誌、写真類、出土遺物実測図がある。これらは所定の番号を与え当センターで保管している。

(7) 遺跡名称について

岩出地区内の遺跡に関しては、過去には蚊山遺跡として報告書が刊行されたが、岩出地区にある遺跡が地区全域に広がっていることと、遺跡が時代的にも複合的にわたることから、1996年当センター発行の報告書『岩出地区内遺跡群発掘調査報告一度会郡

玉城町岩出所在、ケカノ辻・角垣内・蚊山地区の調査一』以降は、遺跡名称を次のようにして整理して把握することとなった。

〈岩出地区内遺跡群〉

岩出遺跡群角垣内地区（旧石器）

左郡古墳群（古墳）

岩出遺跡群（中世～近世）

岩出城跡・岩出城下町跡（近世初頭）

したがって、中世の遺構・遺物が中心の今回の発掘に関わる遺跡は、上記の「岩出遺跡群（中世～近世）」に属する。

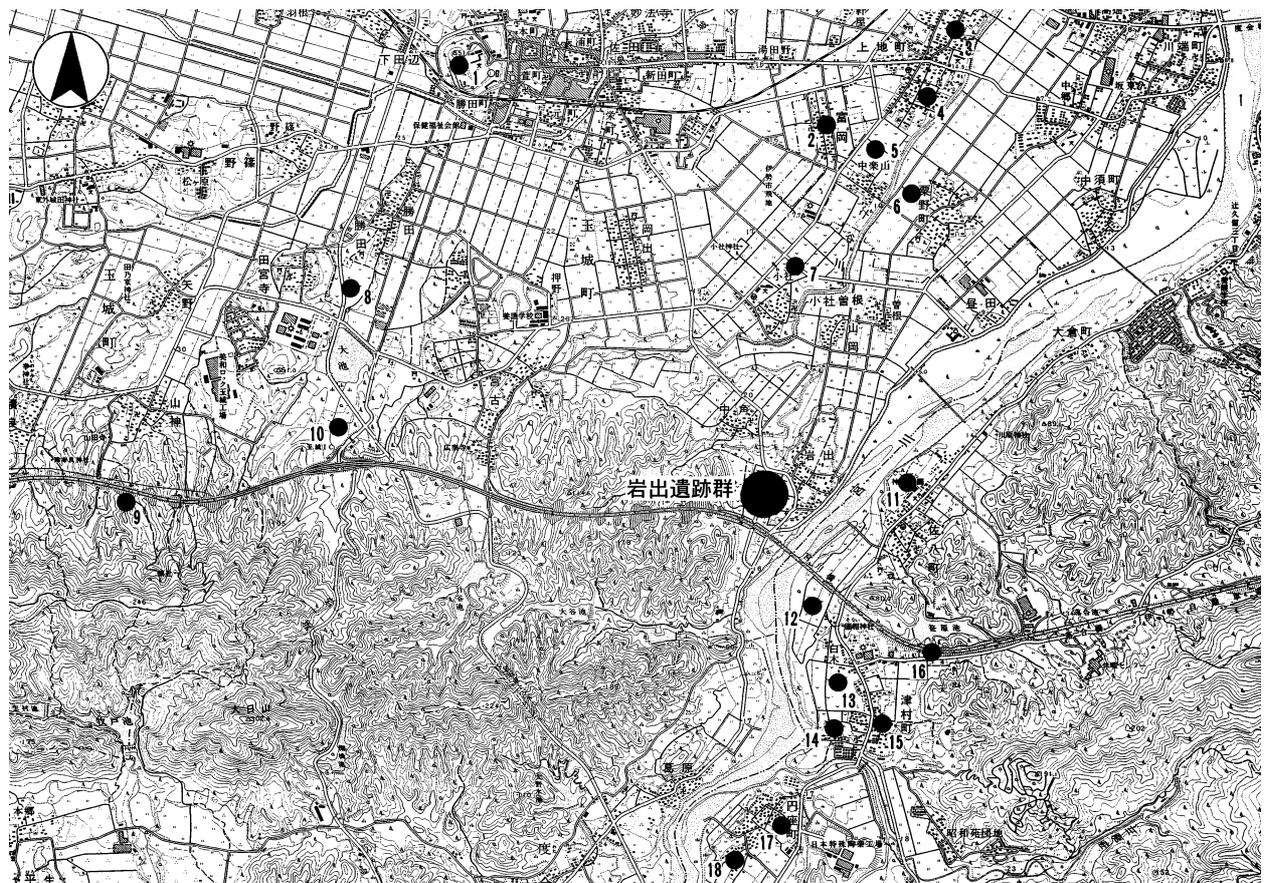
今回の報告書で扱った発掘調査名は、岩出遺跡群内の発掘調査通算回数によるが、「例言」には、小字名とその小字内での発掘調査通算回数に基づいた発掘調査名称もそえた。

なお、岩出遺跡群内の発掘は、同一遺跡内という

ことで研究上の観点から、遺構番号は発掘のあった年度ごとに通算して表す（但し新たな調査では、次の百番台にくりあげて1から附番する）ことになっている。

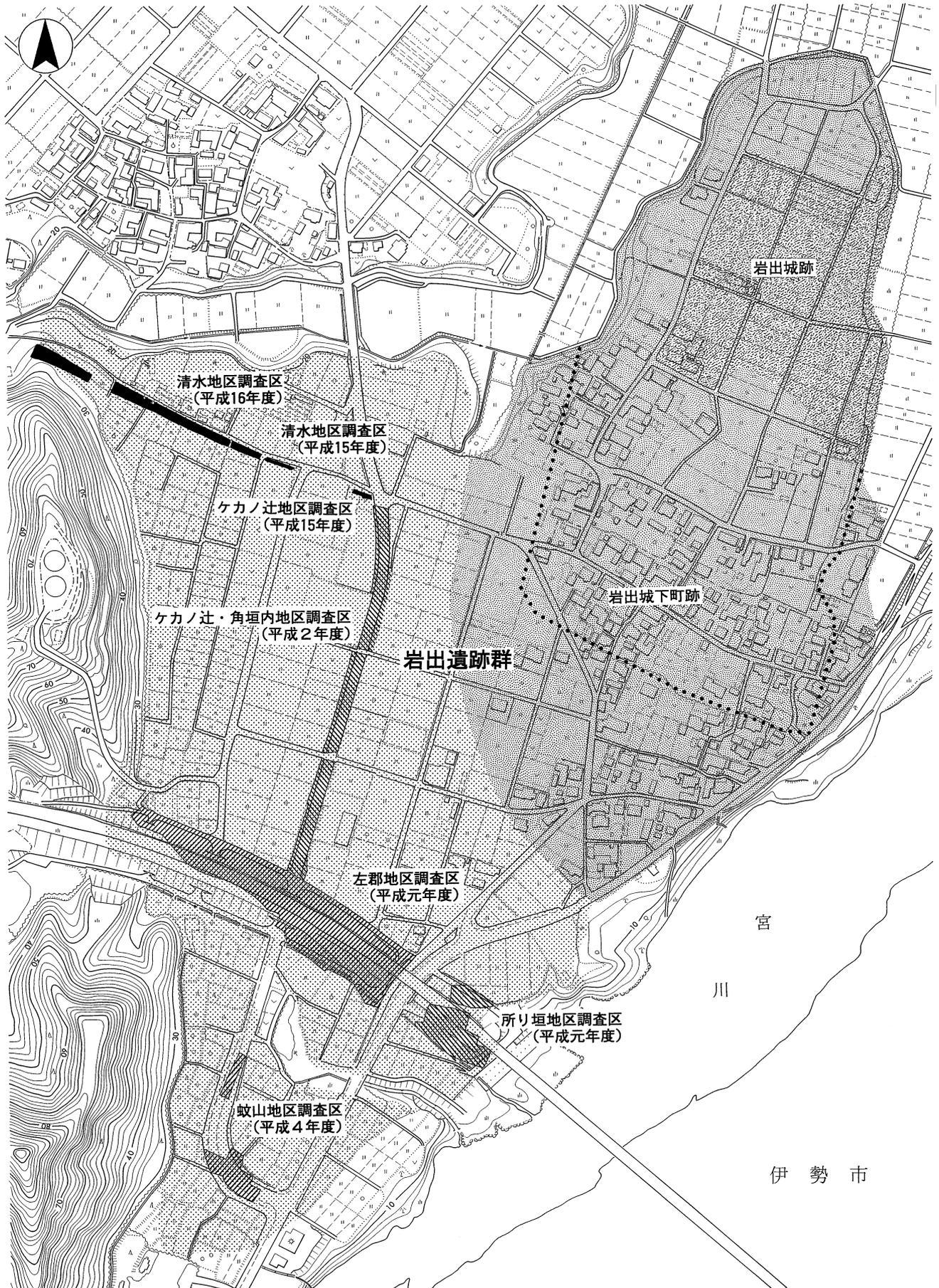
〔註〕

- ① 当遺跡が蚊山遺跡と呼ばれていた頃の調査で、報告書は以下である。
 - ・ 稲本賢治ほか「蚊山遺跡所り垣地区」（『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告』第4分冊 三重県埋蔵文化財センター 1992）
 - ・ 前川嘉宏ほか「蚊山遺跡左郡地区」（『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告』第6分冊 三重県埋蔵文化財センター 1993）
- ② 伊藤裕偉『岩出地区内遺跡群発掘調査報告一度会郡玉城町岩出所在、ケカノ辻・角垣内・蚊山地区の調査一 三重県埋蔵文化財センター 1996

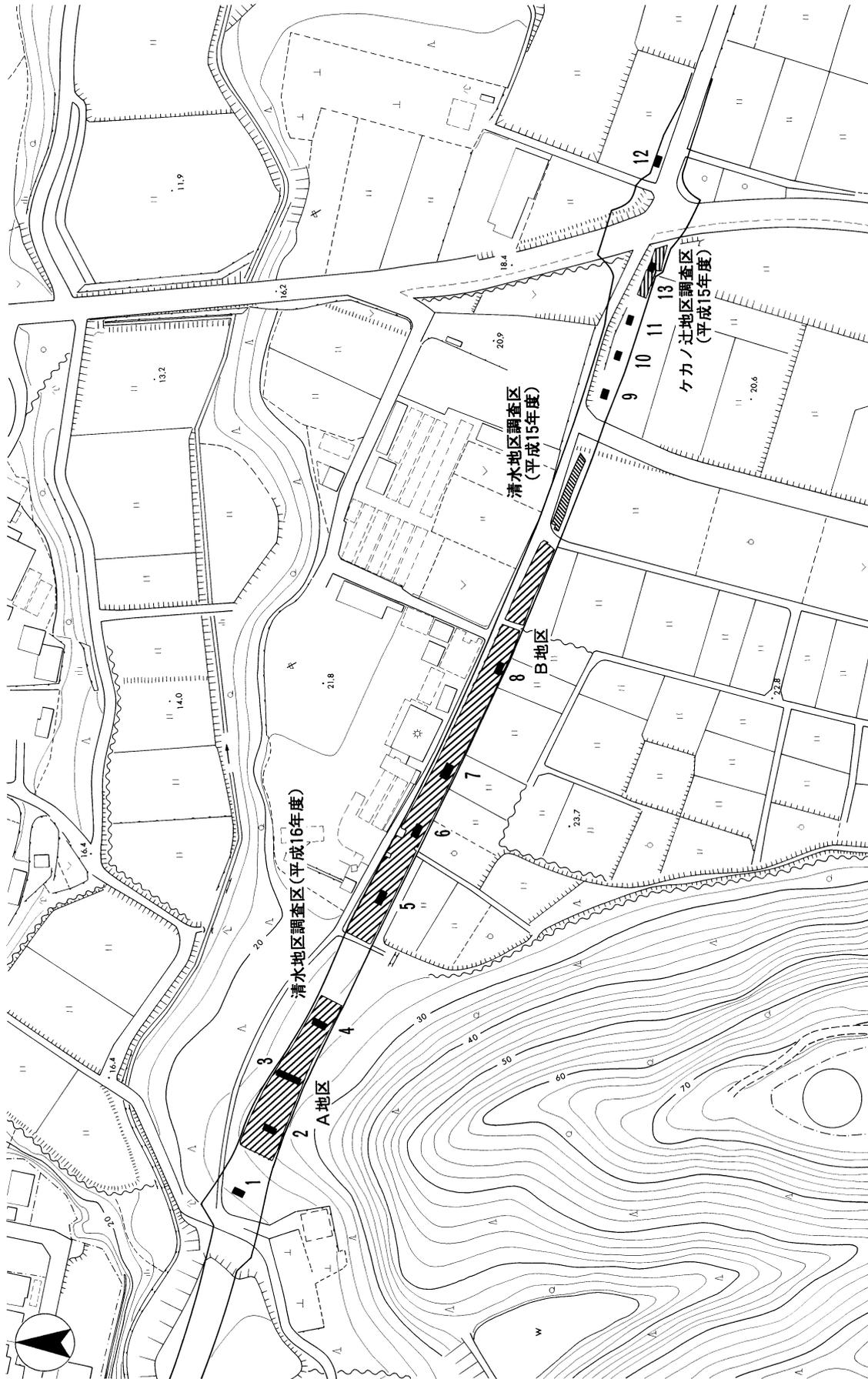


- | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|
| 1 田丸城跡 | 2 富岡里浦遺跡 | 3 下通遺跡 | 4 上通遺跡 | 5 中楽山遺跡 | 6 汁谷川東遺跡 |
| 7 小社遺跡 | 8 上の山遺跡 | 9 山神遺跡 | 10 楠ノ木遺跡 | 11 佐八藤波遺跡 | 12 中ノ垣外遺跡 |
| 13 中新田遺跡 | 14 西垣内遺跡 | 15 北垣内遺跡 | 16 落合古墳群 | 17 中道遺跡 | 18 塚の上遺跡 |

第1図 遺跡位置図（1：50,000）〔国土地理院「伊勢」・「国東山」1：25,000より〕岩出遺跡群以外の●は周辺の主な遺跡



第2図 岩出遺跡群遺跡範囲図(1:5,000) ……は地籍図から想定される岩出城外郭(土塁・堀)・調査区は各年度本調査区



第3図 調査区位置図・範囲確認調査試掘坑配置図 (1 : 2,000)

※発掘調査区に沿って通る実線(一)は、一般農道整備事業玉城南部地区での道路建設のための事業地境界線を表す。

- ・ 1～8 平成15年7月10日・11日に行われた範囲確認調査での試掘坑位置
- ・ 9～12 平成15年11月7日に行われた範囲確認調査での試掘坑位置
- ・ 13 平成16年2月2日に行われた範囲確認調査での試掘坑位置

II 位置と環境

1 位置と地形

一級河川である宮川は、三重県と奈良県の県境にある大台ヶ原（1,695m）を源流とし、多気郡、度会郡の山間部を南西から北東方向へとゆるやかな蛇行で流れて、度会郡玉城町岩出付近で伊勢平野南端部に出る。岩出地区は宮川河口からは約11km上流の宮川左岸にあり、愛宕山山裾から続く、標高20m前後の河岸段丘上にある。

このあたりは、東西に走る大断層である中央構造線が北側に近接して通る。地下基盤は片理がよく発

達した緑色片岩でその上に黄褐色～黄橙色の地山土があり、さらに黒色シルト（黒ボク）が堆積している。

近辺には昔から集中豪雨での宮川の氾濫による被害を被ってきた地域も多いが、この岩出地区は標高的にその被害を免れる位置にあり、また農耕にも適した地形と土壌を持つことから人々の定住には適していたといえる。

2 歴史的環境

(1) 各時代の遺構・遺物

岩出地区からは、過去の発掘などから旧石器時代～近世にわたる遺物、古墳時代、中世の遺構と、豊富な遺物、遺構が出ている。各時代ごとにそれらの概要を述べる。

旧石器時代の遺物としては、角垣内地区からナイフ形石器などが、左郡地区からは細石刃核が見つかっている。また所り垣地区からも、旧石器時代と推定される石核、チャート製の縦長剥片が見つかっている。

縄文時代の遺物としては、角垣内地区より、縄文草創期と推定される木葉形尖頭器、剥片などが見つかっている。また縄文後期と推定される土器片少量が見つかっている。左郡地区からは、縄文土器の深鉢片が見つかっている。

弥生時代の遺物としては、左郡地区より緑泥片岩製の磨製石斧と、弥生土器である壺片が見つかっている。

古墳時代では、平成元年度に左郡地区で行われた岩出遺跡群第2次調査と平成2年度にケカノ辻・角垣内地区で行われた第3次調査を通して、左郡地区を中心に23基の古墳が確認されて、左郡古墳群と呼ばれている。円墳14基、方墳7基、墳形不明2基である。5世紀末頃から7世紀前半に築かれたと見な

される。形成の流れとしては、「円墳→円墳・方墳」の流れが存在していたものと考えられている。

古墳が築かれた当時の地形は蚊山地区と左郡地区の間に小規模な谷があり、左郡地区から角垣内・ケカノ辻にかけて、低く平らな台地が広がっていて、この南斜面に築かれることで、群集墳になっていったと考えられている。これら古墳からは、須恵器の杯身、杯蓋、高杯、甕、埴瓶、埴や土師器の甕、高杯、椀、壺、杯などが出土している。

中世の遺構・遺物については、過去の発掘調査より、各小字内の各調査区でたくさんの遺構が検出され、膨大な量の遺物が採集された。

所り垣地区では、平成元年度に行われた第1次調査で、中世墓1基と、掘立柱建物4棟、土坑29基、溝23条が検出されたが、ほとんどが中世のものであった。この地区の遺物は、平安時代末様から鎌倉・室町時代の鍋・皿などの土師器を中心に、山茶椀・山皿などの陶器、その他、輸入青磁、石製品、瓦、鉄製品などである。土師器は南伊勢系であり、陶器は瀬戸産、常滑産である。

また、左郡地区では第2次調査で、中世の遺構では、掘立柱建物45棟、柵1条、井戸12基、中世墓40基、土坑70基、溝33条、道路2条、集石遺構1基を検出した。

遺物では、ほとんどが、南伊勢系の皿・鍋などの土師器類と、渥美、知多、猿投、瀬戸産の山茶碗を中心とした陶器類で、13世紀のものが多くみられた。その他、輸入青磁・白磁や、銭貨などもみられた。

ケカノ辻・角垣内地区では第3次調査時に、最小でも19棟の掘立柱建物と5列の柱列があることが確認された。また、井戸8基と中世墓は不明確なものも含め17基、その他多数の土坑、溝が検出された。

遺物では、ほとんどが南伊勢系の皿・鍋などの土師器類と、渥美、知多、猿投、瀬戸産の山茶碗を中心とした陶器類、その他、輸入青磁・白磁や、鍋、小刀、釘などの金属製品類、鍋、温石、紡錘車などの石製品類である。

蚊山地区では平成4年度に行われた第4次調査で、中世の遺構として掘立柱建物2棟、土坑1基、溝2条、ピットが検出された。遺物としては、土師器類を中心に、陶器・磁器類も若干検出された。

近世の遺構としては、第4次調査では蚊山地区で瓦窯、土坑を確認したが、土坑には粘土採掘坑と考えられるものが多数ある。瓦窯は、平窯と考えられる。窯は同じ窯を第1次窯と第2次窯として使用している。ここで近世の遺物として、陶器・瓦が検出されている。

その他近世の遺物としては、岩出北東に位置する岩出城跡を中心に瓦片、陶器片なども表面採集されてもいる。

(2) 岩出地域の歴史的背景

古墳時代の古墳群の存在は、岩出地区が早くから歴史上の文化を受けてきた土地であったことを意味する。

また、中世の多数の遺構と膨大な遺物が出た背景は、岩出遺跡群の中心的性格が、平安時代末頃から室町時代に及ぶ中世を中心とした時期にあることを意味する。つまり、この地区内にあった中世集落の繁栄である。

左郡地区で確認できた掘立柱建物跡より、左郡地区の中世集落の形成・盛衰については、集落が形成され始めたⅠ期（12世紀中葉～13世紀初頭）、集落の原型がほぼ完成したⅡ期（13世紀前葉～13世紀中

葉）、集落の最盛期ともいうべきⅢ期（13世紀後葉～14世紀前葉）、集落の衰退から消滅期にあたるⅣ期（14世紀中葉～15世紀中葉）に分けて考えられている^①。

また、岩出地域には平安時代後期の11世紀初頭から室町時代末期の16世紀前葉の約500年間、伊勢神宮祭主大中臣氏の居館が存在していたと想定されている。

岩出祭主と呼ばれるのは長保3（1001）年、大中臣輔親からといわれ、明応年間（1492～1501）頃までは、「岩出殿」と呼ばれる祭主が確認できる。また祭主の実質的権限の強かった平安末期から鎌倉前期には、複数の仏殿（寺院）も建てられていた。このような岩出地区の中世の繁栄が中世遺跡・遺物の多さに関係している。

さらに岩出地域は、中世末期から岩出城が存在した。その城は関が原合戦の年（1600）には廃城となっているようである。城のあった位置の南側に続く現集落は地形図から想定される岩出城外郭内や岩出城下町跡に存在する。その位置からは、膨大なこの時期の遺跡・遺物も現在の集落下には存在すると考えられる。

〔註〕

① 前川嘉宏ほか「蚊山遺跡左郡地区」（『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告』第6分冊 三重県埋蔵文化財センター 1993）

（参考文献）

・ 稲本賢治ほか「蚊山遺跡所り垣地区」（『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告』第4分冊 三重県埋蔵文化財センター 1992）

・ 伊藤裕偉『岩出地区内遺跡群発掘調査報告—一度会郡玉城町岩出所在、ケカノ辻・角垣内・蚊山地区の調査—』三重県埋蔵文化財センター 1996

・ 『玉城町史 上巻』玉城町史編纂委員会 1995

Ⅲ 層序と遺構（第8次調査）

1 層序

A地区、B地区の土層の基本的層序を順に記述する。

愛宕山の山裾にあたり現況地は林であったA地区は、第1層である表土層は腐葉土に小礫がまばらに混じっていた。第2層は明黄褐色土（包含層1）、第3層が黒色土（包含層2）、第4層が黄褐色土（地山）であった。第4層の上に中世の遺溝が比較的明確に認められた。

ほぼ平坦な農道と田畑が現況地であったB地区の層序は、第1層は黒褐色土（耕作土）、第2層は明褐色土（包含層1）、第3層は暗褐色土（包含層2）、第4層は黒色粘質土（包含層3）、第5層はにぶい黄橙色土（地山）である。第5層上に中世の遺構が明確に認められた。ただし、包含層である第2層～第4層は場所によってはそのうちの一層、あるいは二層というところもあった。

2 遺構

A地区とB地区で検出した遺構は溝が24条、土坑101基、掘立柱建物7棟、塀・柵7列、集石範囲1ヶ所、性格不明遺構1基である。出土遺物より時期が分かるものは、平安時代末から、鎌倉時代を中心に室町時代にかけての中世の遺構が大半を占めた。以下主な遺構ごとに記述する。

なお、遺構からの出土遺物で南伊勢系土師器鍋は伊藤裕偉氏の編年^①を、山茶碗については藤澤良祐氏の編年^②を、貿易陶磁器（青磁・白磁）については山本信夫氏^③の分類を使う。

〈平安時代末～鎌倉・室町時代の遺構〉

S D 701 7～9グリッドあたりで県南勢水道埋設管のために分断されているものの、細長いB地区の東西を、端から端まで通り、長さ131.5m以上、幅1.82m、深さ0.8mと大規模な遺構である。

S D 702、S D 727、S D 737など、水の流れがこの溝に落ち込む付随する溝もいくつかある。平時の水の流れでは、もともと愛宕山の裾から流れてきた水は、ほぼ直交するS D 735、S D 736、S D 741を通してこのS D 701に流れこみ、勾配の関係から考えて東だけではなく、西側にも分けて出ていったものと思われる。

溝の壁面部分には、所々に段状部分もみられる。また、特に18グリッドから33グリッドにかけては、数ヶ所、底土の盛り上がった堰のような働きをする

ところもあることより、日照り続きの時は、これらの一部箇所が溜り水となったと考えられる。

各所各所の微妙に色の違う黒褐色の土層の堆積状態から、深さが変わりながらも長い時期にわたって機能していた溝と考えられる。

用途としては、岩出小字清水と中角小字向井との字界にそった位置で続いていることから、区画用の溝としての働きを第一に考えることができる。また、農業用水ともなったと考えられる。

溝底部を中心として、南伊勢系の土師器小皿・皿・鍋、渥美・湖西型、尾張型第6型式の山茶碗が大量に出土した。その他、瀬戸、猿投、常滑産陶器や輸入陶器（青磁碗等）も出土した。不用品の廃棄土場に使われたとも思われる。遺物より、Ⅱ期を中心にⅠ～Ⅲ期にわたる中世の広い時期にかけて機能していた遺構と考えられる。

S D 736 35B、35Cグリッドで確認された遺構で、S D 701と直行するように交わる。白磁碗が出土したが、華南一帯産で④群（C期）に相当する。遺物よりⅠ期の遺構と考えられる。

S D 727 28Bグリッド～36Bグリッドの間で確認されたが、29Bグリッド辺りでは、大溝S D 701に切られている。（仮）A段階～第1段階にかけての土師器鍋が出土した。遺物よりⅠ～Ⅱa期の遺構と考えられる。

S D 703 24C～30Cグリッドで確認された。長さ21.8m以上、幅0.8m、深さ0.6mである。龍泉窯系の青磁小皿・椀やいずれも渥美・湖西型第6型式に相当する山茶椀などが出土した。遺物よりⅡa期の遺構と考えられる。

S D 848 56C～59Cグリッドで確認されたが、56Cでは途切れている。深さ0.05mと非常に浅い。渥美・湖西型第6形式に相当する山茶椀、第1段階に相当する土師器鍋が出土した。遺物よりⅡa期の遺構と考えられる。

S D 747 大溝S D 701とほぼ平行して走り、S D 727へと続く。(仮)A段階～第1段階にかけてのものと考えられる土師器鍋などが出土した。遺物よりⅡa期の遺構と考えられる。

S K 847 58Cグリッドで確認された遺溝で、長さ0.96m、幅0.8m、深さ0.17mである。第1段階に相当する土師器鍋などが出土した。遺物よりⅡa期の遺構と考えられる。

S K 722 20B・20Cグリッドで確認された。長さ1.47m以上、幅0.32m以上、深さ0.62mで、大溝S D 701に切られている。陶器山皿・山茶椀、第2段階に相当する南伊勢系土師器鍋、同安窯系青磁などが出土した。遺物よりⅡa期の遺構と考えられる。

S K 707 20Cで確認された。長さ2.22m以上、幅0.86m、深さ0.42mである。砥石などが出土した。遺物よりⅡa期の遺構と考えられる。

S K 846 長さ0.84m、幅0.76m、深さ0.26mで、円形に近い浅い遺構である。二段に分かれる棚状の部分を持つ遺構で、土師器皿が比較的完形でまとまって出土したので遺物出土状況図も作成した。遺物よりⅡb期の遺構と考えられる。

S K 784 13～14Cグリッドで出土した遺構で長さ0.79m、幅0.59m、深さ0.29mである。南伊勢系の土師器皿がまとまって出土した。遺物よりⅡb期の遺構と考えられる。

S K 761 16～17Cグリッドで確認された。長さ3.04m、幅0.55m、深さ0.45mである。陶器山茶椀などが出土した。遺物よりⅡ期の遺構と考えられる。

S K 779 10Cグリッドで確認された。長さ1.02m

以上、幅0.3m以上、深さ0.24mである。調査区北側壁によって切られているが、楕円形の遺構と考えられる。土師器皿・鍋などが、比較的元の形を留めたまま出土したので、遺物出土状況図も作成した。遺物よりⅡ期の遺構と考えられる。

S K 794 12Cグリッドで確認された。長さ1.78m以上、幅0.61m以上、深さ0.64mである。南伊勢系の土師器羽釜・鍋などがまとまって出土した。遺物よりⅡ～Ⅲa期の遺構と考えられる。

S K 753 13～14Bグリッドで確認された。長さ1.94m以上、幅0.55m以上、深さ0.33mである。S D 701の南側壁面下部脇に存在した。土師器杯・皿の他、第3段階に相当する原型に近い土師器鍋がまとまって出土した。廃棄土坑と考えられる。遺物よりⅢb期の遺構と考えられる。

S K 800 10～11Cグリッドで確認された。長さ2.21m以上、幅0.64m以上、深さ0.45mである。南伊勢系の土師皿、第2段階や第3段階に相当する土師器鍋、鉄製品(釘など)、陶器天目茶椀などが比較的原形を留めたまま出土したので、遺物出土状況図も作成した。遺物よりⅡb～Ⅲ期の遺構と考えられる。

S D 702 19～33Cグリッドまで続き、長さ113.3m以上、幅0.5m、深さ0.14mであり、長さはS D 701に続いて長い、所々滅失箇所がある。第4段階に相当する土師器鍋、㊟群(E期)に相当する龍泉窯系青磁椀などが出土した。遺物よりⅡb～Ⅳ期の遺構と考えられる。

S K 754 16～19B・16～19Cグリッドで確認された。長さ11.29m以上、幅2.18m以上、深さ0.94mと細長い遺構である。S K 701と並ぶように存在するが、S D 701に切られている。土師器小皿、第1段階、第2段階、第4段階に相当する土師器鍋、渥美・湖西型第6型式に相当する山茶椀、陶器鉢・甕、土製錘、石鍋、鉄製釘などが出土した。遺物よりⅡ～Ⅳ期の遺構と考えられる。

〈時期不明・詳細時期不明遺構〉

S K 712 22Cグリッドで確認された。長さ1.35m以上、幅0.65m、深さ0.53mである。S K 713によって切られているが、ほぼ平行四辺形をした遺構で

ある。形状より土取り跡と考えられる。遺物は出土しなかった。

S K 713 22～23 C グリッドで確認された。長さ1.84m、幅1.02m、深さ0.75mである。形状より土取り跡と考えられる。出土した土師器小片より中世の遺構と考えられるが詳しい時期は不明である。

S K 714 22～23 C グリッドで確認された。長さ4.7m以上、幅1.0m、深さ0.59mである。形状より土取り跡と考えられる。出土した土師器小片より中世の時期の遺構と考えられるが詳しい時期は不明である。ただし、S K 713に切られる形であるので、時期はS K 713よりも古い遺構である。

S D 841 52 B、52 C グリッドで確認された。長さ8.3m以上、幅0.3m、深さ0.2mの遺構で、調査区をほぼ南北に横切る。形状、勾配より山裾の湧き水の通り道であったと考えられる。土師器小片が出土したことにより中世の溝と考えられるが、その詳しい時期については不明である。

S K 797 10 C グリッドで確認された。長さ1.6m以上、幅0.34m以上、深さ0.4mである。周辺の土坑同様土取り跡と考えられる。遺物は認められなかったので時期は不明である。

S K 801 8～9 C グリッドで確認された。長さ2.19m以上、幅1.36m以上、深さ0.55mである。棚状の個所がある遺構である。土師器小片が出土したので、中世の遺構といえるが、詳しい時期については不明である。

S K 843 52～53 B グリッドで確認された。長さ2.58m、幅2.62m、深さ0.21mの浅い遺構である。遺物は認められなかったので時期は不明である。

S K 844 53 B グリッドで確認された。長さ1.4m、幅0.94m、深さ0.16mである。遺物は認められなかったので時期は不明である。

S Z 725 25 B グリッドで確認された。調査区南壁によって切られているが残存部分から判断すると長方形の遺構である。北端にピット2基を持つ。形状より特別な意図で作られた遺構と判断できるが、その遺構の性格と時期については不明である。

S A 729 20～23 B グリッドで確認された。東西12mである。8基のピット列よりなるが、東側の3基

のピットは、S D 718中に存在する。ピットから出土した土師器小片より中世の遺構と考えられるが詳しい時期は不明である。

S A 730 22～23 B グリッドで確認された。東西2.8mである。4基のピット列よりなる。ピットから出土した土師器小片より中世の遺構と考えられるが詳しい時期は不明である。

S B 732 19～20 B グリッドで確認した。東西2間(3.8m)、南北1間以上である。ピットから出た土師器小片より中世の建物と考えられるが詳しい時期は不明である。

S B 734 26～27 B グリッドで確認した。東西2間(3.9m)南北1間以上である。3基の柱穴のうち西側と中央の2基はほぼ円形で、今回の発掘で掘立柱建物跡の柱穴としては幅約0.6m、深さ約0.3mと大きい。遺物は認められなかったので時期は不明である。

S B 829 31～33 B グリッドで確認した。東西3間(5.9m)南北1間以上である。遺物は認められなかったので時期は不明である。

S B 832 36～37 B グリッドで確認した。東西2間(2.9m)、南北1間以上である。遺物は認められなかったので、時期は不明である。

S B 833 36～37 B グリッドで確認した。東西2間(3.9m)以上、南北1間以上である。構成するピットに2ヶ所礎石があったことから掘立柱建物と分かった。遺物は認められなかったので、時期は不明である。

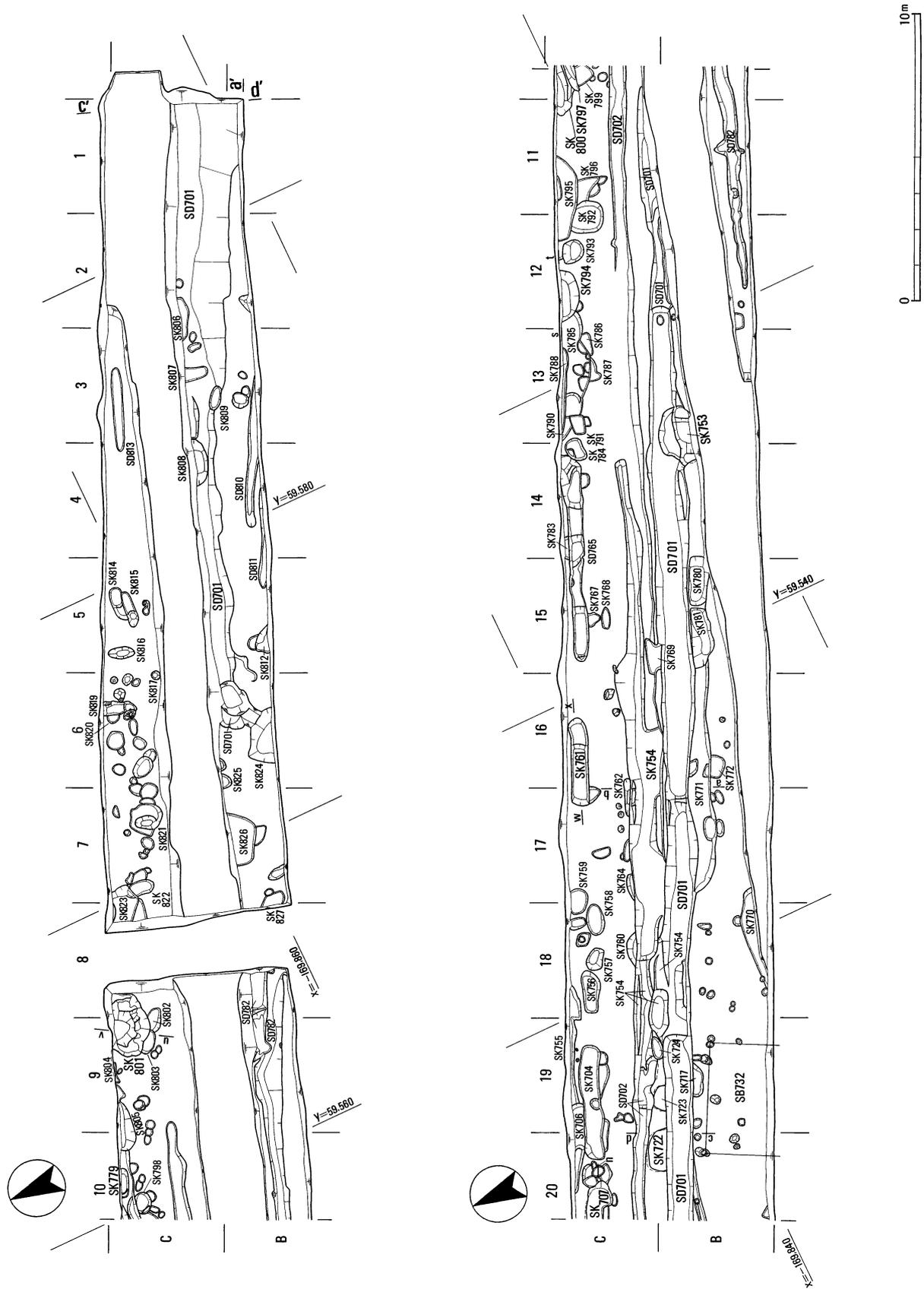
S B 849 南北1間(1.5m)東西2間(3.6m)である。6基の柱穴は、幅0.2m前後、深さ0.2m前後でほぼ円形である。規模的には小さいが、当調査で検出された唯一の全体の柱穴が確認された掘立柱建物である。出土した土師器小片により中世の建物と考えられるが、詳しい時期は不明である。

〔註〕

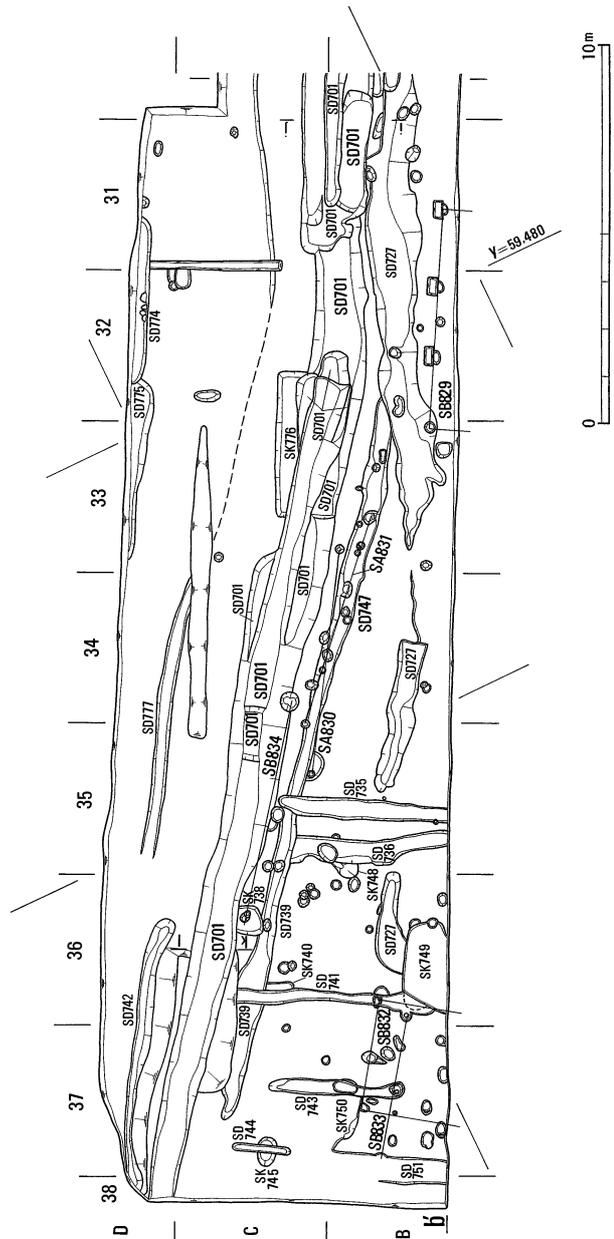
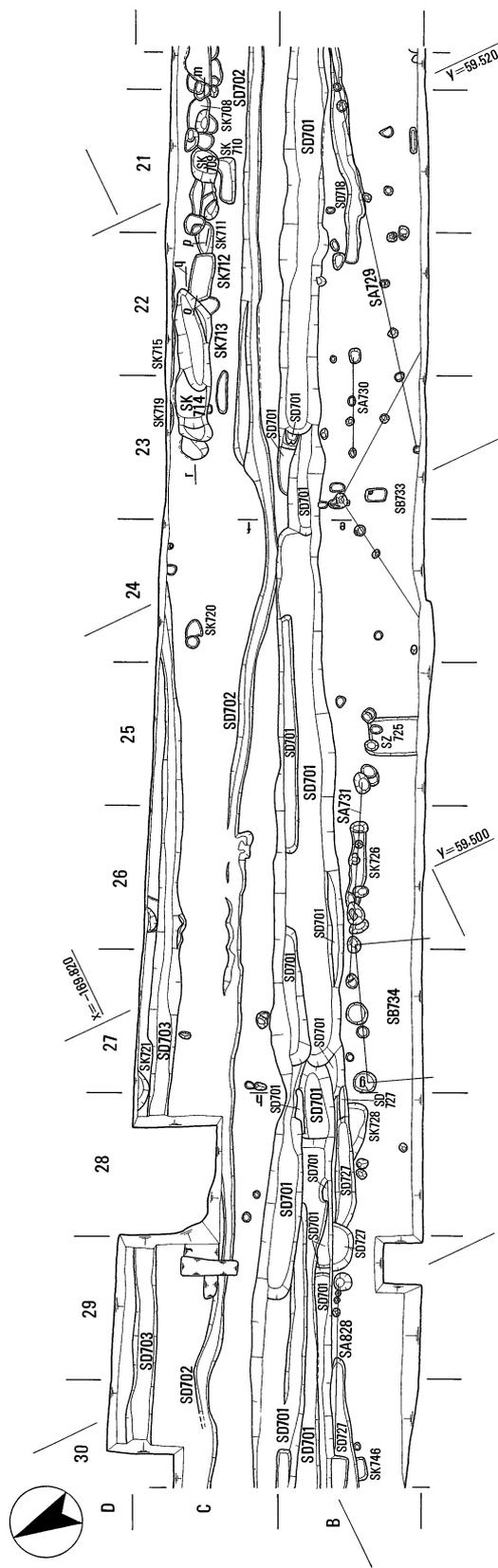
- ① 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」(『Mie history』vol. 1 三重歴史文化研究会 1990)
- ② 藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」(『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター 1994)
- ③ 山本信夫「中世前期の貿易陶磁器」(『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会 1995)



第4図 A地区遺構平面図 (1 : 200)

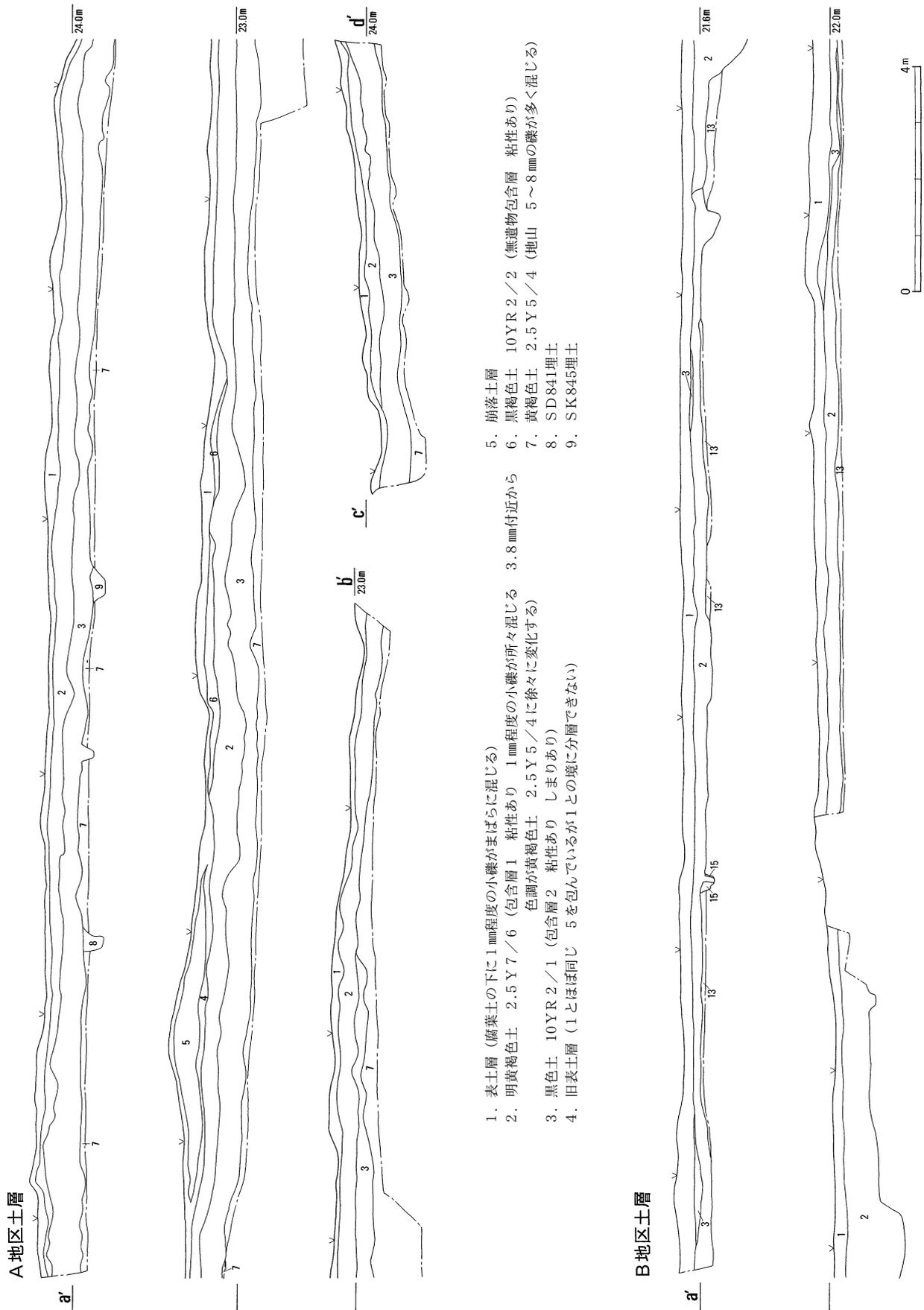


第5图 B地区遺構平面図(1) (1:200)

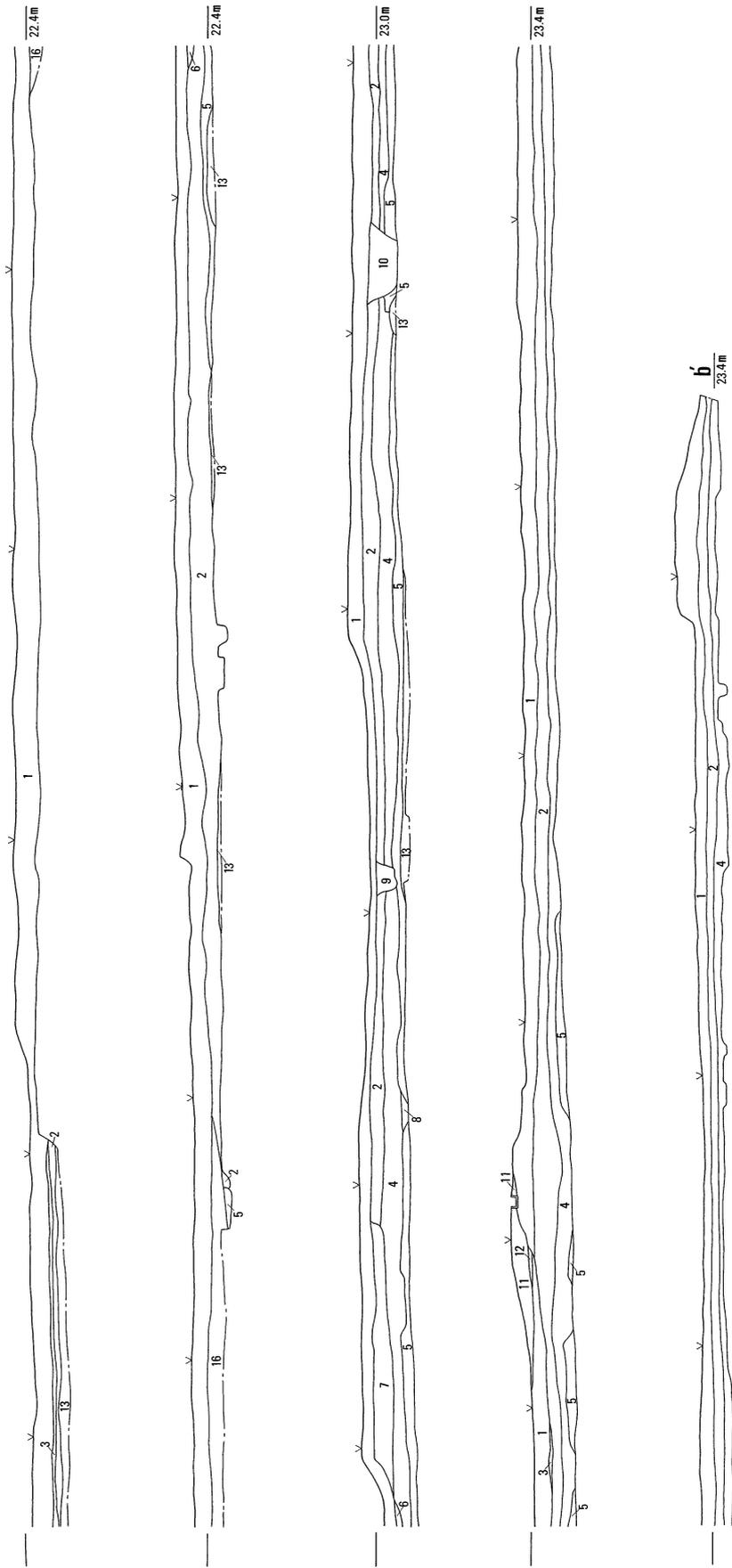


第6图 B地区遺構平面図(2) (1:200)

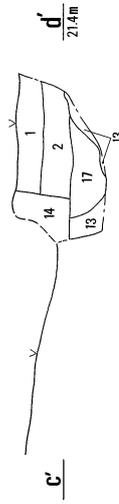
第7図 土層断面図(1) (1:100)



B地区土層 (続)



- 1. 黒褐色土 10YR 2/2 (耕作土層)
- 2. 明褐色土 75YR 7/1 (包含層 1)
- 3. 明黄褐色土 10YR 6/6 (客土層)
- 4. 黒色粘質土 10YR 2/1 (包含層 3)
- 5. 暗褐色土 10YR 3/3 (包含層 2)
- 6. 黒褐色土 10YR 2/2 (明黄褐色土 10YR 6/6 のブロック混じる)
- 7. 黒色砂質土 10YR 2/1 (攪乱)
- 8. 黒褐色土 25Y 3/2
- 9. 黒色土 10YR 1.7/1 (攪乱)
- 10. 黒色土 10YR 1.7/1 (攪乱)
- 11. 砕石層 (攪乱)
- 12. 明黄褐色土 10YR 6/6 (攪乱)
- 13. にぶい黄橙色土 10YR 6/3 (地山)
- 14. 攪乱
- 15. 黒褐色土 7.5YR 3/1
- 16. 宮川用水管理土 (攪乱)
- 17. SD701埋土



第8図 土層断面図 (2) (1:100)

岩出遺跡群 遺構番号	地区	検出時遺 構番号	性格	出土遺物 時期	小地区番号	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	備考
SD701	B	SD1	大溝	I～Ⅲ	5～6・11～34B 1～6・10～15・24 ～38C 37～38D	131.5以上	1.82	0.8	土師器、陶器等の遺物大量に出土
SD702	B	SD2	溝	Ⅱb～Ⅳ	19～33C	113.3以上	0.5	0.14	
SD703	B	SD3	溝	Ⅱa	24～30C	21.8以上	0.8	0.6	土師器、陶器等遺物多数出土
SK704	B	SK4	土坑	Ⅱa	19～20C	3.94	0.68	0.24	
SK705	B	SK5	土坑	中世	19～20C	1.4	0.09	0.09	
SK706	B	SK6	土坑	中世	19～20C	7.17以上	0.27以上	0.29	
SK707	B	SK7	土坑	Ⅱa	20C	2.22以上	0.86	0.42	
SK708	B	SK8	土坑	不明	21C	0.88以上	0.59	0.3	
SK709	B	SK9	土坑	中世	21C	1.86	0.77	0.3	
SK710	B	SK10	土坑	不明	21C	1.29	0.4	0.06	
SK711	B	SK11	土坑	Ⅱa	21～22C	0.88以上	0.48	0.29	
SK712	B	SK12	土坑	不明	22C	1.35以上	0.65	0.53	
SK713	B	SK13	土坑	中世	22～23C	1.84	1.02	0.75	
SK714	B	SK14	土坑	中世	22～23C	4.7以上	1	0.59	
SK715	B	SK15	土坑	中世	22～23C	1.28以上	0.05以上	0.04	
SI716	B	SI16	集石範囲	不明	26～27C				
SK717	B	SK17	土坑	不明	19B	1.14以上	0.29以上	0.09	
SD718	B	SD18	溝	中世	20～22B	7.3以上	0.45	0.12	
SK719	B	SK19	土坑	不明	23C	1以上	0.06以上	0.05	
SK720	B	SK20	土坑	不明	24C	0.82以上	0.46	0.2	
SK721	B	SK21	土坑	不明	27～28C	1.12以上	0.45以上	0.22	
SK722	B	SK22	土坑	Ⅱa	20B・20C	1.47以上	0.32以上	0.62	
SK723	B	SK23	土坑	Ⅱb	19B・19C	0.72以上	0.42以上	0.21	
SK724	B	SK24	土坑	不明	19B・19C	0.73以上	0.21以上	0.31	
SZ725	B	SZ25	性格不明遺構	不明	25B	1.32以上	1.08	0.27	
SK726	B	SK26	土坑	不明	26B	1.94以上	0.48	0.2	
SD727	B	SD27	溝	I～Ⅱa	28～36B	27.1以上	1.42	0.34	
SK728	B	SK28	土坑	中世	28B	1.5以上	0.48以上	0.25	
SA729	B	SA29	柵	中世	20～23B				東西12m
SA730	B	SA30	柵	不明	22～23B				東西2.8m
SA731	B	SA31	柵	不明	25～27B				東西5.6m
SB732	B	SB32	掘立柱建物	中世	19～20B				東西2間(3.8m)、南北1間以上
SB733	B	SB33	掘立柱建物	不明	23～24B				東西2間(3.8m)以上、南北2間以上
SB734	B	SB34	掘立柱建物	不明	26～27B				東西2間(3.9m)、南北1間以上
SD735	B	SD35	溝	不明	35B・35C	4.5以上	0.5	0.07	
SD736	B	SD36	溝	I	35B・35C	3.41以上	0.4	0.11	
SK737	B	SK37	土坑	不明	35～36C				滅失
SK738	B	SK38	土坑	不明	36C	0.75以上	0.68	0.15	
SD739	B	SD39	溝	不明	35～37C	19.5以上	0.52以上	0.1	
SK740	B	SK40	土坑	中世	36C	0.67以上	0.19以上	0.04	
SK741	B	SK41	土坑	Ⅲ	36B・36C	5.11以上	0.39	0.1	
SD742	B	SD42	溝	不明	36D・37D	7.38以上	0.45	0.14	
SD743	B	SD43	溝	中世	37B・37C	3.42以上	0.4	0.08	
SD744	B	SD44	溝	不明	37C	1.53	0.19	0.06	
SK745	B	SK45	土坑	中世	37C	0.77	0.47	0.15	
SK746	B	SK46	土坑	中世	30B	0.63	0.24以上	0.19	
SD747	B	SD47	溝	Ⅱa	32～34B 34～35C	19.87以上	0.65	0.2	
SK748	B	SK48	土坑	不明	35B				33BPit7に変更

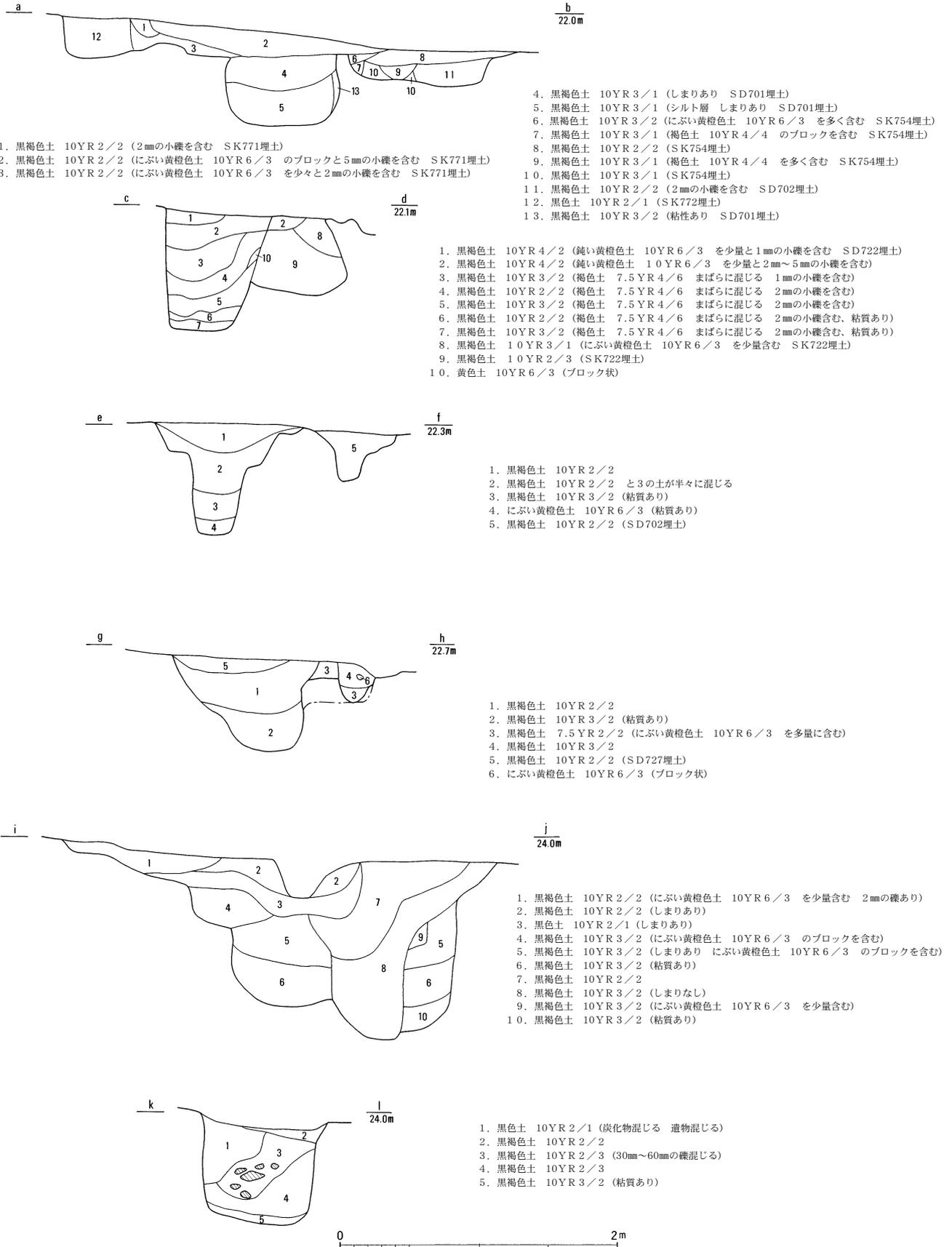
第1表 遺構一覧表(1)

岩出遺跡群 遺構番号	地区	検出時遺 構番号	性格	出土遺物 時期	小地区番号	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	備考
SK749	B	SK49	土坑	Ⅱa	36B	2.32以上	1.15以上	0.11	
SK750	B	SK50	土坑	不明	37B	1.87以上	0.71以上	0.15	
SD751	B	SD51	溝	不明	37~38B	1.77以上	0.72	0.11	
SD752	B	SD52	溝		29C				現代の攪乱に変更
SK753	B	SK53	土坑	Ⅲb	13~14B	1.94以上	0.55以上	0.33	土師器、陶器等遺物多数出土
SK754	B	SK54	土坑	Ⅱ~Ⅳ	16~19B 16~19C	11.29以上	2.18以上	0.94	土師器、陶器等多数出土 石鍋出土
SK755	B	SK55	土坑	Ⅲb	18~19C	7.2以上	0.28以上	0.14	
SK756	B	SK56	土坑	不明	18C	1.49	0.6	0.19	
SK757	B	SK57	土坑	中世	18C	0.79	0.55	0.15	
SK758	B	SK58	土坑	中世	17~18C	1.09	0.62	0.27	
SK759	B	SK59	土坑	中世	17~18C	0.87	0.55以上	0.29	
SK760	B	SK60	土坑	中世	18C	1.22以上	0.35以上	0.34	
SK761	B	SK61	土坑	Ⅱ	16~17C	3.04	0.55	0.45	
SK762	B	SK62	土坑	不明	16~17C	1.3	0.17以上	0.14	
SK763	B	SK63	土坑	中世	17C	0.94	0.15	0.07	
SK764	B	SK64	土坑	不明	17C	0.92以上	0.2以上	0.21	
SD765	B	SD65	溝	Ⅱb	14~15C	7.02以上	0.48	0.22	
SK766	B	SK66	土坑	不明	15C	1.82	0.2	0.19	
SK767	B	SK67	土坑	不明	15C	0.45以上	0.43	0.05	
SK768	B	SK68	土坑	不明	15C	0.76	0.3	0.08	
SK769	B	SK69	土坑	中世	15C	1.29以上	0.54以上	0.6	
SK770	B	SK70	土坑	中世	17~18B	3.47以上	0.53以上	0.07	
SK771	B	SK71	土坑	不明	15~17B	7.73以上	0.72以上	0.3	
SK772	B	SK72	土坑	不明	16B	0.79	0.4以上	0.31	
SK773	B	SK73	土坑	不明	28C				28CPit2に変更
SD774	B	SD74	溝	中世	31~32D	4.37以上	0.23以上	0.27	
SD775	B	SD75	溝	不明	32~33D	0.62以上	0.4以上	0.24	
SK776	B	SK76	土坑	不明	32~33C	3.91	0.55以上	0.2	
SD777	B	SD77	溝	不明	34C 34~35D	7.26以上	0.39	0.03	
SK778	B	SK78	土坑	不明	35C				35CPit7に変更
SK779	B	SK79	土坑	Ⅱ	10C	1.02以上	0.3以上	0.24	
SK780	B	SK80	土坑	不明	15B	1.7以上	0.69以上	0.69	
SK781	B	SK81	土坑	Ⅱa	15B	2.05以上	0.73以上	0.35	
SD782	B	SD82	溝	Ⅲ	8~12B	16.48以上	0.65以上	0.14	
SK783	B	SK83	土坑	不明	14C	0.83以上	0.08以上	0.19	
SK784	B	SK84	土坑	Ⅱb	13~14C	0.79	0.59	0.29	
SK785	B	SK85	土坑	Ⅱa	12~13C	2.97以上	0.77以上	0.08	
SK786	B	SK86	土坑	不明	13C	0.75以上	0.63以上	0.22	
SK787	B	SK87	土坑	不明	13C	1.17以上	0.94以上	0.29	
SK788	B	SK88	土坑	不明	13C	1.73以上	0.61以上	0.12	
SK789	B	SK89	土坑	不明	13C	0.86	0.79	0.05	
SK790	B	SK90	土坑	不明	13C	0.85以上	0.25以上	0.06	
SK791	B	SK91	土坑	中世	13C	0.66	0.43	0.22	
SK792	B	SK92	土坑	中世	11~12C	1.15以上	1.02	0.33	
SK793	B	SK93	土坑	不明	12C	0.88	0.77	0.24	
SK794	B	SK94	土坑	Ⅱ~Ⅲa	12C	1.78以上	0.61以上	0.64	土師器・陶器等多数出土
SK795	B	SK95	土坑	不明	11~12C	2.98以上	0.69以上	0.17	
SK796	B	SK96	土坑	中世	11C	0.72以上	0.69以上	0.22	

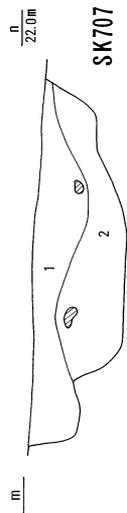
第2表 遺構一覧表(2)

岩出遺跡群 遺構番号	地区	検出時遺 構番号	性格	出土遺物 時期	小地区番号	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	備考
SK797	B	SK97	土坑	不明	10C	1.6以上	0.34以上	0.4	
SK798	B	SK98	土坑	Ⅲ	10C	0.66以上	0.45	0.38	
SK799	B	SK99	土坑	不明	10C	0.66以上	0.52以上	0.13	
SK800	B	SK100	土坑	Ⅱb~Ⅲ	10~11C	2.21以上	0.64以上	0.45	土師器鍋・皿まとめて出土
SK801	B	SK101	土坑	中世	8~9C	2.19以上	1.36以上	0.55	
SK802	B	SK102	土坑	不明	8~9C	0.8以上	0.38以上	0.06	
SK803	B	SK103	土坑	中世	9C	0.85以上	0.3以上	0.07	
SK804	B	SK104	土坑	不明	9C	0.7以上	0.16以上	0.05	
SK805	B	SK105	土坑	不明	9~10C	1.67以上	0.53以上	0.18	
SK806	B	SK106	土坑	不明	2~3C	1.48以上	0.23以上	0.07	
SK807	B	SK107	土坑	中世	3C	0.75以上	0.49以上	0.09	
SK808	B	SK108	土坑	Ⅱa	3~4C	1.6以上	0.39以上	0.36	
SK809	B	SK109	土坑	不明	3C	0.84以上	0.37以上	0.2	
SD810	B	SD110	溝	Ⅲ	3~4B	5.22以上	0.34以上	0.1	
SD811	B	SD111	溝	不明	4~	3.4以上	0.22以上	0.08	
SK812	B	SK112	土坑	不明	5B	0.98以上	0.46以上	0.26	
SD813	B	SD113	溝	不明	3~4C	2.91	0.33	0.06	
SK814	B	SK114	土坑	不明	5C	1.12	0.34	0.25	
SK815	B	SK115	土坑	不明	5C	1.25	0.34	0.47	
SK816	B	SK116	土坑	中世	5C	0.91	0.4	0.43	
SK817	B	SK117	土坑	不明	5~6C	0.35	0.3	0.29	
SK818	B	SK118	土坑	不明	5~6C				滅失
SK819	B	SK119	土坑	中世	6C	1.19以上	0.48以上	0.5	
SK820	B	SK120	土坑	不明	6C	0.45以上	0.19以上	0.1	
SK821	B	SK121	土坑	中世	7C	1.11	1.08	0.37	
SK822	B	SK122	土坑	不明	7C	0.68以上	0.51	0.2	
SK823	B	SK123	土坑	不明	7~8C	1.25以上	0.84以上	0.12	
SK824	B	SK124	土坑	中世	6B	1.93以上	0.72以上	0.33	
SK825	B	SK125	土坑	中世	6~7B	0.5以上	0.45以上	0.11	
SK826	B	SK126	土坑	不明	7B	1.89以上	0.89以上	0.1	
SK827	B	SK127	土坑	不明	7~8B	0.75以上	0.64以上	0.1	
SA828	B	SA128	柵	不明	29~30B				
SB829	B	SB129	掘立柱建物	不明	31~33B				東西3間(5.9m)、南北1間以上
SA830	B	SA130	柵	不明	33B・34~35C				東西6.0m
SA831	B	SA131	柵	不明	34~35C				東西5.8m
SB832	B	SB132	掘立柱建物	不明	36~37B				東西2間(2.9m)、南北1間以上
SB833	B	SB133	掘立柱建物	不明	36~37B				東西2間(3.9m)、南北1間以上
SA834	B	SA134	柵	不明	35~36C				
SD841	A	SD1	溝	中世	52B・52C	8.3以上	0.3	0.2	
SD842	A	SD2	溝	中世	51~52C	2.4以上	0.4	0.19	
SK843	A	SK3	土坑	不明	52~53B	2.58	2.62	0.21	
SK844	A	SK4	土坑	不明	53B	1.4	0.94	0.16	
SK845	A	SK5	土坑	Ⅱa	54B	0.7以上	0.2以上	0.18	
SK846	A	SK6	土坑	Ⅱb	57C	0.84	0.76	0.26	土師器皿まとめて出土
SK847	A	SK7	土坑	Ⅱa	58C	0.96	0.8	0.17	
SD848	A	SD8	溝	Ⅱa	56~59C	10.18以上	0.3	0.05	
SB849	A	SB9	掘立柱建物	中世	52~53B 52~53C				南北1間(1.5m)、東西2間(3.6m)

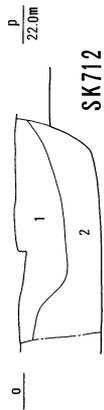
第3表 遺構一覧表 (3)



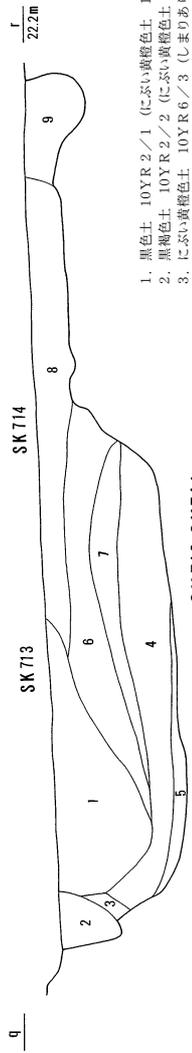
第9図 SD701各部断面図 (1:40)



1. 黒褐色土 10YR 2/2 (10mmの礫が混じる)
2. 黒褐色土 10YR 2/2 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 の30mmくらいのブロックが混じる)



1. 黒褐色土 10YR 2/2 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 を少量含む)
2. 黒褐色土 10YR 2/2 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 の20mmくらいのブロックを多く含む)

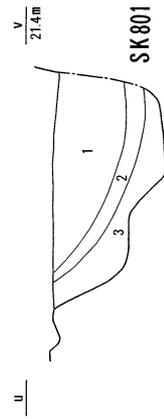


1. 黒色土 10YR 2/1 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 がわずかに混じる SK713埋土)
2. 黒褐色土 10YR 2/2 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 のブロックが混じる SK712埋土)
3. にぶい黄褐色土 10YR 6/3 (しまりあり SK714埋土)
4. 黒褐色土 10YR 3/2 (SK714埋土)
5. にぶい黄褐色土 10YR 6/3 (黒褐色土 10YR 3/1 を少量含む SK714埋土)
6. 黒褐色土 10YR 3/1 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 の20mmくらいのブロックが混じる SK714埋土)
7. 黒褐色土 10YR 2/2 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 の20mmくらいのブロックが混じる SK714埋土)
8. 黒色土 10YR 2/1 (上方に100mmくらいの礫が混じる SK714埋土)
9. 黒褐色土 2.5YR 3/1 (23C P i t 3埋土)

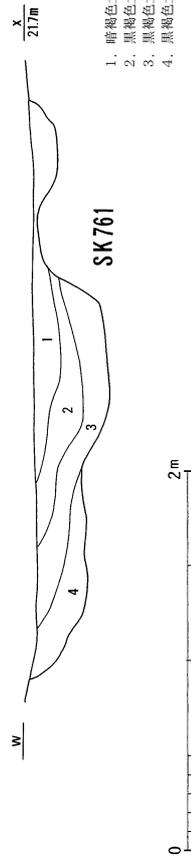
SK713-SK714



1. 黒褐色土 10YR 3/1 (遺物多く混じる)
2. 黒褐色土 10YR 3/1 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 のブロック混じる)
3. 黒褐色土 10YR 3/1 (10mmほどの礫混じる)
4. 黒褐色土 10YR 3/1 (にぶい黄褐色土 10YR 6/3 のブロック混じる 10mmほどの礫混じる)
5. 黒褐色土 10YR 3/1 (10mmほどの礫 灰砂混じる)

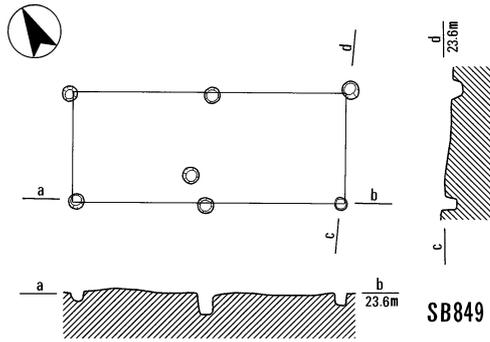


1. 黒色土 10YR 2/1 (褐色土 10YR 4/4 のブロック混じる)
2. 褐色土 10YR 4/4 (粘質あり)
3. 黒褐色土 10YR 2/2 (褐色土 10YR 4/4 のブロック混じる 粘質あり)

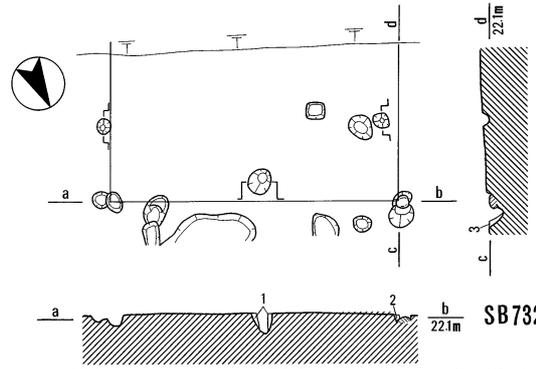


1. 暗褐色土 10YR 3/3
2. 黒褐色土 10YR 2/2 (にぶい黄褐色土 10YR 5/4 を多く含む)
3. 黒褐色土 10YR 2/2 (にぶい黄褐色土 10YR 5/4 を少量含む)
4. 黒褐色土 10YR 2/2 (にぶい黄褐色土 10YR 5/4 を半分くらい含む)

第10図 各土坑断面図 (1:40)

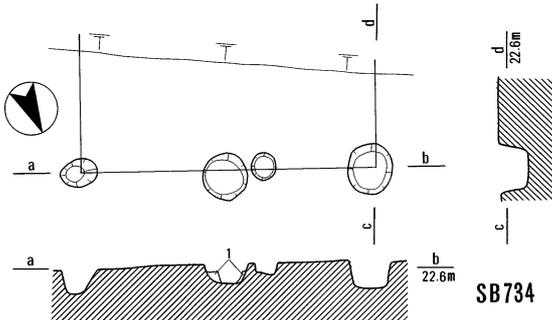


SB849



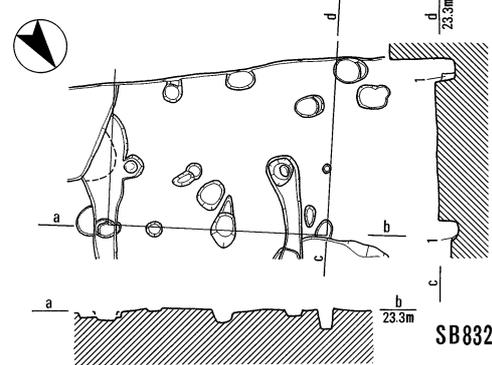
SB732

1. 黒色土 10YR 2/1 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 がまばらに混じる)
2. 黒褐色土 7.5YR 3/1 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 が混じる)
3. 黒褐色土 10YR 3/1 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 を多く含む)



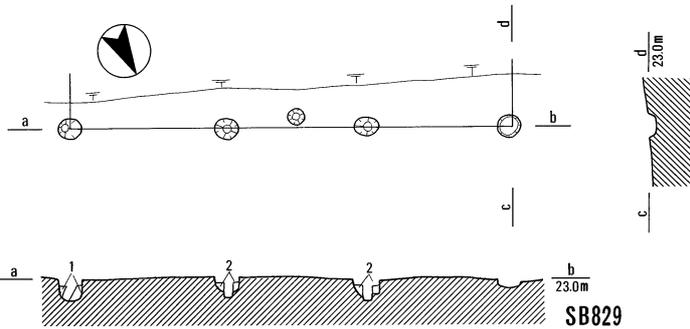
SB734

1. 黒色土 10YR 2/1 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 を少量含む)



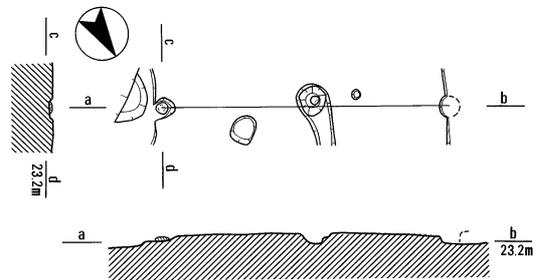
SB832

1. 褐色土 10YR 4/4

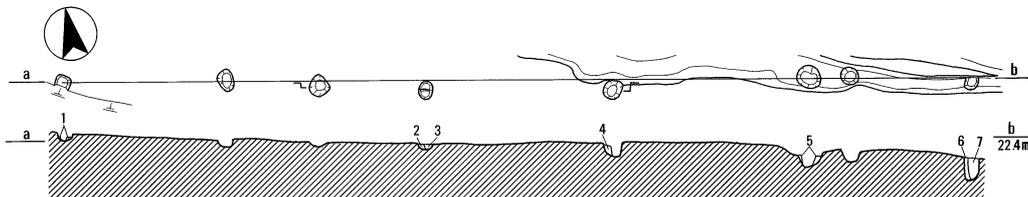


SB829

1. 褐色土 10YR 4/6 (黒褐色土 10YR 2/2 のブロックを含む)
2. 黒褐色土 10YR 2/2 (褐色土 10YR 4/4 のブロックを少量含む)

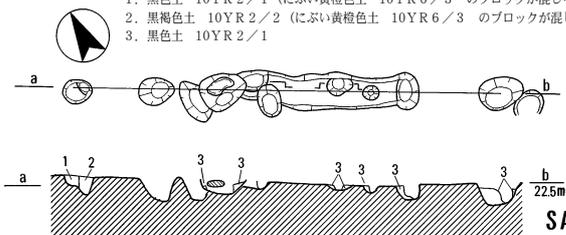


SB833



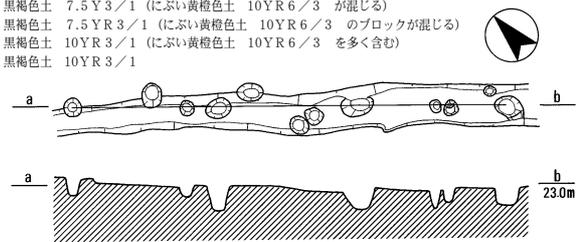
SA729

1. 黒色土 10YR 2/1 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 のブロックが混じる)
2. 黒褐色土 10YR 2/2 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 のブロックが混じる)
3. 黒色土 10YR 2/1
4. 黒褐色土 7.5Y 3/1 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 が混じる)
5. 黒褐色土 7.5YR 3/1 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 のブロックが混じる)
6. 黒褐色土 10YR 3/1 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 を多く含む)
7. 黒褐色土 10YR 3/1



SA731

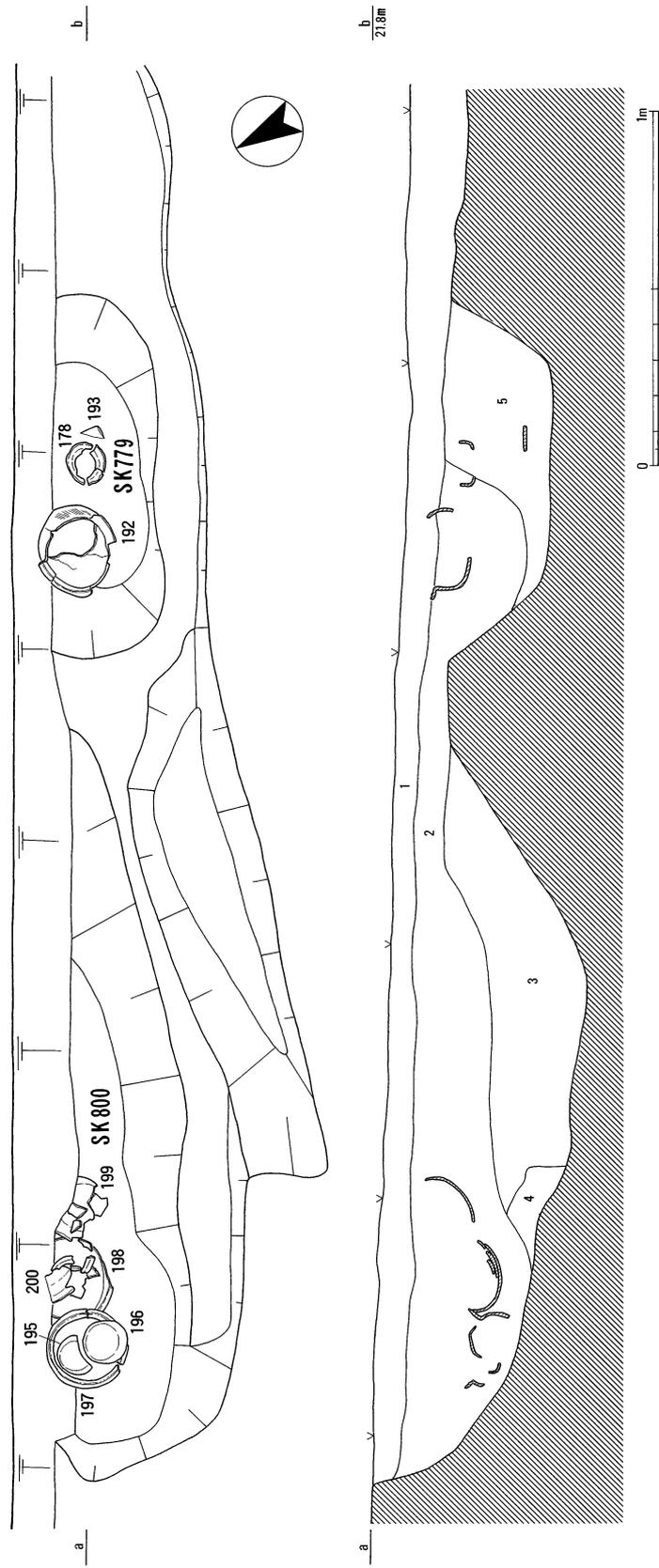
1. 黒褐色土 10YR 3/1 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 が少量混じる)
2. 黒褐色土 10YR 3/1
3. 黒色土 10YR 2/1 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 が混じる)



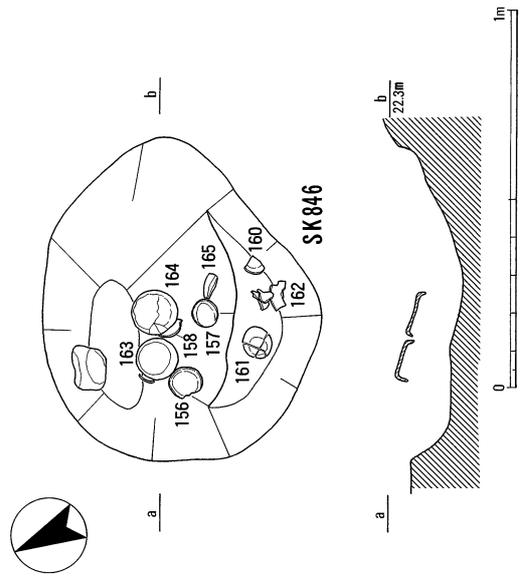
SA831

0 5m

第11図 掘建柱建物、柵平面図・断面図 (1:100)



1. 褐色土 10YR 2/2 (灰味かかって他よりも明るい)
2. 暗褐色土 10YR 3/3 (粘性あり 遺物と10mmほどの礫混じる)
3. 黒褐色土 10YR 3/2 (粘性あり)
4. 暗褐色土 10YR 3/3 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 のブロック混じる)
5. 黒褐色土 10YR 3/1 (にぶい黄橙色土 10YR 6/3 の斑紋あり)



第12図 遺物出土状況図 (1 : 20)

IV 遺物 (第8次調査)

はじめに

出土した遺物はコンテナバッドに53箱である。平安時代末～鎌倉・室町時代の中世の時期の溝や土坑から出土した遺物が大半である。出土遺物は、南伊勢系の土師器小皿・皿・鍋、尾張型、渥美・湖西型の陶器椀(山茶椀)が多い。その他、渥美・常滑産の鉢・甕等の陶器や貿易陶器である青磁・白磁、また鉄製品も出土した。珍しいものとしては、石鍋・温石等の石製品も出土した。

出土遺物別では、B地区の大溝SD701からの出土遺物数は器種点数カウントの結果(本報告書49頁参照)から、全出土遺物個体換算数の約38%を占める。

なお、本章以後もⅢと同様、南伊勢系土師器鍋は伊藤裕偉氏の編年を、山茶椀については藤澤良祐氏の編年を、貿易陶磁器(青磁・白磁)については山本信夫氏の分類を使う。

SD701出土遺物

1～4は土師器小皿で、南伊勢系である。底部から体部にかけて厚くなるが3は特にそれが顕著である。2は口縁のゆがみが大きい。4は完存品である。5～11は土師器皿で、南伊勢系である。体部が緩やかな角度でやや丸みを持って立ち上がる。7・8・11は底部中央辺りで上への曲面を持つ。9は特に口径に対して器高が低い。

12～27は陶器山茶椀である。いずれも焼成は良く緻密である。いずれも尾張型第6型式に相当し、その特徴である高台部が三角形気味であって底部中心が薄くなっているものが多く、また刳殻痕のあるものも多い。18は完存品で口縁部内側に自然釉がつき、口縁の歪みが大きい。20・26の色調は黄灰で一般的なものとは異なる。27の底部外面には「上」の字の墨書がある。14・15も完存品である。

28・29は土師器台付小皿で南伊勢系である。30～32は南伊勢系の土師器鍋である。30・32は仮A段階、31は第1段階に相当する。33は陶器壺で、常滑産かと思われる。34・35は陶器鉢である。34は瀬戸産、35は常滑産である。36は陶器片口練鉢であ

る。猿投・瀬戸の産と思われる。

37～44は土師器皿である。これらの体部はやや大きめの角度で丸みを持って立ち上がる。41は口縁に対して器高が特に高く外側にゆるい角度で立ち上がるが、これに関しては南伊勢系ではなくて大和産かと思われる。41を除いては南伊勢系である。

45～52は陶器山茶椀である。45～50・52が渥美・湖西型第6型式に相当し、その特徴である高台が扁平・あるいは丸みを持ち、また底部が肉厚気味であるものが多い。50の色調は一般的なものとは異なりにぶい黄橙である。51は尾張型第6形式に相当する。墨書のあるものとしては、48には底部外面に「大」、49には体部外面に「上」、50には体部外面と底部外面に扇の絵、51には底部外面に「十」が描かれている。墨書の絵の出土遺物は今回の調査では、50の1点のみである。

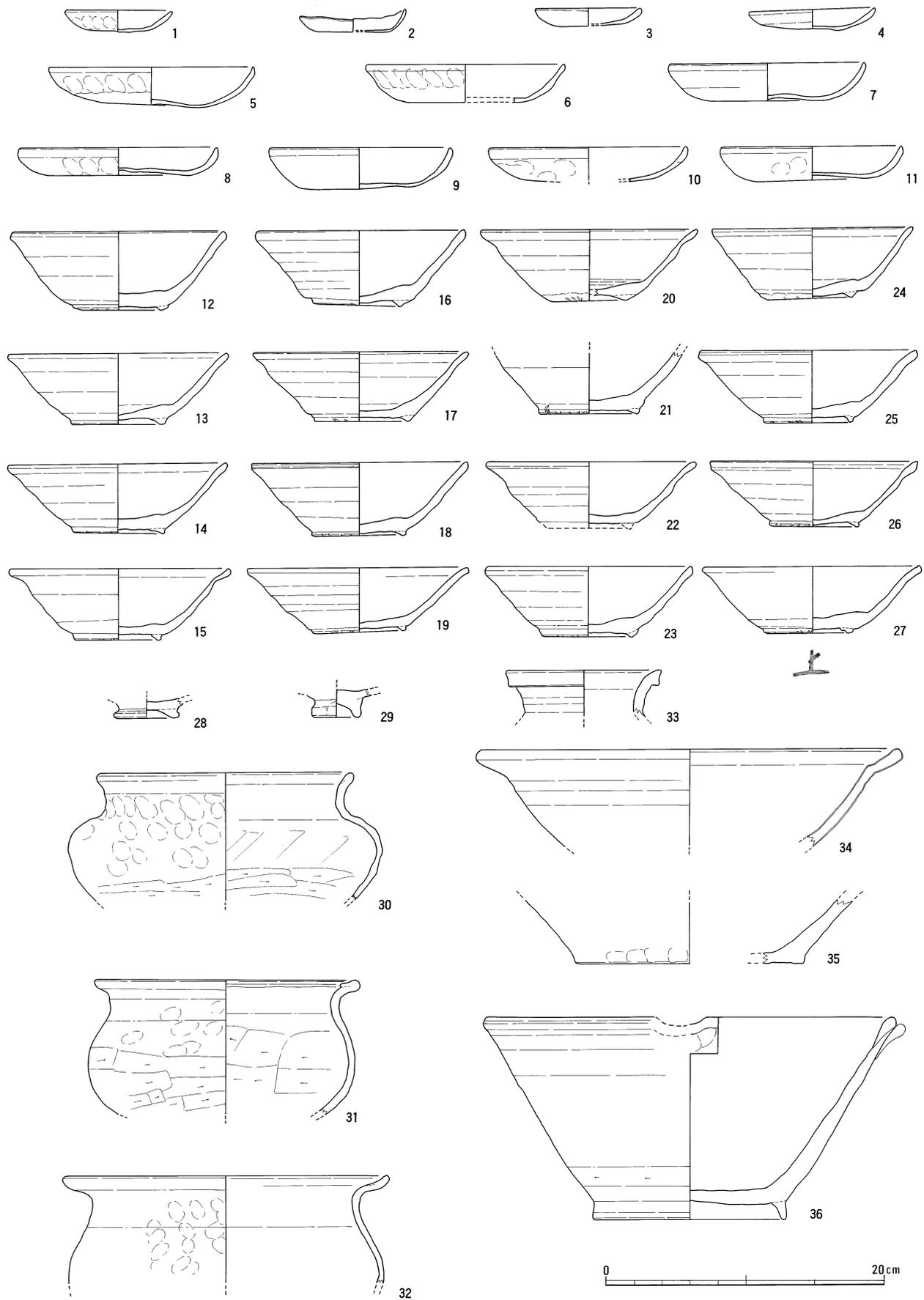
53は陶器小型鉢で、瀬戸・猿投方面の産である。54は陶器甕で、常滑産である。55・56は土製鉢で56は完存品である。57は陶器甕で、常滑産である。今回の調査では、この文様の常滑産甕小片が割りと多く出た。58は丸瓦である。

59～62は土師器羽釜で南伊勢系である。61・62がⅡa期、59がⅢb～Ⅳ期、60がⅣ期のものである。

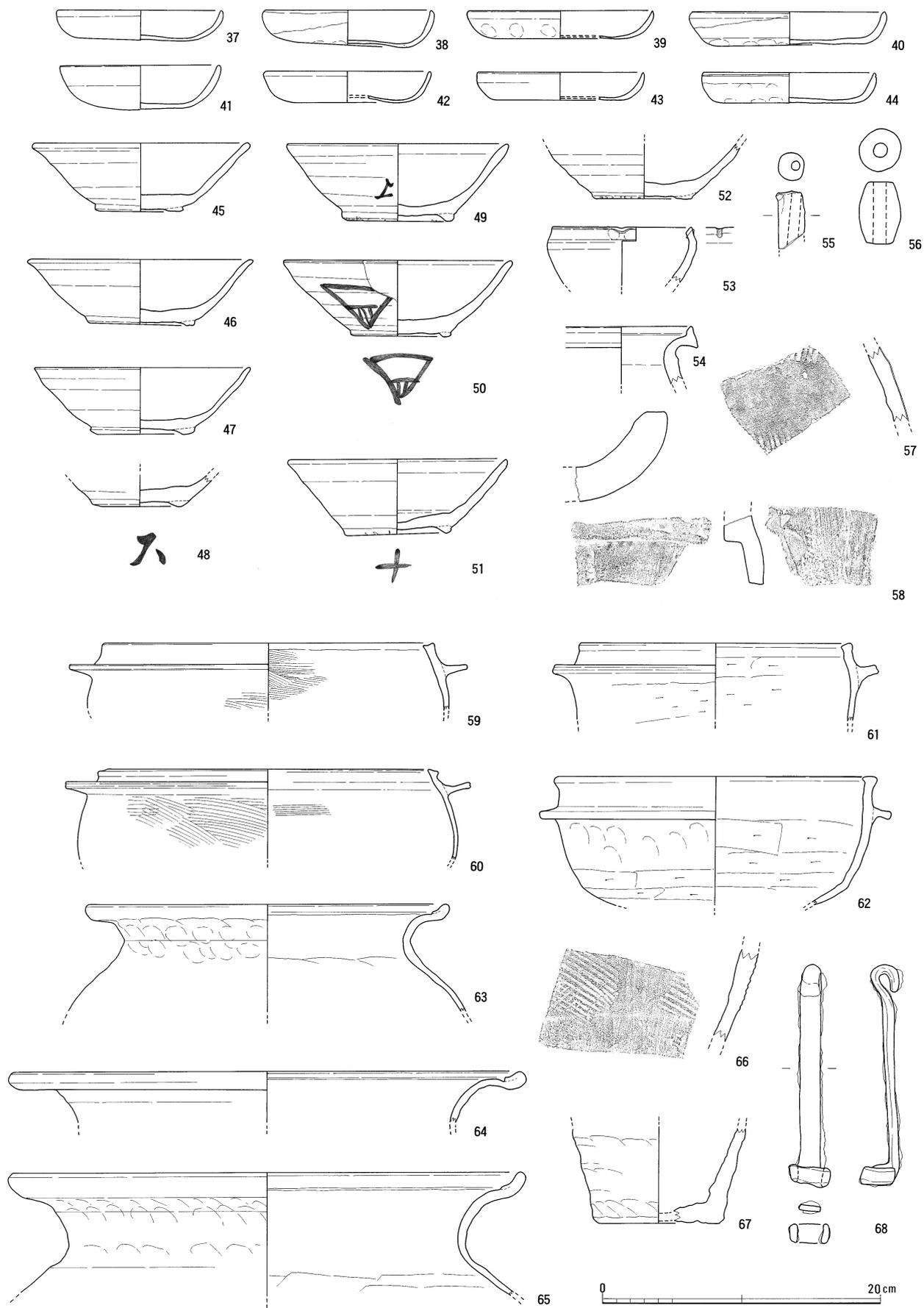
63～65は南伊勢系の土師器鍋である。いずれも第1段階に相当する。66は、陶器甕で渥美産である。67は土師器で壺かと思われる。68は鉄製錠前で、錆による劣化はあるものの残存は良好で原型をよく留めている。鉄製品としてはこの器種の出土は珍しい。

69～80は土師器鍋である。いずれも第1段階に相当する。肉厚気味の丸みを帯びた口縁部や短かめの内部の折り返しにその特徴がよく現れている。78は内面の磨耗が激しい。

81・82は土師器皿で南伊勢系である。体部は大きめの角度で丸みを持って立ち上がる。特に82は、前述の南伊勢系の土師器に比べると器高に対する口径の比は小さい。83～87は南伊勢系の土師器鍋である。いずれも第2段階に相当する。88・89は陶器山皿である。89は完存品である。いずれも尾張型第6型式



第13図 出土遺物実測図 (1) (1 : 4)



第14図 出土遺物実測図(2) (1:4)

に相当する山皿である。90は陶器練鉢で知多・猿投方面産である。91は陶器練鉢で常滑産である。

92～94、96～98、100・101は青磁椀である。このうち92～93、96・98、100・101は龍泉窯系と判別でき、そのうちの92・93・96は、㊟群（E期）に相当する。95は青白磁合子である。今回の調査でた青白磁はこれ1点だけである。99は青磁小皿である。

102～107は土師器小皿で南伊勢系である。102は底部から体部にかけて厚くなるが、それ以外は、それら厚みに大きな変化はない。104は口縁・低部の歪みが大きい。

108～111は南伊勢系の土師器鍋である。いずれも第3段階（Ⅲb期）に相当する。112は陶器甕で渥美産である。113～114は陶器山茶椀である。113が渥美・湖西型第6形式に相当し、114が尾張型第6形式に相当する。114には内面に墨の付着痕がある。また

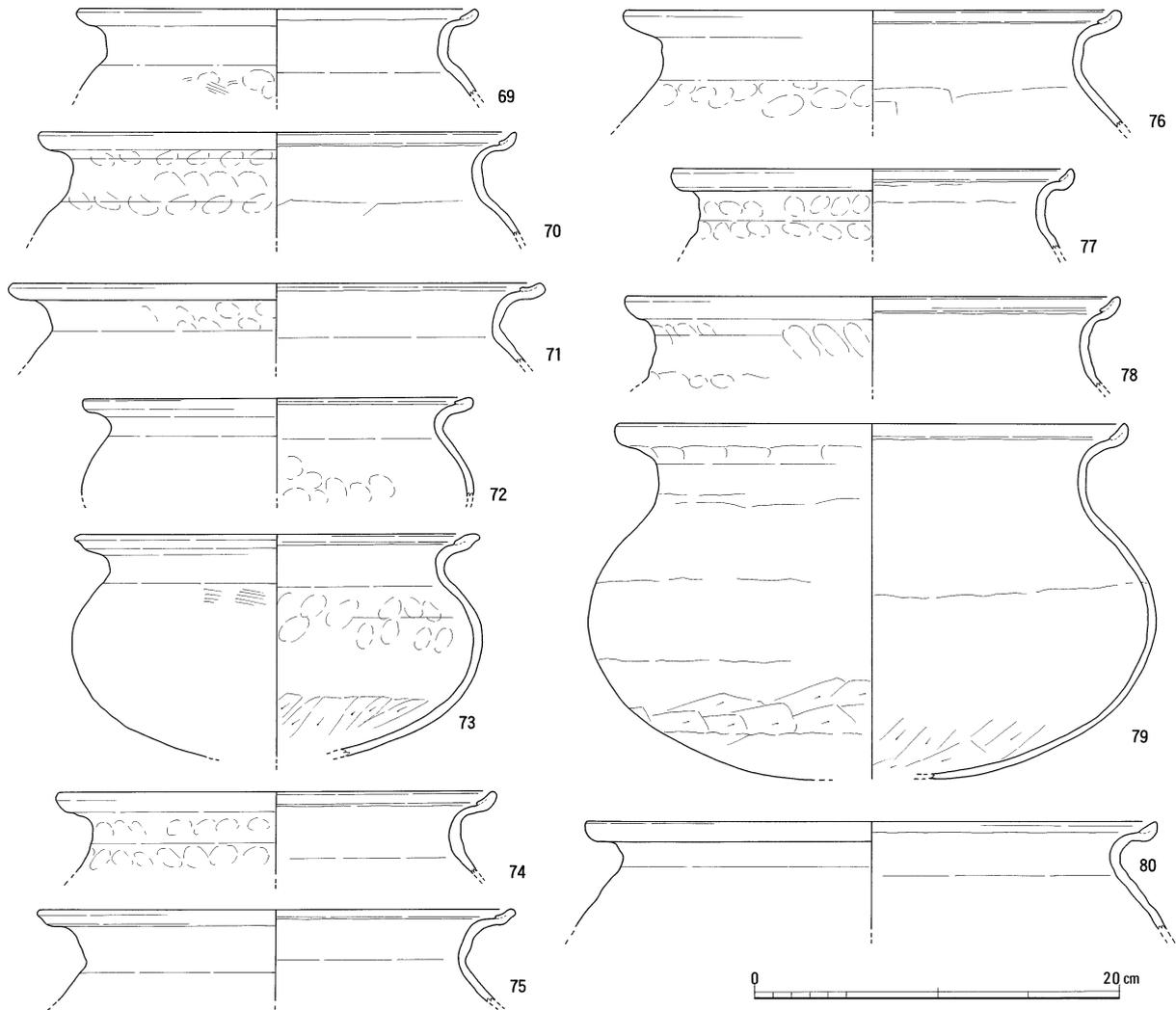
外面底部には円形の墨書がある。115は土師器土製支脚である。116は石製温石である。滑石製である。温石は平成2年度に行われた第3次調査でも出土したが、南勢地方での出土例は極めて珍しい。117は鉄製火打鎌である。錆による劣化はあるものの残存は良好である。118～120は陶器練鉢である。121は陶器蓋で瀬戸産である。合子の蓋と考えられ菊花紋がある。

122は陶器有耳壺で常滑産である。123は、丸瓦である。124は石鍋で滑石製である。石鍋は平成2年度の第3次調査でも出土したが、出土例は珍しい。

S D 727 出土遺物

125は土師器皿で、南伊勢系である。2対計4箇所の焼成後の穿孔は紐通し用のものと考えられる。126は南伊勢系土師器鍋である。（仮）A段階～第1段階にかけてのものと考えられる。

S D 703 出土遺物



第15図 出土遺物実測図 (3) (1 : 4)

127は青磁小皿で、龍泉窯系である。内面には重ね焼きをした痕が見られる。128は青磁椀で、龍泉窯系である。129～131は陶器山茶椀である。いずれも渥美・湖西型第6型式に相当する。132は陶器壺で、瀬戸産である。133は須恵器である。他に須恵器の出土が見られないことから、他の場所からの流入品かと考えられる。134・135は南伊勢系の土師器鍋である。いずれも第2段階に相当する。

S D 848出土遺物

136は土師器小皿で、南伊勢系である。底部から口縁部への立ち上がりが極めて緩やかである。底部と口縁部は連続的に厚さにほとんど変化はなく扁平である。137は土師器皿で南伊勢系である。底部から体部は急な角度で立ち上がり、両部の厚さにほとんど変化はない。138は陶器山茶椀である。いずれも渥

美・湖西型第6型式に相当する。139・140は南伊勢系の土師器鍋である。139は第1段階に相当する。

S D 747出土遺物

141は土師器鍋である。南伊勢系で(仮)A段階～第1段階にかけてのものと考えられる。142・143は陶器山茶椀である。143の色調は黄灰で外面と内面上部につけがけ釉がみられる。渥美・湖西型第7型式に相当する。

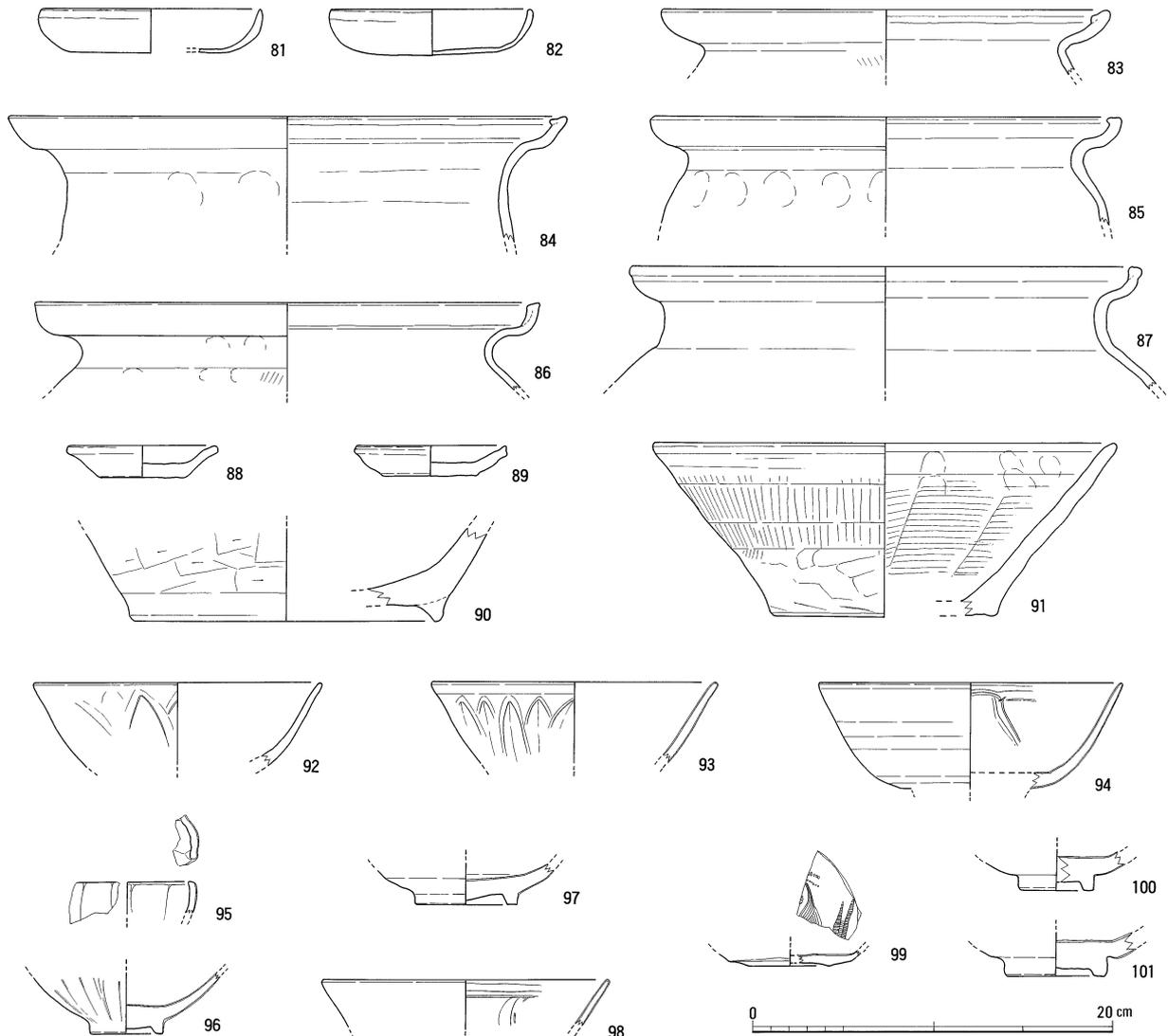
S K 781出土遺物

144は土師器小皿で南伊勢系である。底部中央が上に曲がる。

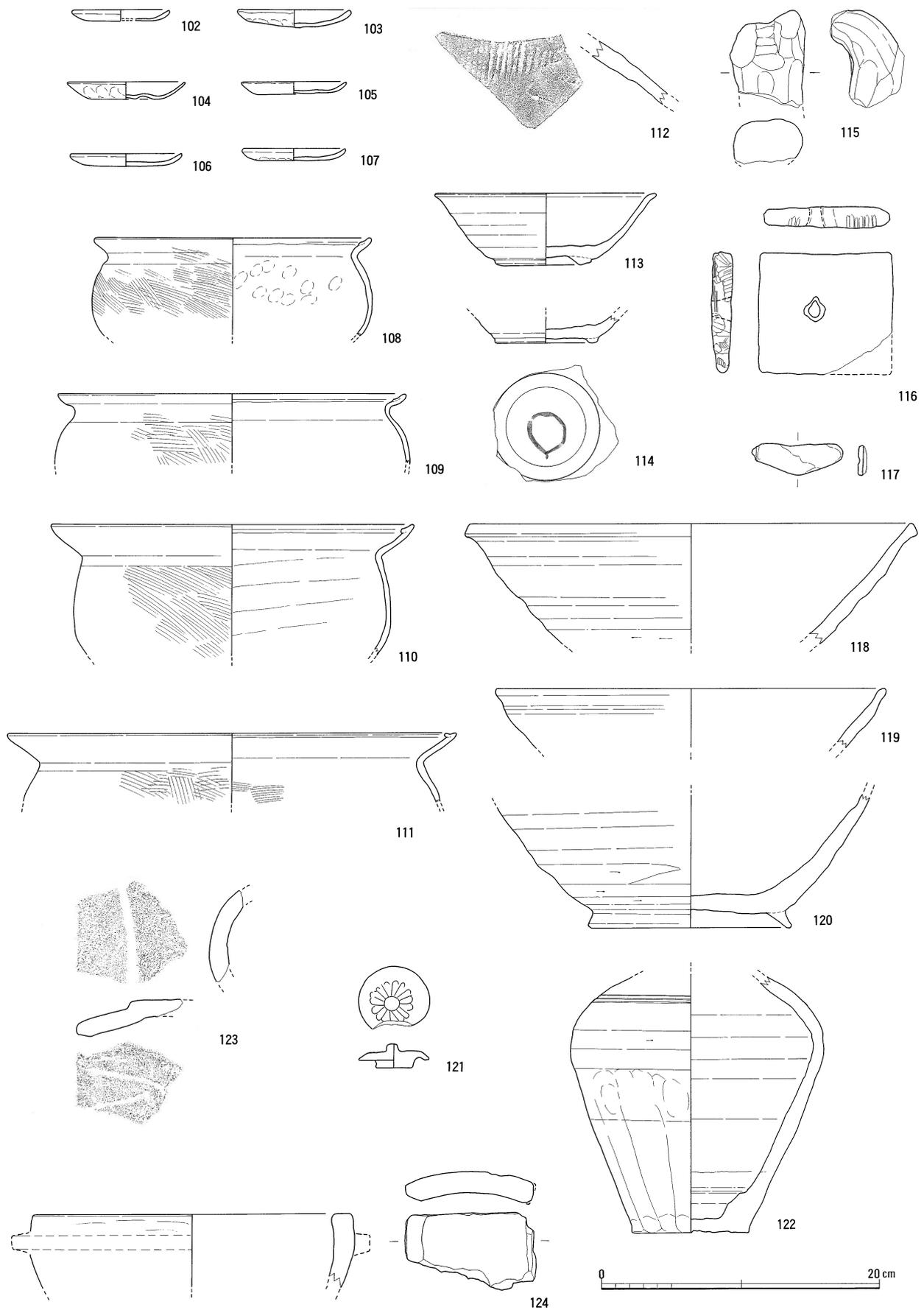
S K 847出土遺物

145は土師器小皿で南伊勢系である。146は土師器鍋である。南伊勢系で第1段階に相当する。

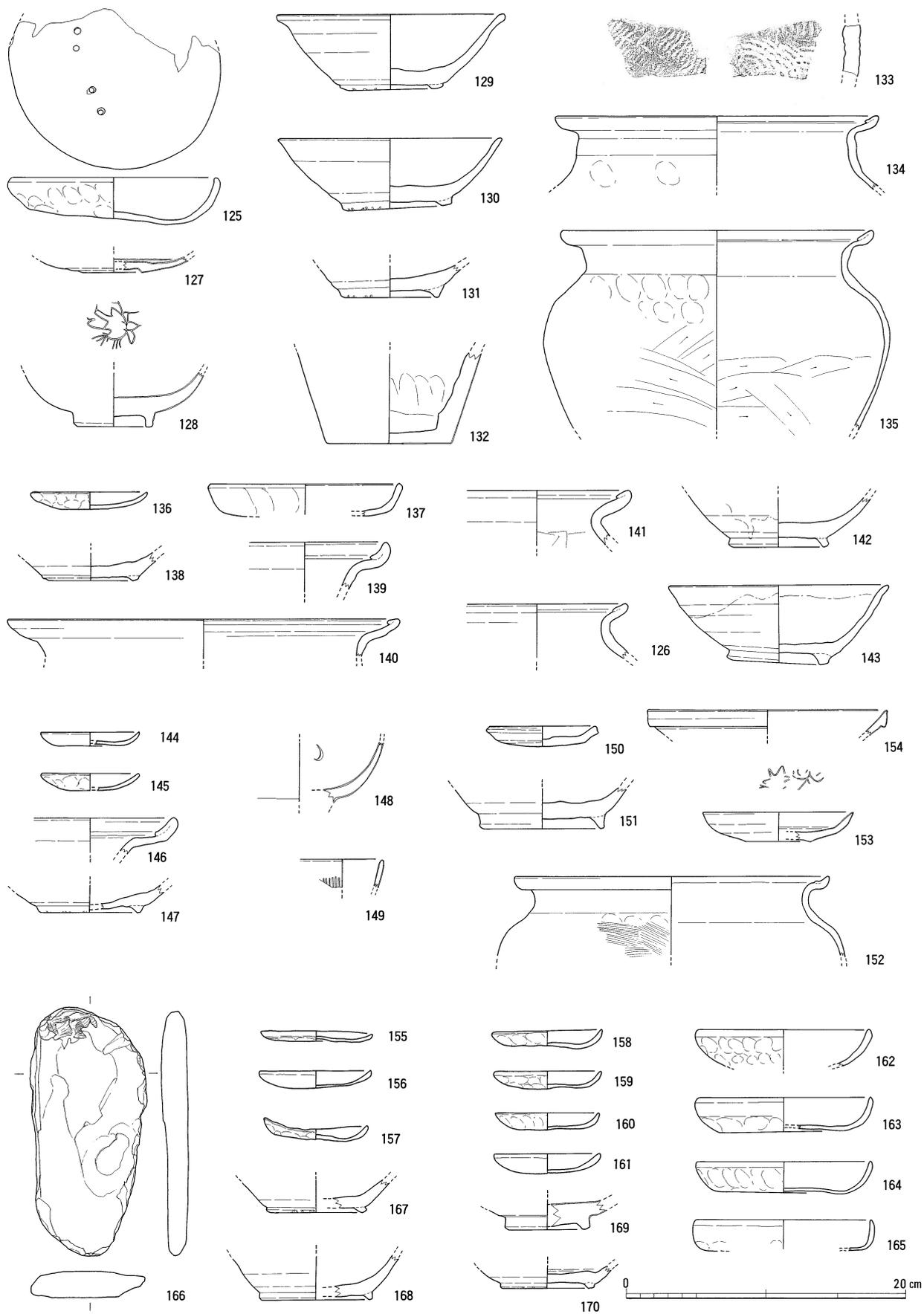
S K 845出土遺物



第16図 出土遺物実測図(4) (1:4)



第17図 出土遺物実測図 (5) (1 : 4)



第18図 出土遺物実測図 (6) (1:4)

147は陶器山茶椀で尾張型第6型式に相当する。

S K 785出土遺物

148は同安窯系の青磁椀で⑫群(D期)に相当する。

S K 749出土遺物

149は龍泉窯系の青磁椀で⑧群(D期)に相当する。

S K 722出土遺物

150は陶器山皿である。151は陶器山茶椀である。渥美・湖西型第5型式に相当する。152は土師器鍋である。伊藤氏編年の第2段階に相当する。153は青磁小皿である。同安窯系で、山本氏の分類では⑫群(D期)に相当する。

S D 736出土遺物

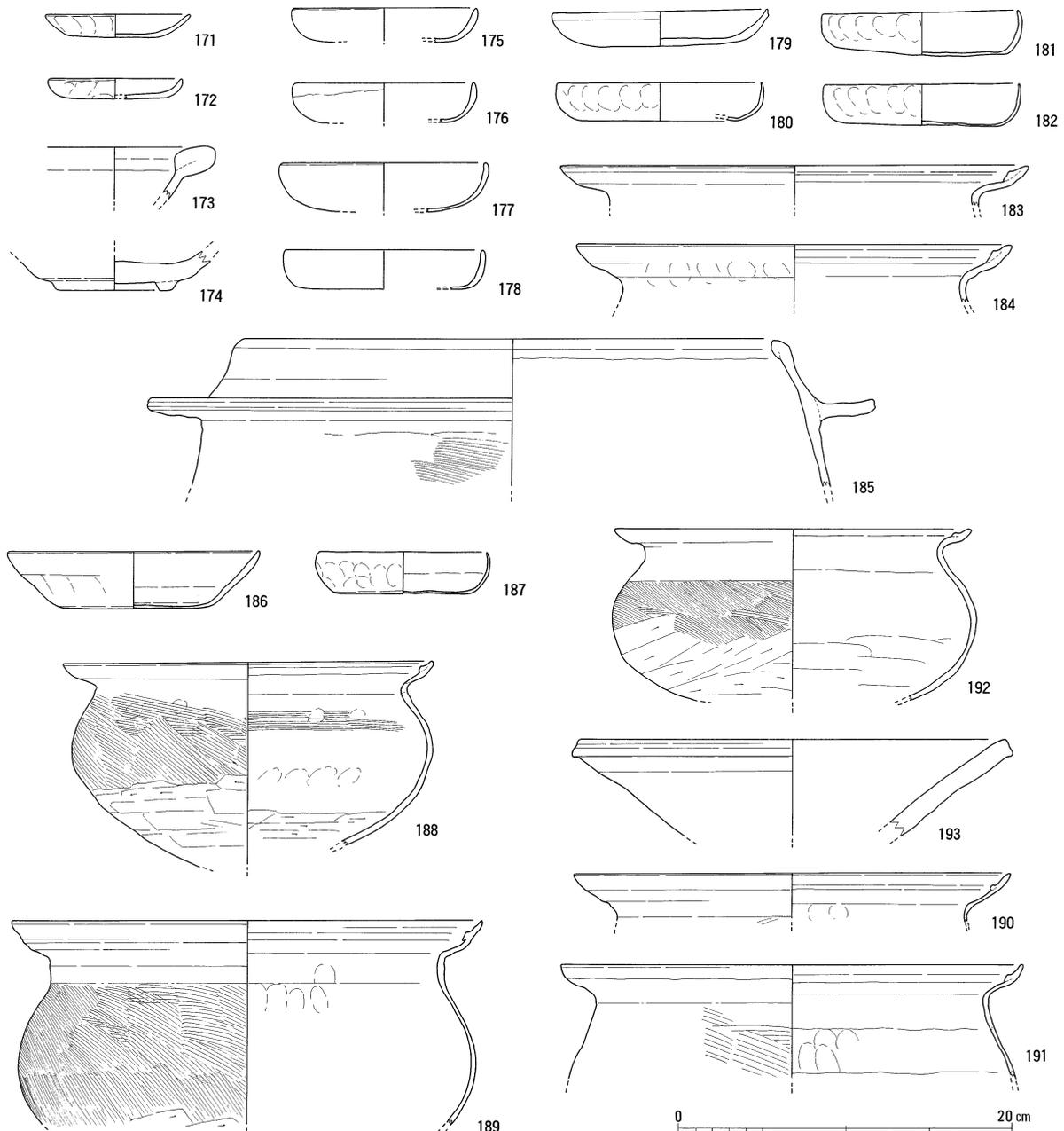
154は白磁椀である。華南一帯産で④群(C期)に相当する。

S K 846出土遺物

155~161は土師器小皿である。155は扁平であるが、157~161は底部から体部へは丸みをもって立ち上がる。157は全体的な歪みが大きい。162~165は土師器皿である。165は底部から体部へは直角に近い角度で立ち上がる。

S K 707出土遺物

166は砥石である。しかし上部は打ちつけたとも



第19図 出土遺物実測図 (7) (1 : 4)

みられる痕があり、もとは打製石器の可能性も考えられる。168は陶器山茶椀である。内面には炭化物の付着痕が顕著に分かる。

S K 761出土遺物

167は陶器山茶椀である。尾張型第6型式～第7型式にかけてのものと考えられる。

S K 723出土遺物

169は龍泉窯系の青磁椀で⑨群(E期)に相当する。

7 C P i t 9 出土遺物

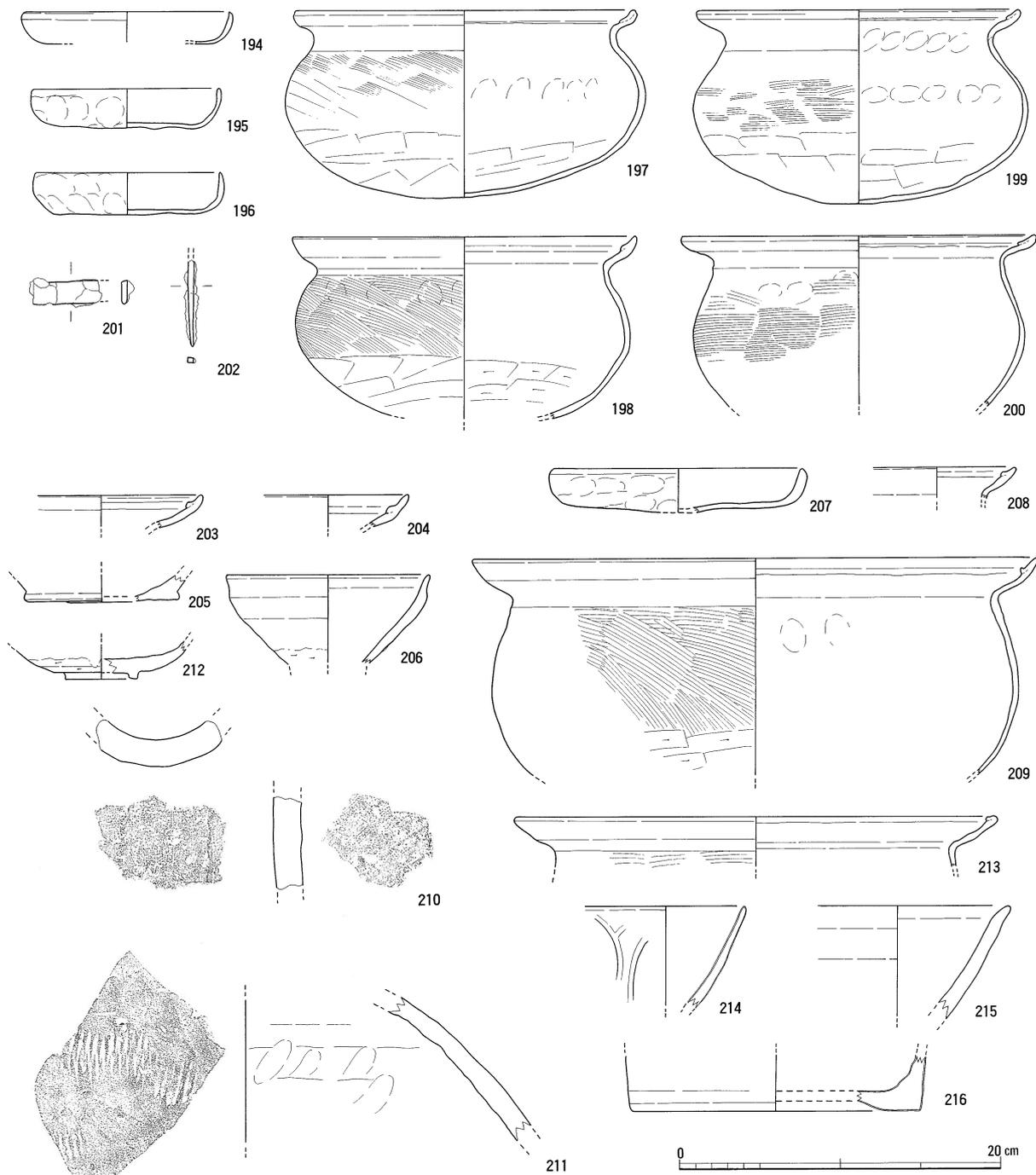
170は、陶器山茶椀である。尾張型第6型式～第7型式にかけてのものと考えられる

52 C P i t 4 出土遺物

171は土師器小皿で南伊勢系である。底部から口縁部への立ち上がりの角度は緩やかで直線的である。

58 C P i t 11 出土遺物

172は、土師器小皿で南伊勢系である。口縁部の



第20図 出土遺物実測図 (8) (1 : 4)

厚さが他のものと比べて厚い。

S D 765 出土遺物

173は土師器大型鉢で出土はこれ一点のみである。

27C P i t 2 出土遺物

174は陶器山茶椀である。底部は厚くやや盛り上がりを見せている。渥美・湖西型第7型式に相当する。当調査では第7型式の出土は極めて少ない。

S K 784 出土遺物

175～178は土師器皿で南伊勢系である。175の口縁部は厚い。177は底部から口縁部の立ち上がりが円形であって、口縁部径に対して器高の割合が大きい。

178は底部から口縁部の立ち上がりが急な角度で立ち上がっている。

S K 794 出土遺物

179～182は土師器皿で南伊勢系である。181・182は底部から口縁部への立ち上がりが急で、他のものと比べると厚さは非常に薄い。183・184は南伊勢系の土師器鍋である。いずれも第3段階に相当し、口縁部の内面への折り返しにその特徴がよく表

れている。185は土師器羽釜で南伊勢系である。

S K 753 出土遺物

186は土師器杯である。土師器杯の出土はこれ一点だけである。187は土師器皿で南伊勢系である。底部から口縁部への立ち上がりの角度は急である。南伊勢系のこれまでの同器種の中では器高に対する口径の比は小さい。当調査でた土師器皿としては最も新しく時代的にはⅢb期のもと考えられる。188～191は南伊勢系の土師器鍋である。いずれも第3段階に相当する。209は土師器鍋、210は丸瓦、211は陶器壺である。

S K 779 出土遺物

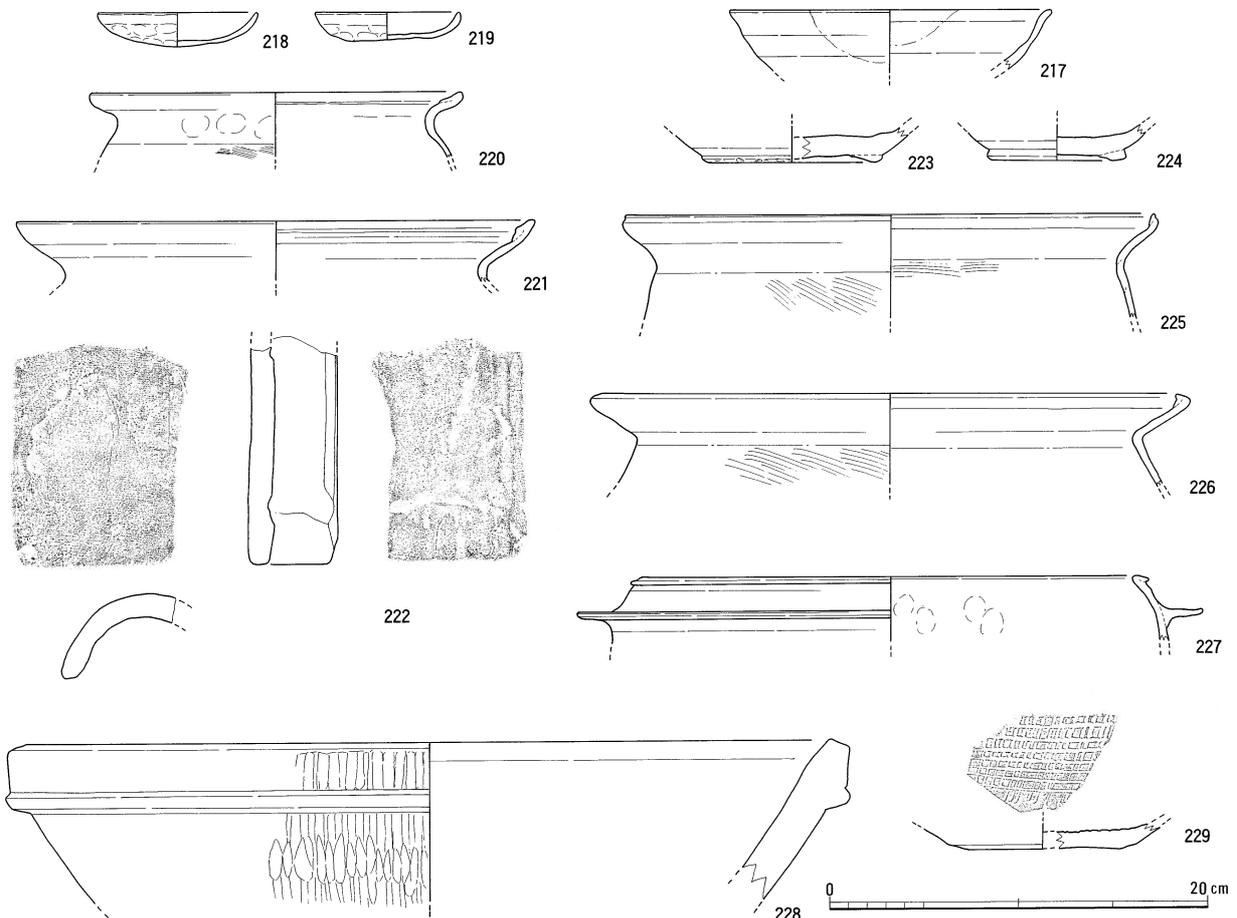
192は南伊勢系の土師器鍋である。第2段階に相当する。193は陶器練鉢である。

S D 782 出土遺物

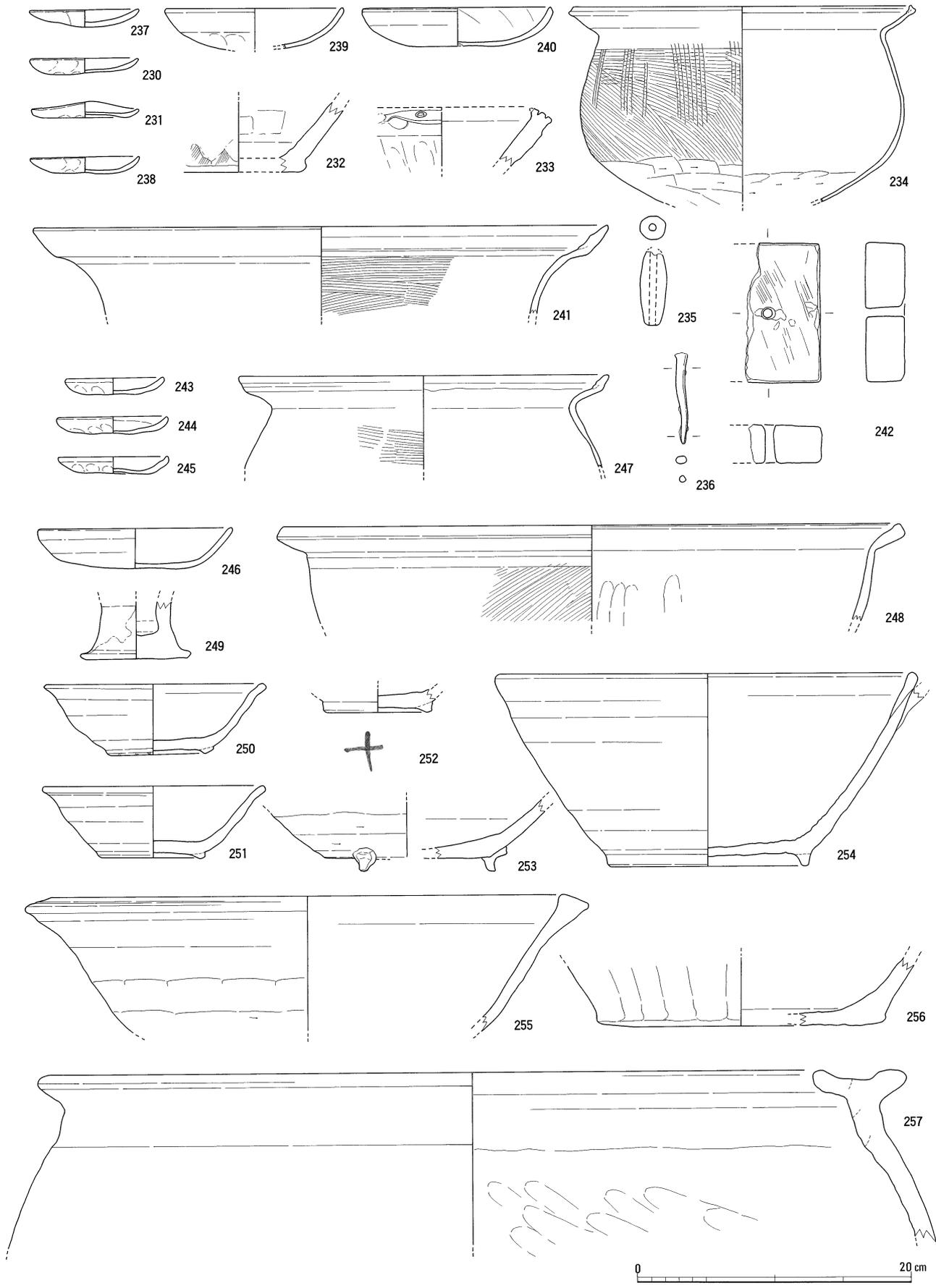
194は南伊勢系の土師器皿で、器高に対する口径の比は特に大きい。203は土師器鍋で南伊勢系である。

S K 800 出土遺物

195・196は土師器皿で南伊勢系である。196は



第21図 出土遺物実測図 (9) (1 : 4)



第22図 出土遺物実測図 (10) (1 : 4)

完成品である。197～200は土師器鍋である。いずれも南伊勢系で、197が第2段階に198～200が第3段階に相当する。201は鉄製品であるが小断片より器種不明である。202は鉄製釘である。

S K 798出土遺物

204は土師器鍋で南伊勢系である。

33 B P i t 4 出土遺物

205は土師器碗でこの器種の出土は極めて少ない。

21 C P i t 6 出土遺物

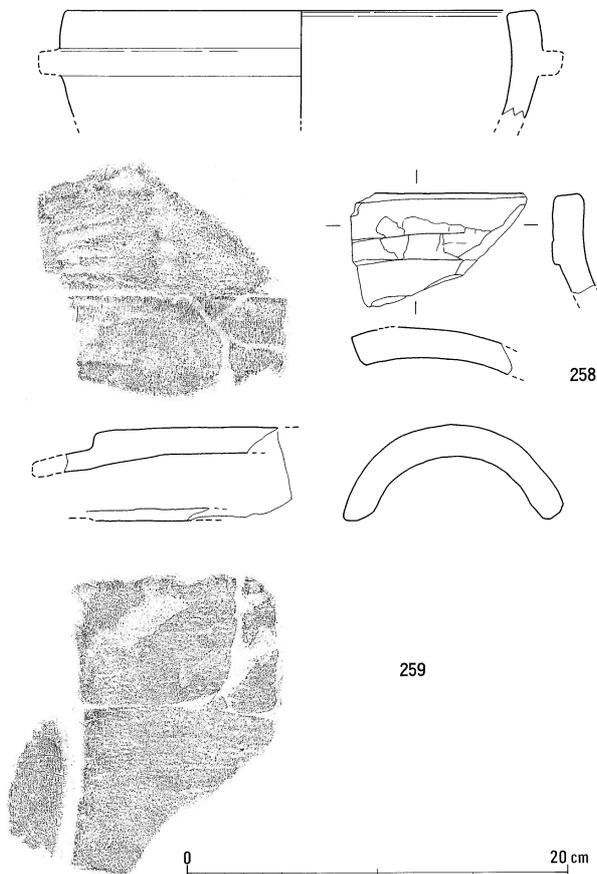
206は陶器天目茶碗で、にぶい褐色のサビ釉がつく。

S K 755出土遺物

207は土師器皿である。208は土師器鍋で南伊勢系第3段階に相当する。

S D 702出土遺物

212は陶器碗で、瀬戸産である。213は土師器鍋である。南伊勢系で第4段階に相当する。214は青磁碗である。龍泉窯系で山本氏の分類では⑨群（E期）に相当する。215は陶器練鉢で渥美産と思われる。216は陶器鉢で瀬戸産と思われる。



第23図 出土遺物実測図 (11) (1 : 4)

S D 810出土遺物

217は、陶器山茶碗で一部に施釉がある。

S K 754出土遺物

218・219は土師器小皿で口縁部に油煙痕があり灯明皿として使われていたと考えられる。219は完成品である。220・221・225・226は土師器鍋である。いずれも南伊勢系で220は第1段階、221が第3段階、225・226が第4段階に相当する。222は丸瓦である。223・224は陶器山茶碗である。224については渥美・湖西型第6型式に相当する。227は羽釜で南伊勢系である。228は石鍋で滑石製で、外面の縦方向へのハラケズリの痕が顕著である。229は陶器卸皿である。

S K 825出土遺物

230は土師器小皿で南伊勢系である。

S K 771出土遺物

231は土師器小皿で南伊勢系である。

20 B P i t 7 出土遺物

232は陶器甕である。胎土はやや粗い。

S K 728出土遺物

233は陶器鉢で、口縁上部に竹管痕がある。

33 B P i t 4 出土遺物

234は南伊勢系の土師器鍋で第4段階に相当する。

S D 842出土遺物

235は土製錘で完成品である。

32 B P i t 1 出土遺物

236は鉄製釘で、長さ6.7cmである。

自然流路（A地区）出土遺物

237・238は土師器小皿、239・240は土師器皿、241は土師器鍋でいずれも南伊勢系である。242は温石である。

包含層出土遺物

243～245は土師器小皿、246は土師器皿、247・248は土師器鍋でいずれも南伊勢系である。249は陶器花瓶で、瀬戸産である。250～252は陶器山茶碗である。252の底部外面には「十」の墨書がある。253は陶器三足鉢で、瀬戸産である。254は陶器片口鉢で知多・猿投方面の産である。255は陶器鉢、256・257は陶器甕である。257は常滑産である。258は石鍋で滑石製である。259は丸瓦である。

報告番号	登録番号	器種	地区	出土位置	出土遺構	取上時遺構名	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	001-07	土師器 小皿	B	14C	SD701	SD1	口:7.6 高:1.6	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	やや粗、~1.5mmの 小石含む	並	橙 5YR7/6	ほぼ 完存	
2	002-04	土師器 小皿	B	29BC	SD701	SD1	口:7.5 高:1.4	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、~2.5mmの 砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 完存	口縁ゆがみ大
3	002-05	土師器 小皿	B	27B	SD701	SD1	口:7.6 高:1.2	外:オサエ・ナデ 内:オサエ・ナデ	やや密、~1mmの微 砂粒含む	並	橙 5YR7/6	口縁 3/4	
4	001-06	土師器 小皿	B	36C	SD701	SD1	口:9.0 高:1.4	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、~3.5mmの 小石含む	並	浅黄橙 10YR8/3	完存	
5	001-01	土師器 皿	B	18B	SD701	SD1	口:14.6 高:2.8	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、3mmの砂粒 含む	並	にぶい橙 7. 5YR7/4	口縁 5/12	
6	001-05	土師器 皿	B	25B	SD701	SD1	口:14.2 高:2.7	外:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:オサエ・ヨコナデ	やや粗、~2.5mmの 砂粒含む	並	橙 7. 5YR7/6	口縁 5/12	
7	003-03	土師器 皿	B	27B	SD701	SD1	口:14.2 高:2.7	外:オサエ・ヨコナデ 内:ナデ	密	並	外:橙 7. 5YR7/6 内:にぶい橙 7. 5YR7/4	口縁 2/6	
8	001-02	土師器 皿	B	18BC	SD701	SD1	口:14.2 高:2.0	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~1mmの砂 微粒含む	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 6/12	
9	003-08	土師器 皿	B	11B	SD701	SD1	口:13.1 高:3.0	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 2/3	
10	003-02	土師器 皿	B	18BC	SD701	SD1	口:14.2	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ	やや密、~2mmの砂 粒含む	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁 5/12	
11	003-01	土師器 皿	B	27B	SD701	SD1	口:13.1 高:2.4	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ	密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/2	
12	020-03	陶器 山茶椀	B	30BC	SD701	SD1	口:15.5 高:5.7	外:ロクロナデ・糸切り・ナデ 貼り付け高台後ナデ 内:ロクロナ デ	密、~4mmの砂粒を 含む	良	灰白 5Y7/1	口縁 5/12	高台に粉殻痕
13	017-03	陶器 山茶椀	B	18B	SD701	SD1	口:15.8	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付 け高台後ナデ 内:ロクロナデ	やや密、~1mmの砂 粒と3mmの小石含む	良	外:灰 5Y6/1 内:灰白 5Y7/1	口縁 1/12	高台に粉殻痕
14	019-02	陶器 山茶椀	B	34BC	SD701	SD1	口:15.7 高:5.1	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台後ナデ 内:ロクロナデ	密、~0.4mmの砂粒 を多く含む	良	灰白 2. 5Y7/1	完存	高台に粉殻痕
15	021-01	陶器 山茶椀	B	18B	SD701	SD1	口:15.8 高:5.1	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付 け高台 内:ロクロナデ・ナデ	粗、~3.5mmの小石 含む	良	灰白 2. 5Y8/1 灰白 2. 5Y7/1	完存	高台に粉殻痕
16	015-04	陶器 山茶椀	B	37B	SD701	SD1	口:15.0 高:5.5	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ	やや粗、1~2mmの砂 粒含む	良	灰白 N8/0	口縁 5/6	高台に粉殻痕
17	016-05	陶器 山茶椀	B	19B	SD701	SD1	口:15.3 高:5.0	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付 け高台後ヨコナデ 内:ロクロナデ	やや密、~2mmの砂 粒混じる	良	灰白 2. 5Y7/1	口縁 5/6	高台に粉殻痕
18	022-02	陶器 山茶椀	B	19B	SD701	SD1	口:14.4 ~16.1 高:5.3	外:ロクロナデ・糸切り・ナデ 貼り 付け高台 内:ロクロナデ	粗、~4.5mmの小石 含む	良	灰白 N8/	完存	高台に粉殻痕 口縁部 内に自然釉 口縁ゆが み大
19	021-02	陶器 山茶椀	B	18B	SD701	SD1	口:15.7 高:5.8	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ・ナデ	粗、~4mmの小石含 む	良	灰白2. 5Y8/1	口縁 5/12	高台に粉殻痕
20	016-02	陶器 山茶椀	B	22BC	SD701	SD1	口:15.5 高:5.2	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ	やや密	良	黄灰 2. 5Y6/1	口縁 1/2	高台に粉殻痕
21	017-04	陶器 山茶椀	B	28BC	SD701	SD1	高台:7. 2	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台後ナデ 内:ロクロナデ	やや密、~1mmの砂 粒と3~4mmの小石含 む	良	灰白 2. 5Y7/1	高台 完存	内部に自然釉あり 高台 に糸切痕 外面底部に 墨跡あり
22	021-04	陶器 山茶椀	B	22BC	SD701	SD1	口:15.0 高:4.4	外:ロクロナデ・糸切り 内:ロクロ ナデ	やや粗、~3.5mmの 小石含む	良	灰白 2. 5Y8/1 灰白2. 5Y8/2	口縁 1/4	外面・内面に自然釉
23	020-02	陶器 山茶椀	B	24B	SD701	SD1	口:14.9 高:5.1	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付 け高台後ナデ 内:ロクロナデ	密、~2mmの砂粒を 含む	良	灰白 2. 5Y7/1	口縁 1/6	高台に粉殻痕
24	016-04	陶器 山茶椀	B	25B	SD701	SD1	口:14.4 高:5.1	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付 け高台後ヨコナデ 内:ロクロナデ	やや密、~2mmの砂 粒混じる	良	灰白 5Y7/1	口縁 3/4	高台に粉殻痕
25	020-01	陶器 山茶椀	B	22BC	SD701	SD1	口:15.8 高:5.2	外:ロクロナデ・糸切り・ナデ 貼 り付け高台後ナデ 内:ロクロナ デ	やや密、~5mmの砂 粒多く含む	良	灰白 2. 5Y7/1	口縁 1/4	高台に粉殻痕 内面に自然釉
26	018-01	陶器 山茶椀	B	37C	SD701	SD1	口:14.9 高:4.7	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台後ナデ 内:ロクロナデ・ナデ	やや密、~0.5mmの 砂粒と2mm、4mmの 小石含む	良	黄灰 2. 5Y6/1	口縁 1/3	高台に粉殻痕
27	015-03	陶器 山茶椀	B	37B	SD701	SD1	口:15.7 高:4.8	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ	やや粗、1~2mmの砂 粒含む	良	灰白 2. 5Y7/1	口縁 5/12	高台に粉殻痕 体部外 面に墨書「上」
28	023-01	土師器 台付小皿	B	15B	SD701	SD1	高台:4. 7	外:ロクロナデ 貼り付け高台	密	並	黄浅橙 7. 5YR8/4	高台 完存	
29	023-05	土師器 台付小皿	B	37B	SD701	SD1	高台:3. 6	外:貼り付け高台にナデ 内:ナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8/3	高台 完存	
30	004-02	土師器 鍋	B	24B	SD701	SD1	口:18.4	外:ケズリ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ケズリ・工具ナデ・ヨコナデ	密、~1.5mmの砂粒 を含む	並	にぶい褐 7. 5YR6/3 にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/6	外面に煤付着
31	004-04	土師器 鍋	B	36C	SD701	SD1	口:19.0	外:ケズリ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ケズリ・ナデ・ヨコナデ	やや密、~2mmの砂 粒多く含む	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 7/12	外面に煤付着
32	004-01	土師器 鍋	B	27B	SD701	SD1	口:23.4	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ヨコナデ	やや密、~1.5mmの 砂粒多く含む	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁 1/12	外面に煤付着
33	029-04	陶器 壺	B	31BC	SD701	SD1	口:11.2	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ 自然釉	やや密、~4mmの小 石含む	良	外:黒褐 10YR3/2 内:灰黄褐 10YR4/2~ 褐灰10YR4/1	口縁 小片	
34	029-01	陶器 鉢	B	35BC	SD701	SD1	口:30.6	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白2. 5Y8/1 釉:浅黄 2. 5Y7/3	口縁 1/12	
35	029-03	陶器 鉢	B	25BC	SD701	SD1	底:16.4	外:ナデ・オサエ 内:ナデ 自然釉	やや粗、~6mmの小 石含む	良	外:灰褐7. 5YR5/2 内:釉 灰オリーブ 7. 5Y5 /3	底部 1/12	
36	026-02	陶器 片口縁鉢	B	26BC	SD701	SD1	口:29.6 高:14.6	外:ロクロナデ ロクロケズリ・ナ デ 内:ロクロナデ	やや粗、1~2mmの砂 粒含む	良	灰白 2. 5Y7/1	口縁 1/12	
37	001-04	土師器 皿	B	17BC	SD701	SD1	口:11.8 高:2.2	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~1mmの微 砂粒含む	並	淡黄 2. 5YR8/3	口縁 7/12	

第4表 出土遺物観察表 (1)

報告番号	登録番号	器種	地区	出土位置	出土遺構	取上時遺構名	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
38	003-06	土師器 皿	B	18B	SD701	SD1	口:12.2 高:2.5	外:オサエ・ナデ 内:オサエ・ナデ	密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/4	
39	001-03	土師器 皿	B	26B	SD701	SD1	口:13.2 高:2.0	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密、~1mmの砂微砂 粒含む	並	橙 7.5YR7/6	口縁 1/2	
40	003-09	土師器 皿	B	30B	SD701	SD1	口:14.2 高:2.4	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ヨコナデ	密	並	にぶい橙 7.5YR7/6	口縁 5/12	
41	003-10	土師器 皿	B	36C	SD701	SD1	口:11.5 高:3.2	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ヨコナデ	密	並	外:にぶい黄橙10YR7/3 内:にぶい橙 7.5YR7/3	完存	
42	001-08	土師器 皿	B	27B	SD701	SD1	口:11.8 高:2.2	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~1mmの微 砂粒含む	並	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁 1/6	
43	002-03	土師器 皿	B	35BC	SD701	SD1	口:11.8 高:2.0	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~1mmの微 砂粒含む	並	灰白 10YR8/2	口縁 1/4	
44	003-07	土師器 皿	B	18B	SD701	SD1	口:12.5 高:2.2	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ	密	並	外:灰黄褐 10YR6/2内: にぶい黄橙10YR7/2	口縁 1/4	
45	015-06	陶器 山茶碗	B	23B	SD701	SD1	口:15.2 ~15.6 高:4.9	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白 N8/0	口縁 5/6	
46	021-05	陶器 山茶碗	B	18B	SD701	SD1	口:16.2 高:4.6	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ	やや密、~2mmの砂 粒含む	良	灰白 2.5Y7/1 黄灰 2.5Y6/1	口縁 1/12	外面底部と内面に煤付 着
47	022-01	陶器 山茶碗	B	25BC	SD701	SD1	口:15.3 高:4.8	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ	やや密、~4.5mmの 小石含む	良	灰白 N8/	口縁 1/6	
48	022-04	陶器 山茶碗	B	30B	SD701	SD1	高台:6. 6	外:ロクロナデ・糸切り・ナデ 貼り 付け高台 内:ロクロナデ	やや粗、~2.5mmの 砂粒含む	良	灰白 2.5Y7/1	高台 完存	底部外面に墨書「大」
49	019-03	陶器 山茶碗	B	18B	SD701	SD1	口:15.9 高:5.6	外:ロクロナデ・糸切り・ナデ 貼り 付け高台後ナデ 内:ロクロナデ	密、~5mmの砂粒を 含む	良	灰白 2.5Y7/1	口縁 2/3	高台に粉殻痕 底部外面に墨書「上」
50	019-01	陶器 山茶碗	B	37B	SD701	SD1	口:16.4 高:5.5	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付 け高台後ナデ 内:ロクロナデ	密、~1.5mmの砂粒 と7mm大の小石含む	良	にぶい黄橙 10YR7/2	口縁 2/3	
51	016-01	陶器 山茶碗	B	26B	SD701	SD1	口:15.7 高:5.5	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付 け高台後ヨコナデ 内:ロクロナ デ・ナデ	やや密、~2mmの砂 粒混じる	良	灰白 2.5Y7/1	完存	底部外面に墨書「十」高 台に粉殻痕
52	021-03	陶器 山茶碗	B	27B	SD701	SD1	高台:7. 2	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ	やや粗、~3.0mmの 砂粒含む	良	灰白 2.5Y7/1	高台 完存	高台に粉殻痕
53	025-07	陶器 小型鉢	B	33B	SD701	SD1	口:10.0	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白 N8/0	口縁 1/6	
54	030-02	陶器 壺	B	19BC	SD701	SD1	口:—	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	やや粗、~3mmの砂 粒含む	良	外:にぶい赤褐5YR4/3 内:褐 7.5YR4/3~灰黄 褐 10YR5/2	口縁 小片 1/12	
55	024-01	土製 鉢	B	30B	SD701	SD1	長:4.1 幅:1.9 穴:0.7	外:オサエ・ナデ 内:円棒状具の抜き痕	密		浅黄橙 10YR8/3	1/3	
56	024-02	土製 鉢	B		SD701	SD1	長:4.5 幅:3 穴:1.0	外:オサエ・ナデ 内:円棒状具の抜き痕	密		にぶい黄橙 10YR7/3 黄灰 2.5Y6/1	完存	
57	030-03	陶器 壺	B	34B	SD701	SD1	口:—	外:施釉 内:ナデ・オサエ	やや密、~2mmの砂 粒含む	良	釉:灰オリブ 5Y4/2 内:灰 5Y5/1	体部 小片	
58	024-04	丸瓦	B	23BC	SD701	SD1	厚:2.5	外:不明 内:ケズリ・布目	密	良	灰 N5/0		
59	013-01	土師器 羽釜	B	13BC	SD701	SD1	口:23.8 鏝:28.4	外:ハケメ・ヨコナデ 鏝貼り付け 内:ハケメ・ヨコナデ	やや密、1mmの砂粒 含む	並	灰白 2.5YR8/2 灰白10YR8/2	口縁 1/12	外面に煤付着
60	014-01	土師器 羽釜	B	13BC	SD701	SD1	口:24.3 鏝:28.9	外:ハケメ・ヨコナデ 鏝貼り付け 内:ハケメ・ヨコナデ	やや粗、1~2mmの砂 粒含む	並	灰白10YR8/2 褐灰10YR6/1	口縁 1/3	外面に煤付着
61	013-02	土師器 羽釜	B	37B	SD701	SD1	口:19.6 鏝:23.3	外:ケズリ・ヨコナデ 鏝貼り付け 内:ケズリ・ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8/4 にぶい褐 7.5YR5/3	口縁 1/12	外面に煤付着
62	014-02	土師器 羽釜	B	36C	SD701	SD1	口:23.2 鏝:25.2	外:ケズリ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 鏝貼り付け 内:ケズリ・ヨコナデ	やや粗、1~2mmの砂 粒含む	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 1/4	外面に煤付着
63	007-01	土師器 鍋	B	37B	SD701	SD1	口:26. 0	外:ナデ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗~1mmの砂粒 含む	並	外:にぶい黄橙 10YR7/3 内:浅黄橙 7. 5YR8/6	口縁 1/4	外面に煤付着
64	009-01	土師器 鍋	B	23BC	SD701	SD1	口:37.0	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、1.5mmの小 石含む	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁 1/6	外面に煤付着
65	008-01	土師器 鍋	B	33C	SD701	SD1	口:37.0	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:工具ナデ・ヨコナデ	やや粗~0.5mmの砂 粒と2mmの小石含む	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 1/6	外内面磨耗あり
66	028-03	陶器 壺	B	33B	SD701	SD1	口:—	外:タタキ・ナデ 内:ナデ・ロクロナデ	やや密	良	灰 N4/	体部 小片	
67	031-07	土師器 壺?	B	27BC	SD701	SD1	底:9.4	外:不明 内:不明	粗、~2mmの砂粒 含む	並	浅黄橙 7.5YR8/4 灰白 2.5YR8/2	底部 5/12	
68	053-01	鉄製 錠前	B	14BC	SD701	SD1	長:16.0 幅:3.0 厚:0.9					ほぼ 完存	
69	006-04	土師器 鍋	B	24BC	SD701	SD1	口:21.9	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密、~2mmの砂粒多 く含む	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 1/12	外面に煤付着
70	008-02	土師器 鍋	B	34B	SD701	SD1	口:26.0	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:工具ナデ・ヨコナデ	やや粗~1mmの砂粒 含む	並	外:にぶい黄褐 10YR5/3 内:にぶい黄橙 10YR7/4	口縁 1/4	外面に煤付着
71	005-02	土師器 鍋	B	37C	SD701	SD1	口:29.2	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~2mmの砂 粒多く含む	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/6	外面に煤付着
72	005-01	土師器 鍋	B	32B	SD701	SD1	口:21.3	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:オサエ・ナデ・ヨコナデ	やや粗、~3mmの砂 粒含む	並	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁 1/12	外面に煤、内面に炭化 物付着
73	006-03	土師器 鍋	B	30B	SD701	SD1	口:22.0	外:ナデ・ヨコナデ 内:ケズリ・ヨコナデ	やや密、~3.5mmの 砂粒多く含む	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 1/12	外面に煤、内面に炭化 物付着
74	009-04	土師器 鍋	B	34B	SD701	SD1	口:24.0	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、1.5~3mm の小石~0.5mmの砂 粒含む	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁 1/6	外面に煤付着

第5表 出土遺物観察表(2)

報告番号	登録番号	器種	地区	出土位置	出土遺構	取上時遺構名	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
75	005-04	土師器 鍋	B	27B	SD701	SD1	口:26.0	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密、~2mmの砂粒多く含む	並	にぶい黄橙 10YR6/3	口縁 1/6	外面に煤付着
76	006-02	土師器 鍋	B	33B	SD701	SD1	口:27.2	外:オサエ・ヨコナデ 内:板ナデ・ヨコナデ	やや密、~2mmの砂粒多く含む	並	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁 1/4	外面に煤付着
77	009-03	土師器 鍋	B	27B	SD701	SD1	口:22.0	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、~1.5mmの砂粒と雲母含む	並	外:にぶい黄橙 10YR6/3 内:浅黄橙 10YR8/4	口縁 1/6	外面に煤付着
78	009-02	土師器 鍋	B	25B	SD701	SD1	口:26.0	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、~0.5mmの砂粒と3mmの小石と雲母含む	並	黄浅橙 10YR8/4	口縁 1/4	外面に煤付着 外・内面 磨耗あり
79	010-01	土師器 鍋	B	18B	SD701	SD1	口:28.0 体:31.0	外:ナデ・ケズリ・ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ケズリ・ナデ・ヨコナデ	やや密	並	外:にぶい褐 内:にぶい黄橙	口縁 1/6	外面に煤、内面に炭化物付
80	004-03	土師器 鍋	B	25BC	SD701	SD1	口:31.2	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~1mmの砂粒を含む	並	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁 1/12	外面に煤付着
81	003-04	土師器 皿	B	27BC	SD701	SD1	口:12.5	外:ナデ 内:ナデ	密	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁 3/4	
82	003-05	土師器 皿	B	29BC	SD701	SD1	口:11.3 高:2.6	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 3/4	
83	011-01	土師器 鍋	B	26BC	SD701	SD1	口:25.0	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/6	外面に煤付着
84	011-03	土師器 鍋	B	33BC	SD701	SD1	口:31.0	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:工具ナデ・ヨコナデ	密	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/12	外面に煤付着
85	012-03	土師器 鍋	B	34B	SD701	SD1	口:26.2	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/4	外面に煤、内面に炭化物付着
86	011-02	土師器 鍋	B	29B	SD701	SD1	口:28.0	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/6	
87	012-02	土師器 鍋	B	19BC	SD701	SD1	口:28.4	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR6/3	口縁 1/12	外面に煤付着
88	025-06	陶器 山皿	B	30B	SD701	SD1	口:8.4 高:1.8	外:ロクロナデ・糸切り 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白 N8/0	口縁 1/4	
89	025-05	陶器 山皿	B	29BC	SD701	SD1	口:8.4 高:1.7	外:ロクロナデ・糸切り 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白 N8/0	完存	
90	025-04	陶器 鉢	B	27B	SD701	SD1	高台:1 7.4	外:ケズリ・貼り付け高台 内:ロクロナデ	やや粗、1~2mmの砂粒含む	良	灰白 N7/0	高台 1/6	
91	028-01	陶器 線鉢	B	30B	SD701	SD1	口:25.8	外:オサエ・ハケメ・ヨコナデ 内:ナデ・ハケメ・ヨコナデ	やや粗、~3mmの砂粒含む	良	外:にぶい褐 7.5YR5/3 内:灰黄 2.5Y6/2	口縁 1/6	
92	031-06	青磁 椀	B	32BC	SD701	SD1	口:16.0	外:施釉 内:施釉	密、~1mmの微砂粒含む	良	黄褐 2.5Y5/4	口縁 1/6	
93	031-01	青磁 椀	B	28BC	SD701	SD1	口:16.0	外:施釉 内:施釉	密、~1mmの微砂粒含む	良	明オリブ灰 5GY7/1	口縁 1/6	
94	032-04	青磁 椀	B	30B	SD701	SD1	口:16.8	外:施釉 内:施釉	密	良	灰オリブ 7.5Y6/2	口縁 1/12	
95	030-04	青白磁 合子	B	20BC	SD701	SD1	口:—	外:施釉 内:施釉	密	良	釉:明青灰 5BC7/1	体部 小片	
96	031-03	青磁 椀	B	34B	SD701	SD1	底:4.1	外:施釉 削り出し高台 内:施釉	密、~1mmの微砂粒含む	良	明オリブ灰 2.5GY7/1	底部 3/4	
97	029-02	青磁 椀	B	23B	SD701	SD1	高台:5.7	外:ロクロナデ・施釉 削り出し高台 内:ロクロナデ・施釉	密	良	(素地)灰白5Y7/1 灰黄褐10YR5/2(釉)灰オリブ5Y6/2	高台 ほぼ 完存	
98	032-03	青磁 椀	B	19B	SD701	SD1	口:16.0	外:施釉 内:施釉	密	良	灰オリブ 5Y5/3	口縁 1/12	
99	031-05	青磁 小皿	B	30BC	SD701	SD1	底:4.4	外:ロクロケズリ後ナデ 施釉 内:施釉	密、~1mmの微砂粒含む	良	灰 7.5Y6/1	底部 1/4	
100	031-04	青磁 椀	B	14BC	SD701	SD1	底:4.2	外:施釉 削り出し高台 内:施釉	密、~1mmの微砂粒含む	良	灰オリブ 7.5Y6/2	底部 1/12	
101	031-02	青磁 椀	B	19BC	SD701	SD1	底:5.7	外:施釉 削り出し高台 内:施釉	密、~1mmの微砂粒含む	良	オリブ灰 5GY	底部 1/2	
102	002-01	土師器 小皿	B	21B	SD701	SD1	口:6.8 高:0.8	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密	並	橙 5YR7/6	口縁 1/4	
103	002-09	土師器 小皿	B	28BC	SD701	SD1	口:8.2 高:1.3	外:オサエナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~1mmの微砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/2	
104	002-02	土師器 皿	B	36BC	SD701	SD1	口:8.4 高:1.2	外:オサエ・ナデ 内:オサエ・ナデ	やや粗、~1.5mmの微砂粒含む	並	灰白 10YR8/2	口縁 1/2	口縁、底部歪む
105	002-08	土師器 小皿	B	28B	SD701	SD1	口:7.5 高:0.9	外:オサエナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、~2.5mmの砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 1/2	
106	002-06	土師器 皿	B	34BC	SD701	SD1	口:8.0 高:0.9	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、~1mmの微砂粒含む	並	淡橙 5YR8/4	口縁 1/2	
107	002-07	土師器 小皿	B	15BC	SD701	SD1	口:7.3 高:0.9	外:オサエナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、~2mmの砂粒含む	並	浅黄橙 2.5YR8/4	口縁 2/3	
108	006-01	土師器 鍋	B	13BC	SD701	SD1	口:19.8	外:ナデ・ハケメ・ヨコナデ 内:オサエ・ナデ・ヨコナデ	密、~1.5mmの砂粒含む	並	にぶい黄橙 10YR7/2	口縁 1/12	外面に煤付着
109	005-03	土師器 鍋	B	13BC	SD701	SD1	口:24.8	外:ハケメ・ヨコナデ 内:ヨコナデ	密、~1.5mmの砂粒含む	並	にぶい黄橙 10YR7/2	口縁 1/6	
110	010-03	土師器 鍋	B	13BC	SD701	SD1	口:26.0	外:ハケメ・ヨコナデ 内:工具ナデ・ヨコナデ	やや密	並	外:にぶい黄橙 10YR7/3 内:浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/6	外面に煤付着
111	012-01	土師器 鍋	B	13BC	SD701	SD1	口:32.0	外:ハケメ・ヨコナデ 内:ハケメ・ナデ・ヨコナデ	密	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁 1/12	外面に煤付着

第6表 出土遺物観察表(3)

報告番号	登録番号	器種	地区	出土位置	出土遺構	取上時遺構名	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
112	028-02	陶器 甕	B	34B	SD701	SD1	口: 一	外:タタキ・ナデ [*] 内:ナデ・ロクロナデ	密	良	外:黄灰2.5Y6/1 内:灰 N6/	体部小片	
113	020-04	陶器 山茶碗	B	18B	SD701	SD1	口:15.9 高:5.2	外:ロクロナデ・糸切り・ナデ 貼り付け高台後ナデ 内:ロクロナデ	密、~1mmの砂粒を含む	良	灰白 10YR7/1	口縁 1/6	
114	017-05	陶器 山茶碗	B	27BC	SD701	SD1	高台:7.2	外:ロクロナデ・糸切り 高台にナデ 貼り付け高台 内:ロクロナデ	やや密、~1mmの砂粒を含む	良	外:灰黄2.5Y7/2 内:10YR7/2	高台 5/12	内面に墨付着痕 外面底部に○の墨書 高台に糸切痕
115	024-05	土師器 土製支脚	B	27BC	SD701	SD1			やや密、~2mmの砂粒を含む	並	にぶい黄 7.5YR6/3		
116	032-05	石製 温石	B	不明	SD701	SD1	横:9.5 縦:8.6 厚:1.5	ケズリ後穿孔			灰褐 10YR6/1	9/10	滑石製
117	053-02	鉄製 火打ち鎌	B	18B	SD701	SD1	長:6.5 幅:2.1 厚:0.6						ほぼ完存
118	026-01	陶器 線鉢	B	14BC	SD701	SD1	口:32.4	外:ロクロナデ ロクロケズリ 内:ロクロナデ	やや密、1~2mmの砂粒を含む	良	灰白 N7/0	口縁 1/6	
119	026-03	陶器 線鉢	B	27BC	SD701	SD1	口:28.0	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰 N4/0	口縁 1/12 以下	
120	025-01	陶器 線鉢	B	17BC	SD701	SD1	高台:14.0 ~14.5	外:ロクロナデ・ロクロケズリ 内:ロクロナデ	やや粗、5~8mmの小石と1~3mmの砂粒を含む	良	灰白 N7/0	高台 11/12	
121	030-01	蓋	B	13BC	SD701	SD1	口:5.0	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ・ナデ	密	良	釉:黄褐2.5Y5/4~オリーブ褐 2.5Y4/3 内:にぶい赤褐5YR5/4	2/3	外面に文様あり
122	027-01	陶器 有耳壺	B	25BC	SD701	SD1	底:8.4	外:ケズリ・ナデ・オサエ・ロクロナデ 内:ロクロナデ	やや粗、~3mmの砂粒を含む	良	外:灰赤 2.5YR5/2 内:灰褐5YR5/2	底部完存	
123	024-03	丸瓦	B	18BC	SD701	SD1	厚:1.4	外:不明 内:不明	やや密	良	灰 5Y6/1		
124	032-01	石鍋	B	18BC	SD701	SD1	口:22.8	外:ケズリ 内:ケズリ			灰褐 10YR6/1	口縁 1/12	滑石製
125	044-05	土師器 皿	B	28B	SD727	SD27	口:15.0 高:2.4 ~3.6	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~2mmの砂粒多く含む	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁 1/2	4箇所の穿孔あり
126	044-04	土師器 鍋	B	32B	SD727	SD27	口: 一	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	密、1.5mmの砂粒を含む	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/12 以下	外面に煤付着
127	034-03	青磁 皿	B	27C	SD703	SD3	底:4.0	外:ロクロナデ後施釉 内:ロクロナデ後施釉	密	良	灰5Y6/1 釉:オリーブ灰 2.5GY6/1	底部 1/4	内面に重ね焼痕
128	033-05	青磁 碗	B	29C	SD703	SD3	高台:5.6	外:ロクロナデ後施釉・貼り付け高台 内:ロクロナデ後施釉	密、~1mmの砂粒を含む	良	灰 5Y6/1 釉:オリーブ灰10Y6/2	高台完存	
129	033-01	陶器 山茶碗	B	27C	SD703	SD3	口:16.2 高:5.3	外:ロクロナデ・糸切り・ 貼り付け高台後ナデ 内:ロクロナデ	やや密、~1mmの砂粒を含む	良	黄灰 2.5Y6/1	口縁 5/12	高台に粉殻痕
130	033-02	陶器 山茶碗	B	29C	SD703	SD3	口:15.9 高:5.0	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け高台後ナデ 内:ロクロナデ	やや密、~15mmの小石を含む	良	灰黄 2.5Y7/2	口縁 2/12	高台に粉殻痕
131	033-03	陶器 山茶碗	B	26C	SD703	SD3	高台:7.1	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け高台後ナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白 2.5Y7/1	高台 ほぼ完存	高台に粉殻痕
132	033-04	陶器 壺	B	29C	SD703	SD3	底:8.9	外:ロクロナデ後施釉・ナデ内:ロクロナデ・オサエ	やや密、~2mmの砂粒を含む	良	にぶ黄橙10YR7/2 釉:灰オリーブ7.5Y6/2 ~灰白7.5Y7/	底部 1/2	
133	033-06	須恵器	B	29C	SD703	SD3	口: 一	外:タタキ 内:同心円	やや密、~4mmの小石・砂粒を含む	良	外:灰 7.5Y4/1 内:黒褐10YR3/1	体部小片	
134	034-01	土師器 鍋	B	27C	SD703	SD3	口:23.0	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、~3mmの砂粒を含む	並	外:にぶい黄橙 10YR7/4 内:浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/6	外面に煤付着
135	034-02	土師器 鍋	B	27C	SD703	SD3	口:22.3	外:ケズリ・ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ケズリ・ナデ・ヨコナデ	やや密、~2mmの砂粒を含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/12	外面に煤付着
136	055-06	土師器 小皿	A	57C	SD848	SD8	口:8.3 高:1.2	外:オサエ 内:ナデ	密、~2mmの砂粒を含む	並	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁 7/12	
137	055-07	土師器 皿	A	58C	SD848	SD8	口:13.8	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ	やや密、~3mmの砂粒を含む	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁 1/12	
138	055-08	陶器 山茶碗	A	58C	SD848	SD8	高台:6.8	外:ロクロナデ・糸切り・ 貼り付け高台後ナデ 内:ロクロナデ・一方ナデ	密、~1.5mmの砂粒を含む	良	灰黄 2.5Y7/2	底部 5/12	
139	055-10	土師器 鍋	A	58C	SD848	SD8	口: 一	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	やや密、~2mmの砂粒多く含む	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁 小片	
140	055-09	土師器 鍋	A	57C	SD848	SD8	口:27.8	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	密、~2mmの砂粒を含む	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁 1/12	
141	044-03	土師器 鍋	B	33B	SD747	SD47	口: 一	外:ヨコナデ 内:イタナデ・ヨコナデ	やや密、~2mmの砂粒を含む	並	にぶい橙 7.5YR7/3	口縁 1/12 以下	外面に煤、内面に炭化物付着
142	044-02	陶器 山茶碗	B	33B	SD747	SD47	高:7.1	外:ロクロナデ・糸切り痕ナデ 貼り付け高台ナデ 内:ロクロナデ	密、~1.5mmの砂粒を含む	良	灰白 10YR7/1	高台完存	
143	044-01	陶器 山茶碗	B	33B	SD747	SD47	口:15.7 高:5.3 ~5.7	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け高台 内:ロクロナデ	密、2mmの砂粒を含む	良	黄灰 2.5Y6/1	口縁 1/2	外面と内面の上部につけかけ釉
144	045-03	土師器 小皿	B	15B	SK781	SK81	口:7.0 高:1.0	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密、2.5mmの砂粒を含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/3	
145	055-04	土師器 小皿	A	58C	SD847	SK7	口:7.0 高:1.2	外:オサエ 内:ナデ	密、~1mmの砂粒を含む	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁 1/3	歪みあり
146	055-03	土師器 鍋	A	58C	SD847	SK7	口: 一	外:ヨコナデ 内:ナデ	密、~3mmの砂粒を含む	並	浅黄橙 7.5YR8/3	口縁 小片	
147	055-02	陶器 山茶碗	A	54B	SK845	SK5	高台:7.2	外:ロクロナデ・糸切り・貼り付け高台後ナデ 内:ロクロナデ	密、~2mmの砂粒を含む	良	灰白 5Y7/1	底部 1/6	高台に粉殻痕
148	049-07	青磁 碗	B	13C	SK785	SK85	口: 一	外:施釉(ロクロ使用) 削出し高台内:施釉(ロクロ使用)	密	良	釉:灰オリーブ5Y5/2 断:灰白	体部小片	

第7表 出土遺物観察表(4)

報告番号	登録番号	器種	地区	出土位置	出土遺構	取上時遺構名	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
149	049-08	青磁	B	36B	SK749	SK49	口:—	外:施釉 内:施釉	密	良	灰白 釉:灰オリーブ	口縁 小片	
150	043-05	陶器 山皿	B	20B	SK722	SK22	口:8.0 高:1.4	外:ロクロナデ・糸切り 内:ロクロナデ	密	良	灰白 N7/0	口縁 5/12	
151	043-06	陶器 山茶椀	B	20C	SK722	SK22	高台:8.5 ~8.8	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白 2.5Y7/1	底部 1/2	
152	043-02	土師器 鍋	B	20B	SK722	SK22	口:22.4	外:ハケメ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、1~2mmの砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/4 にぶい黄橙 5YR7/4 断:暗灰	口縁 1/6	
153	043-07	青磁 小皿	B	20B	SK722	SK22	口:10.8 高:2.1	外:ロクロナデ後施釉・糸切り 内:ロクロナデ後施釉	密	良	灰白N 7/0 釉:灰オリーブ7.5Y6/2	口縁 1/12	
154	045-01	白磁 椀	B	35B	SD736	SD36	口:17.1	外:ロクロ使用 うすく施釉 内:ロクロ使用 うすく施釉	密	良	灰白 5Y7/1	口縁 1/12	
155	054-10	土師器 小皿	A	57C	SK846	SK6	口:7.9 高:0.8 ~1.3	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密、~1mmの砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 2/3	
156	054-03	土師器 小皿	A	57C	SK846	SK6	口:8.0 高:0.6 ~1.7	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密、~1.5mmの砂粒含む	並	灰白 10YR8/2	口縁 3/4	壺みあり
157	054-05	土師器 小皿	A	57C	SK846	SK6	口:7.4 高:0.6 ~2.0	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密、~1mmの砂粒含む	並	灰黄褐 10YR6/2	口縁 完存	壺みあり
158	054-04	土師器 小皿	A	57C	SK846	SK6	口:8.8 高:0.7 ~1.7	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	やや密、~1.0mmの砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 5/6	壺みあり
159	055-01	土師器 小皿	A	57C	SK846	SK6	口:7.7 高:1.3	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密、~1mmの砂粒含む	並	湯灰 10YR4/1	口縁 3/4	
160	054-08	土師器 小皿	A	57C	SK846	SK6	口:7.4 高:1.2	外:オサエ 内:ナデ	密、~1.5mm砂粒含む	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/2	
161	054-07	土師器 小皿	A	57C	SK846	SK6	口:7.6 高:1.9	外:オサエ・ナデ・ナデ 内:ナデ	密、~1.5mmの砂粒含む	並	灰黄 2.5Y6/2	口縁 完存	
162	054-09	土師器 皿	A	57C	SK846	SK6	口:12.5	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~3mmの砂粒多く含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/3	
163	054-01	土師器 皿	A	57C	SK846	SK6	口:12.2 ~12.7 高:2.6	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密、~1.5mmの砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 完存	
164	054-02	土師器 皿	A	57C	SK846	SK6	口:12.1 ~12.6 高:2.3	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密、~1mmの砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 完存	
165	054-06	土師器 皿	A	57C	SK846	SK6	口:12.7 高:2.2	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密、微砂粒含む	並	灰白 2.5Y8/2	口縁 1/4	
166	045-05	礎石	B	20C	SK707	SK7	長:18.1 幅:8.3 厚:1.9				緑灰 10GY6/1		450g 元は打製石器の可能性あり
167	049-04	陶器 山茶椀	B	16C	SK761	SK61	高台:7.0	外:ロクロナデ・貼り付け高台ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1	底部 1/12	高台に粉殻痕
168	045-04	陶器 山茶椀	B	20C	SK707	SK7	高台:9.0	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ	密、2.5mmの砂粒含む	良	灰黄褐 10YR6/2	底部 1/3	内部に炭化物付着
169	049-02	青磁 椀	B	19B	SK723	SK23	高台:6.0	外:施釉 削出し高台(釉なし) 内:ロクロナデ・施釉	密	良	釉:暗オリーブ 5Y4/3 素地:黄灰2.5Y5/1	底部 5/12	
170	050-04	陶器 山茶椀	B	7C	Pit9	Pit9	高台:6.6	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ	やや密	良	黄灰 2.5Y6/1	底部 完存	高台に粉殻痕
171	056-03	土師器 小皿	A	52C	Pit4	Pit4	口:8.6 高:1.4	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密	並	灰黄 2.5Y7/2	口縁 1/2	
172	056-01	土師器 小皿	A	58C	Pit11	Pit11	口:8.0 高:1.2	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/6	
173	048-06	土師器 大型鉢	B	14C	SD765	SD65	口:—	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 小片	
174	050-03	陶器 山茶椀	B	27C	Pit2	Pit2	高台:7.0	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け 高台 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白 5Y7/1	底部 7/12	
175	048-03	土師器 皿	B	14C	SK784	SK84	口:11.0	外:ナデ 内:ナデ	密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/6	
176	056-02	土師器 皿	A	58C	Pit4	Pit4	口:11.0	外:ナデ 内:ナデ	密	並	にぶい黄橙 10YR6/4	口縁 1/4	
177	056-04	土師器 皿	A	53C	Pit3	Pit3	口:12.4	外:ナデ 内:ナデ	密	並	灰白 10YR8/2	口縁 1/3	
178	043-04	土師器 皿	B	10C	SK779	SK79	口:12.1 高:1.3	外:ナデ 内:ナデ	やや粗、1~2mmの砂粒含む	並	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁 5/6	
179	047-01	土師器 皿	B	12C	SK794	SK94	口:12.9 高:2.1	外:ナデ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、~3mmの砂粒含む	並	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁 5/6	
180	047-09	土師器 皿	B	12C	SK794	SK94	口:12.2 高:1.8	外:ナデ 内:ナデ	やや密、~1mmの微砂粒含む	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁 1/6	
181	047-02	土師器 皿	B	12C	SK794	SK94	口:11.8 高:2.5	外:一方ナデ・オサエ・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや密、~1mmの微砂粒含む	並	淡黄 2.5Y8/3	ほぼ 完在	
182	047-03	土師器 皿	B	12C	SK794	SK94	口:11.6 高:2.4	外:ナデ・オサエ 内:ナデ	やや粗、~1.5mmの微砂粒含む	並	淡黄 2.5Y8/3	ほぼ 完在	
183	046-04	土師器 鍋	B	12C	SK794	SK94	口:28.0	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密、~1.5mmの微砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3 にぶい黄橙 10YR6/3	口縁 1/6	外面に煤付着
184	046-03	土師器 鍋	B	12C	SK794	SK94	口:26.0	外:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	粗、~1.5mmの微砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/6	外面に煤付着
185	046-01	土師器 羽釜	B	12C	SK794	SK94	口:32.0	外:ハケメ・ヨコナデ 貼り付け ナデ 内:ナデ	やや粗、~2mmの砂粒含む	並	灰白 10YR8/2 灰黄褐 10YR5/2 断:暗灰	口縁 1/12	外面に煤付着

第8表 出土遺物観察表(5)

報告番号	登録番号	器種	地区	出土位置	出土遺構	取上時遺構名	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
186	039-03	土師器杯	B		SK753	SK53	口:15.0	外:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ヨコナデ	やや密	並	浅黄 2.5Y7/3	口縁 1/3	
187	039-04	土師器皿	B	13B	SK753	SK53	口:10.0	外:オサエ・ナデ 内:オサエ・ナデ	やや密、~3mmの砂粒1個含む	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/4	
188	040-01	土師器鍋	B	13B	SK753	SK53	口:22.0	外:ケズリ・オサエ後ハケメ・ヨコナデ 内:ケズリ・ナデ・オサエ・ヨコナデ	密、~0.5mmの砂粒と2.5mmの小石含む	並	外:灰白 10YR8/2 内:灰黄橙 10YR8/3	口縁 3/4	外面に煤付着
189	038-01	土師器鍋	B	13B	SK753	SK53	口:28.0	外:ケズリ・ハケメ・ヨコナデ 内:ナデ・オサエ・ヨコナデ	やや粗	並	外:灰黄褐 10YR5/2 内:にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/6	外面に煤厚く付着
190	039-01	土師器鍋	B	13B	SK753	SK53	口:26.0	外:ハケメ・ヨコナデ 内:ナデ・オサエ・ヨコナデ	やや密	並	外:にぶい黄橙 10YR7/2 内:にぶい黄橙 10YR6/4	口縁 5/12	外面に煤付着
191	039-02	土師器鍋	B	13B	SK753	SK53	口:27.6	外:ハケメ・ヨコナデ 内:ナデ・オサエ・ヨコナデ	やや密	並	外:黒褐 10YR3/2 内:灰黄褐 10YR4/2	口縁 1/6	
192	043-03	土師器鍋	B	10C	SK779	SK79	口:21.2	外:ケズリ・ハケメ・ヨコナデ 内:ケズリ・ナデ・ヨコナデ	やや粗、1~2mmの砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3 にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/3	外面に煤付着
193	043-01	陶器線鉢	B	10C	SK779	SK79	口:26.3	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	やや密、1mm~2mmの砂粒含む	良	灰褐 5YR5/2	口縁 1/12	
194	044-07	土師器皿	B	9B	SD782	SD82	口:13.0 高:2.0	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ	やや密、~2mmの砂粒含む	並	灰白 10YR8/2	口縁 1/4	口縁1/3
195	042-04	土師器皿	B	11C	SK800	SK100	口:11.7 高:2.4	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密	並	浅黄橙 10YR8/3	3/4	
196	042-03	土師器皿	B	11C	SK800	SK100	口:11.5 高:2.6	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密	並	浅黄橙 10YR8/3	完存	
197	042-02	土師器鍋	B	11C	SK800	SK100	口:21.3 高:11.6	外:ナデ・ケズリ・ハケメ・ヨコナデ 内:ナデ・ケズリ・オサエ・ナデ・ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 3/4	外面に煤付着
198	042-01	土師器鍋	B	11C	SK800	SK100	口:21.3	外:ナデ・ケズリ・オサエ後ハケメ・ヨコナデ 内:ケズリ・ナデ・ヨコナデ	密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 5/6	外面に煤付着
199	041-01	土師器鍋	B	10C	SK800	SK100	口:20.0	外:ナデ・ケズリ・ハケメ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ケズリ・ナデ・オサエ・ヨコナデ	やや密、~0.5mmの砂粒と雲母含む	並	外:浅黄橙 10YR8/3 内:にぶい黄橙 10YR7/4 濁灰 10YR4/1	1月3日	外面に煤付着 内面に焦痕
200	040-02	土師器鍋	B	10C	SK800	SK100	口:22.0	外:オサエ後ハケメ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密、~0.5mmの砂粒と雲母含む	並	外:灰白 2.5Y7/1 内:浅黄橙 10YR8/4	口縁 1/2	外面に煤付着
201	053-03	鉄製器種不明	B	10C	SK800	SK100	長:4.4 幅:0.7 厚:1.8						錆による劣化激しい
202	053-04	鉄製釘	B	10C	SK800	SK100	長:5.4 幅:0.4 厚:0.4						錆による劣化激しい
203	044-06	土師器鍋	B	8B	SD782	SD82	口:—	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	密、2.5mmの砂粒多く含む	並	灰白 10YR8/2	口縁 小片	
204	048-08	土師器鍋	B	10C	SK798	SK98	口:—	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	密	並	灰白 2.5Y8/22	口縁 小片	
205	050-02	土師器椀	B	33B	Pt4	Pt4	底:9.6	外:ナデ 内:ナデ	やや密	良	浅黄橙 10YR8/3	底部 1/6	
206	051-03	陶器天目茶碗	B	21C	Pt6	Pt6	口:12.6	外:サビ釉・ケズリ 内:サビ釉	やや密	良	サビ釉:にぶい褐 7.5YR5/3 素地:灰黄 2.5Y7/2	口縁 1/6	
207	048-04	土師器皿	B	18C	SK755	SK55	口:15.3	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 5/12	
208	048-07	土師器鍋	B	18C	SK755	SK55	口:—	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	密	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁 小片	
209	038-02	土師器鍋	B	13B	SK753	SK53	口:35.0	外:ケズリ・ハケメ・ヨコナデ 内:ナデ・オサエ・ヨコナデ	やや粗	並	外:にぶい黄橙 10YR7/2 内:灰黄褐 10YR6/2		外面に煤付着
210	040-03	丸瓦	B	13B	SK753	SK53	厚:1.7	外:ナデ 内:ヌメ・コビキ	密	良	灰 N5/0		
211	041-02	陶器壺	B	13B	SK753	SK53	—	外:タタキ 内:オサエ・ナデ	密、2~3mmの小石含む	良	黄灰 2.5Y5/1	肩部 片	
212	047-05	陶器椀	B	19C	SD702	SD2	高台:3.5	外:ロクロケズリ・ロクロナデ・ケズリ出し高台・施釉 内:施釉	やや密、~1.5mmの微砂粒含む	良	灰黄 2.5Y7/2 オリーフ黄 5Y6/3	底部 4/12	
213	046-02	土師器鍋	B	19C	SD702	SD2	口:30.0	外:ハケメ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密、~1mmの微砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/6	外面に煤付着
214	047-07	青磁椀	B	26C	SD702	SD2	口:—	外:施釉 蓮弁紋 内:施釉	やや密、~1mmの微砂粒含む	良	明緑灰 7.5GY7/1	口縁 小片	
215	047-06	陶器線鉢	B	21C	SD702	SD2	口:—	外:不明瞭 内:不明瞭	やや密、~1mmの微砂粒含む	良	灰 5Y5/1	口縁 小片	
216	047-08	陶器鉢	B	19C	SD702	SD2	底:18.0	外:施釉 内:施釉	やや密、~1.5mmの微砂粒含む	良	オリーフ黄 7.5Y6/3 灰白 2.5Y7/1	底部 1/6	
217	049-03	陶器山茶椀	B	3B	SD810	SD110	口:17.5	外:ロクロナデ 一部施釉 内:ロクロナデ 一部施釉	密	良	釉:灰白 2.5Y8/2 素地:灰白 2.5Y8/1	口縁 1/6	
218	035-02	土師器小皿	B	16C	SK754	SK54	口:8.5 高:1.8	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密、~1mm、3mm大の砂粒含む	並	浅黄橙 7.5YR8/4	完存	口縁部に油煙跡 灯明皿
219	035-01	土師器小皿	B	16C	SK754	SK54	口:7.6 高:1.5	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密、~1.5mmの砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 11/12	口縁部に油煙跡 灯明皿
220	035-03	土師器鍋	B	17B	SK754	SK54	口:19.7	外:ハケメ・ヨコナデ 内:オサエ・ナデ・ヨコナデ	密、~1mmの砂粒含む	並	灰白 10YR8/2	口縁 1/6	外面に煤、内面に炭化物付
221	035-04	土師器鍋	B	17B	SK754	SK54	口:27.4	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	やや密、~1.5mmの砂粒多く含む	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/12	外面に煤付着
222	037-02	丸瓦	B	18C	SK754	SK54	厚:1.6	外:不明瞭 内:ケズリ	密、~1.5mmの砂粒含む	良	灰 N5/0		残存長:12.0 外径:7.6

第9表 出土遺物観察表(6)

報告番号	登録番号	器種	地区	出土位置	出土遺構	取上時遺構名	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
223	035-06	陶器 山茶椀	B	16C	SK754	SK54	高台:9.5	外:ロクロナデ・糸切り・貼り付け高台後ナデ 内:ロクロナデ・オサエ・ナデ	密、~1.5mmの砂粒含む	良	灰白 2.5Y7/1	底部 1/3	高台に靱殻痕
224	035-05	陶器 山茶椀	B	17C	SK754	SK54	高台:7.3	外:ロクロナデ・糸切り後ナデ・貼り付け高台後ナデ 内:ロクロナデ・一方向ナデ	密、~1mmの砂粒含む	良	灰白 2.5Y7/1	底部 2/3	
225	036-01	土師器 鍋	B	16C	SK754	SK54	口:28.4	外:ハケメ・ヨコナデ 内:ハケ後ナデ・ヨコナデ	密、~1mmの砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/12	外面に煤付着
226	036-02	土師器 鍋	B	17C	SK754	SK54	口:31.8	外:ハケメ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密、~1.5mmの砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/6	外面に煤付着
227	036-04	土師器 羽釜	B	17C	SK754	SK54	口:27.4	外:ヨコナデ・貼り付け鑄後ナデ 内:ヨコナデ	密、~2mmの砂粒含む	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/12	外面に煤付着
228	037-01	石鍋	B	18C	SK754	SK54	口:44.5	外:ヘラケズリ・ケズリ 内:ケズリ・ミガキ			灰褐 7.5YR6/2	口縁 1/12	石質:滑石
229	035-07	陶器 卸皿	B	17C	SK754	SK54	底:10.0	外:ロクロナデ 糸切り 内:卸目	密、~1mmの砂粒含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	底部 1/3	
230	048-02	土師器 小皿	B	7B	SK825	SK125	口:7.9 高:1.1	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 11/12	
231	048-01	土師器 小皿	B	17B	SK771	SK71	口:7.8 高:0.6 ~1.2	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/2	
232	052-03	陶器 壺	B	20B	Pit7 (SA729)	Pit7 (SA29)	口:—	外:工具ナデ・ナデ 内:工具ナデ・ナデ	やや粗	良	灰褐 5YR5/2	底部 小片	
233	049-01	陶器 鉢	B	28B	SK728	SK28	口:—	外:ヨコナデ 口縁上部に竹管痕 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~2mmの微砂粒含む	良	にぶい橙 5YR6/4	口縁 小片	
234	050-01	土師器 鍋	B	33B	Pit4	Pit4	口:25.2	外:ケズリ・ハケメ・ヨコナデ 内:ケズリ・工具ナデ・ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁 1/6	外面に煤付着
235	055-05	土製 鉢	A	52C	SD842	SD2	長:5.4 幅:1.9 穴:0.5	外:オサエ・ナデ 内:円棒状具の抜き痕	密、微砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3	完存	
236	053-05	鉄製 釘	B	32B	Pit1 (SB829)	Pit1 (SB129)	長:6.7 幅:0.5 厚:0.5						錆による劣化激しい
237	056-05	土師器 小皿	A	56B		自然流路2	口:7.9 高:1.3	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密	並	灰白 10YR8/2	口縁 完存	
238	056-06	土師器 小皿	A	56C		自然流路2	口:7.9 高:1.2	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 3/4	
239	056-07	土師器 皿	A	56C		自然流路2	口:13.1	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	密	並	橙 5YR7/6	口縁 1/4	
240	056-08	土師器 皿	A	56C		自然流路2	口:14.0 高:2.8	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	密	並	外:灰黄橙 10YR5/2 内:にぶい橙 7.5YR7/4	口縁 1/4	
241	057-01	土師器 鍋	A	56C		自然流路2	口:42.0	外:ナデ・ヨコナデ 内:ハケメ・ヨコナデ	密	並	淡黄 2.5Y8/3	口縁 1/6	
242	057-02	音石	A	56C		自然流路2	縦:10.2 厚:2.9 穴:0.2	外:ケズリ・鑄部加工 内:ケズリ			灰褐 7.5YR6/2	3/5	
243	059-06	土師器 小皿	A	57B		包含層	口:7.2 ~7.6 高:1.2	外:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 完存	
244	059-04	土師器 小皿	A	57C		包含層	口:8.1 ~8.3 高:1.2	外:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 ほぼ完存	内面に工具あたり痕
245	059-05	土師器 小皿	A	63A		包含層	口:7.5 ~8.1 高:1.2	外:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁 完存	
246	058-03	土師器 皿	A	53B		包含層	口:14.2	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密		浅黄橙 10YR8/3	口縁 3/4	
247	058-02	土師器 鍋	A	51B		包含層	口:27.0	外:ハケメ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 1/4	
248	051-01	土師器 鍋	B	12B		包含層	口:50.0	外:ハケメ・ヨコナデ 内:ナデ・オサエ・ヨコナデ	やや密	並	外:にぶい黄橙 10YR6/3 内:浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/12	
249	051-04	陶器 花瓶	B	18C		包含層	底:8.0	外:ロクロナデ・施釉 内:ロクロナデ	密	良	素地:浅黄橙 10YR8/3 釉:オリブ黄 7.5Y6/3	底部 完存	
250	059-01	陶器 山茶椀	A	53B		包含層	口:16.2 高:5.2	外:ロクロナデ 貼り付け高台ヘラ キリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白 N8/0	口縁 11/12	
251	059-02	陶器 山茶椀	A	53B		包含層	口:16.2 ~16.6 高:5.3	外:ロクロナデ 貼り付け高台 口クロケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1	口縁 11/12	
252	059-03	陶器 山茶椀	A	51B		包含層	高台:7.9	外:糸切り 貼り付け高台 内:ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1	底部 1/6	
253	061-03	陶器 三足鉢	A	56B		包含層	高台:12.	外:ロクロケズリ・貼り付け高台に 指頭痕 内:ロクロケズリ	密	良	黄灰 2.5Y6/1	底部 1/12	
254	061-02	陶器 片口鉢	A	57B		包含層	口:31.0 高:14.7	外:ロクロナデ・ケズリ・ナデ・貼り 付け高台後ナデ 内:使用痕・磨 耗	やや密、1mmの砂粒と 3~6mmの小石含む	良	(外)灰白 7.5Y7/1 (内)灰 5Y6/1	口縁 1/6	
255	058-01	土師器 鉢	A	51B		包含層	口:41.1	外:ケズリ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、1mm~2mm の砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 1/6	
256	052-02	陶器 壺	B	27C		包含層	底:21.2	外:工具ナデ・ナデ 内:ナデ	やや密	良	灰褐 5YR5/2	底部 小片	底部に敷葉痕
257	061-01	陶器 壺	A	60C		包含層	口:63.6	外:ロクロケズリ・工具ナデ・ヨコ ナデ 内:ロクロナデ・オサエ・ ナデ・鑄軸	密、1mmの砂粒と2~ 2.5mmの小石含む	良	灰褐 7.5YR4/2	口縁 1/12	
258	052-01	石鍋	B	20C		包含層	口:24.6	外:ケズリ・鑄部加工 内:ケズリ			灰褐 7.5YR6/2	口縁 1/12	石質:滑石
259	060-01	丸瓦	A	51B		包含層	幅:11.5 厚:1.6	外:ナデ・ケズリ 内:ヌノメ・ケズリ	密	良	灰 N5/0		

第10表 出土遺物観察表 (7)

V 第5次調査

1 調査の経過と方法

岩出遺跡群第5次調査は平成15年10月27日～31日に本調査として清水地区で行われた。最終調査面積は100㎡である。調査の契機は、「I 前言」に記述した通りである。この調査の経過を調査日誌等により辿ると以下である。

- 10月27日 表土掘削開始・包含層掘削開始
- 10月28日 遺構検出・南壁土層断面図作成
遺構平面実測図作成
- 10月29日 南壁土層断面図作成
写真撮影（調査区全景・個別遺構・調査区南壁北壁土層）

調査区の設定としては、調査区面積が狭く南北が約3mで東西に細長い関係上、4mごとにA1～F1までの杭を直線状一列に打ち、杭～杭間を小地区（グリッド）として西側杭で各地区（A1グリッド、B1グリッド…）を表した。（A1グリッドより東はZ1グリッドとした。）

掘削完了後に、遺構平面実測図を1/50で、土層断面実測図を1/20で作成した。出土遺物類の回収、遺物類の整理・記録、発掘記録類の保管は、岩出遺跡群第8次調査の方法と同じである。（「I 前言」を参照）

2 調査の成果

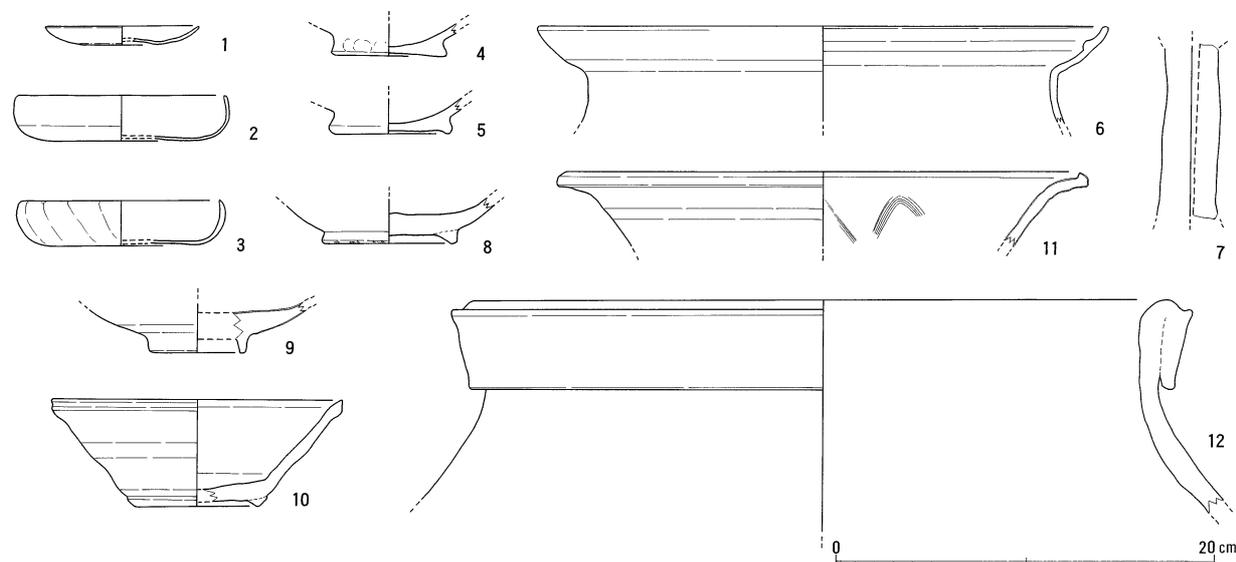
基本層序としては、第1層が褐灰色土（耕作土）、第2層が浅黄橙色土（床土：貼り床）、第3層が黒褐色土（包含層1）、第4層が赤黒色土（包含層2、礫多く含む）、第5層が褐灰色土（包含層3）である。第5層の下が地山面で遺構がみられた。

遺構は、ピットと土坑（SK601）と溝（SD602）であった。SK601は幅0.75m、長さ1.7m、深さ0.68mである。SD602は、幅0.5m、長さ1.2m、深さ0.31mである。これら遺構からは遺物は出

なかったため時期は不明である。

遺物は、包含層から出土した。平安末～鎌倉時代・室町時代の土師器・陶器・輸入陶器等が出土した。

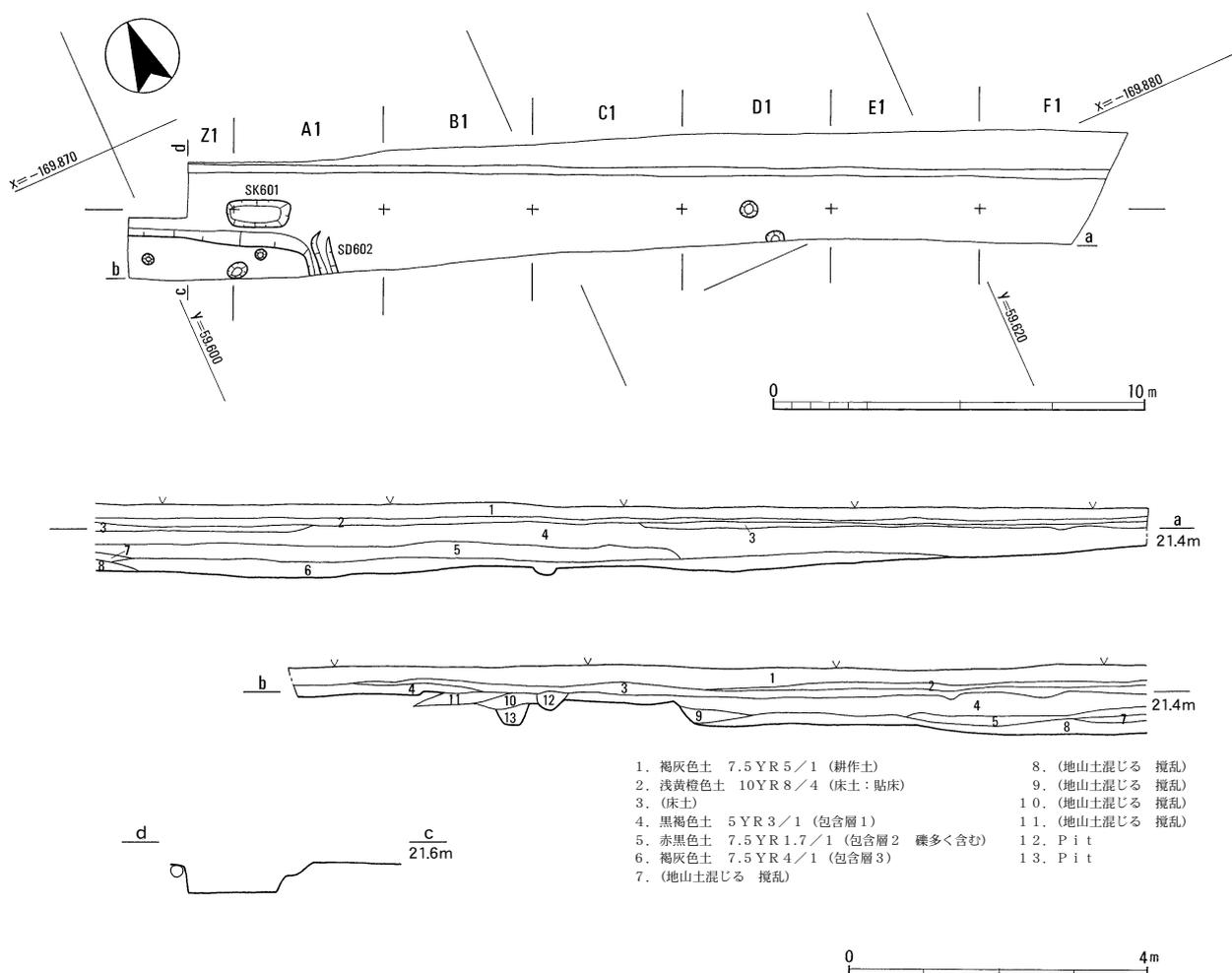
1～3は、土師器皿である。4・5は土師器椀である。6は土師器鍋で、南伊勢系である。第3段階aに相当する。7は土師器高杯である。8・10は陶器山茶椀である。8は渥美・湖西型第6型式に、10は尾張型第6型式に相当する。9は青磁椀である。11は陶器鉢で、常滑産である。12は陶器甕である。



第24図 出土遺物実測図（12）（1：4）

報告番号	登録番号	器種	地区	出土位置	出土遺構	取上時層序名	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	063-08	土師器 皿		D1		包含層	口:8.0 高:1.0	外:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、~2mmの砂粒含む	並	灰白 10YR8/2	口縁 1/2	
2	063-06	土師器 皿		D1		包含層	口:11.0 高:2.4	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~1.5mmの微砂粒含む	並	浅黄橙 N4/	口縁 1/4	
3	063-07	土師器 皿		D1		包含層	口:10.4 高:2.4	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~1mmの微砂粒含む	並	灰白 2.5Y8/2	口縁 1/4	
4	063-05	土師器 椀		Z1		包含層	底:6.0	外:ナデ・ヨコナデ・ナデ 内:ナデ	密、~1mmの微砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/4 橙 2.5YR6/6	底部 3/4	
5	063-03	土師器 椀		A1		包含層	底:6.3	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ	密	並	橙 5YR7/6	底部 2/3	
6	062-02	土師器 鍋		Z1		包含層	口:30.0	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	粗、~2.5mmの砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁 1/12	
7	062-04	土師器 高杯		C1		包含層	—	外:ナデ	やや密、~3mmの砂粒含む	並	にぶい橙 7.5YR7/3	脚部片	残存長:9.0cm
8	063-01	陶器 山茶椀		A1		包含層	高台:7.1	外:ロクロナデ・糸切り 高台 内:ロクロナデ	やや粗、~2mmの砂粒含む	良	灰白 2.5Y7/1	口縁 1/12	
9	063-04	青磁 椀		A1		包含層	底:5.2	外:施釉 内:施釉	やや密、~1mmの微砂粒含む	良	灰 7.5Y5/1 灰 5Y5/1	底部 1/4	
10	063-02	陶器 山茶椀		D1		包含層	口:15.2 高:9.6	外:ロクロナデ・糸切り 高台 内:ロクロナデ	やや粗、1.5mmの微砂粒含む	良	灰黄 2.5Y6/2	口縁 1/12	
11	062-03	陶器 鉢		C1		包含層	口:28.0	外:施釉 内:施釉	やや密、~1mmの微砂粒含む	良	オリーブ黄 5Y6/3	口縁 1/6	
12	062-01	陶器 甕		A1		包含層	口:39.0	外:回転ナデ・ヨコナデ 内:回転ナデ	やや粗、7mmの小石含む	良	にぶい赤褐 2.5YR4/3	口縁 1/6	

第11表 出土遺物観察表 (8)



第25図 第5次調査区遺構平面図 (1:200)・土層断面図 (1:100)

VI 第7次調査

1 調査の経過と方法

岩出遺跡群第7次調査は、本発掘調査として平成16年3月2日～3月9日にケカノ辻地区で行われた。調査面積は、65㎡ある。

調査の契機は、「I 前言」の所に書いた通りである。

この調査の経過を調査日誌等により辿ると以下である。

- 3月2日 表土掘削開始・包含層掘削開始
- 3月3日 遺構検出開始・遺構掘削開始
- 3月4日 遺構掘削
- 3月8日 調査区西壁・北壁土層断面実測図作成
個別遺構実測図・北壁土層断面実測図作成
- 3月9日 平板測量で遺構平面略図作成
写真撮影（調査区全景・個別遺構・調査

区西壁北壁土層）

調査区の設定としては、4㎡正方の柵目で区切ることにより小地区（グリッド）単位であらわした。東西方向をアルファベット（大文字）で西から東へA～Fとした。また南北方向をアラビア数字で南から北へ100・101とした。そして、A100グリッド、A101グリッド・・・としていった。

遺構検出段階で1/40の略測図（遺構カード）を作成した。掘削完了後には、遺構平面略図を平板測量により1/100で、および土層断面実測図を1/20で、個別遺構実測図を1/20で作成した。

出土遺物類の回収、遺物類の整理・記録、発掘記録類の保管は、岩出遺跡群第8次調査の方法と同じである。（「I 前言」を参照）

2 調査の成果

(1) 基本層序

調査区の現況地は平坦な畑地であった。

基本層序としては、第1層が黒色土（新耕作土）、第2層がオリーブ黒色土（旧耕作土）、第3層が黒褐色土（包含層）、第4層が黄色土（地山）である。包含層は旧耕作土のために残りは少なかった。遺構は、第3層下の地山面にみられた。

(2) 遺構

遺構としては、調査区南東側のD101、D102、E101、E102グリッドを中心にピットを多数確認した。各ピットの大きさは、径0.1～0.5m、深さ0.01～0.4mの円形及び楕円形のもものがほとんどである。これらピットからは遺物は出なかったので時期は不明である。

その他、検出時及び掘削時には、調査区北壁側の3基の土坑と思われていたもの、及びB100、B101グリッドにある溝と思われていたものは、遺構ではなくて全て現代の攪乱跡であった。

多数のピットであるが、柱穴と判断できる柱痕のあるものはみられなかった。ゆえにそれらがどういう性格のものであるかは判断しづらいが、柵跡等が含まれている可能性もあろう。

(3) 遺物

遺物は、表土掘削においてと現代の攪乱跡から、平安末～鎌倉・室町時代の土師器、陶器、貿易陶器、瓦等が出土した。

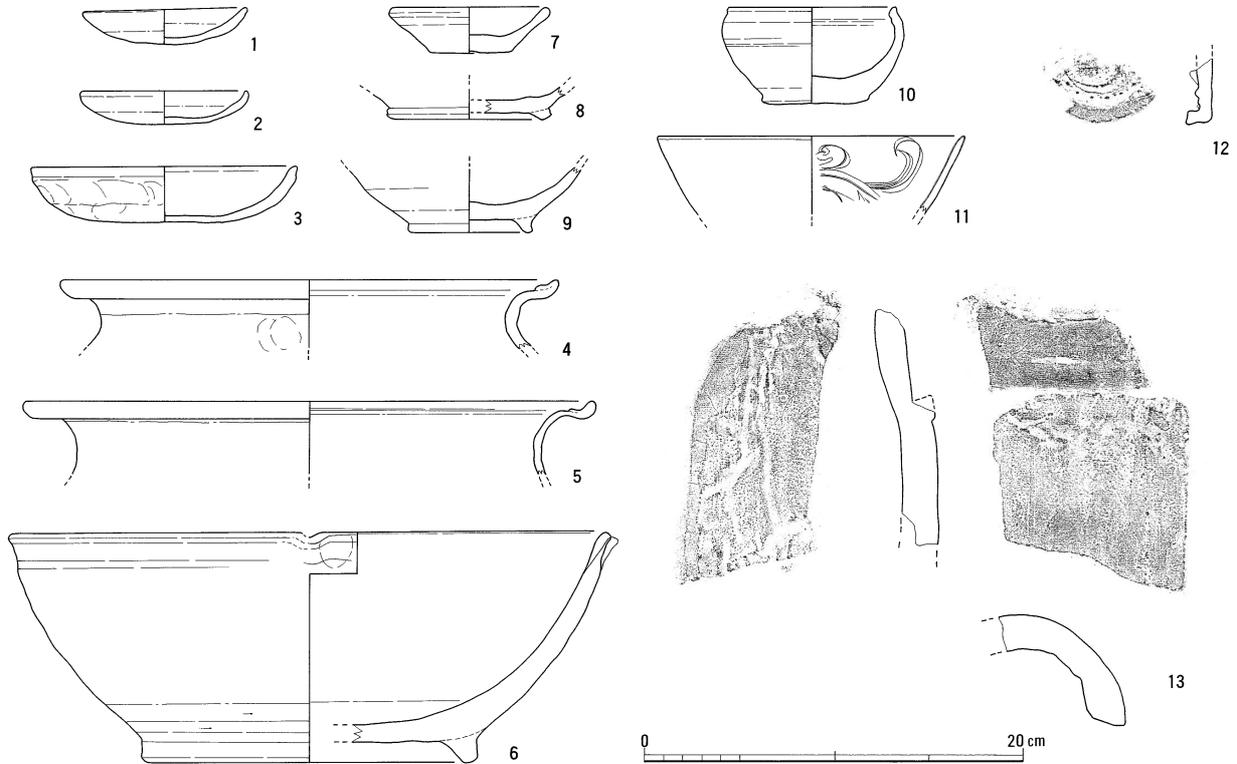
出土遺物について述べる。

1・2は土師器小皿で、南伊勢系である。1については底部中央が上に盛り上がっている。2は、口縁部は他よりも厚く、底部から口縁部への立ち上がりは丸みを帯びながらも急で口縁の曲がりはやや内側に入る。3は土師器皿で、南伊勢系である。底部から口縁にかけての立ち上がりは丸みを帯びながらも急である。4・5は土師器鍋で、南伊勢系である。いずれも第1段階に相当する。6は陶器片口鉢である。7は陶器山皿である。口縁部に自然釉がかかっ

ていて、完存品である。

8・9は陶器山茶碗である。8は尾張型、9は渥美・湖西型と思われる。10は陶器小型鉢である。口

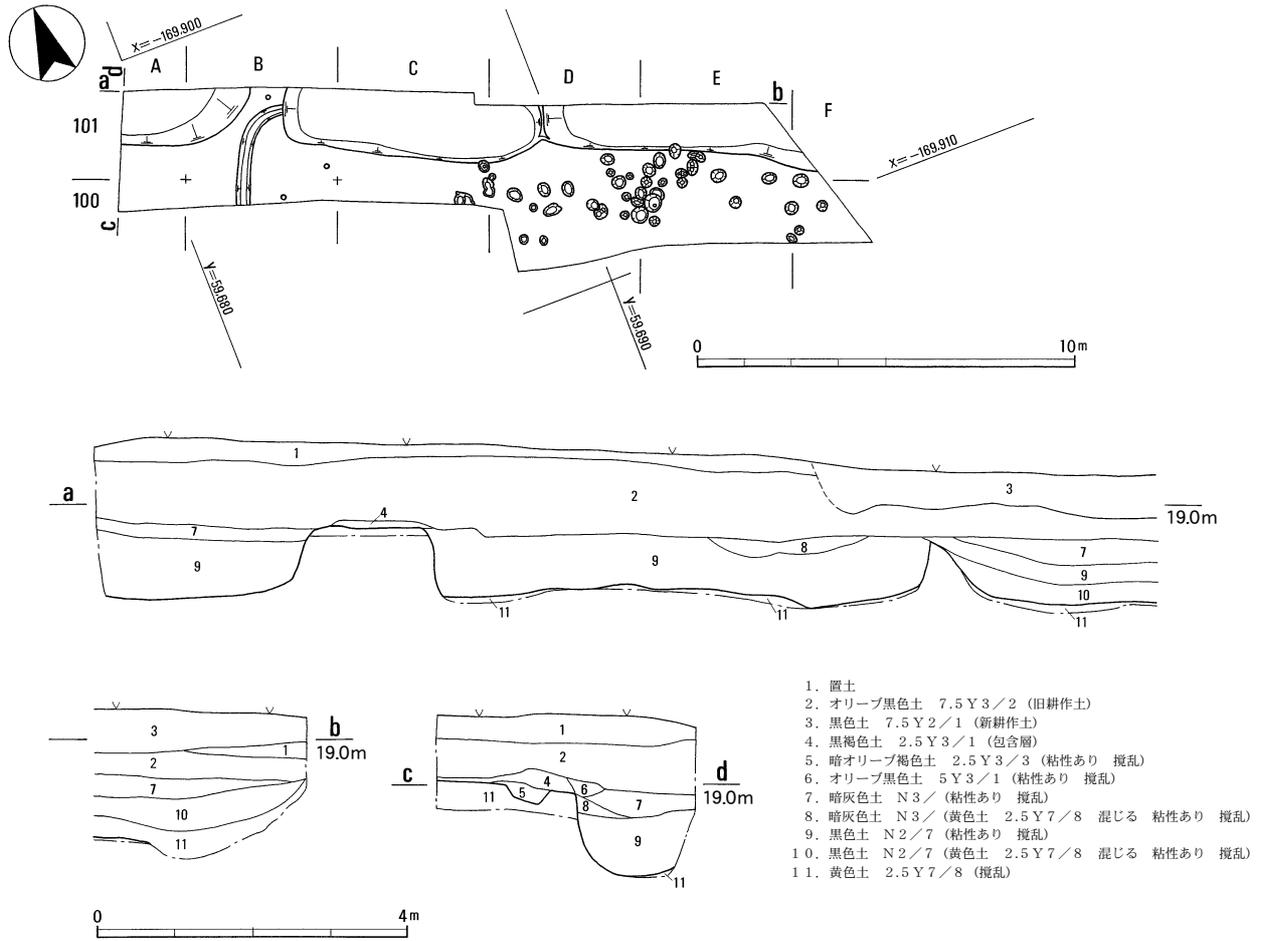
縁径8.9cm、高さ5.1cmである。内側には自然釉がかかっている。11は青磁碗で龍泉窯系である。12は軒丸瓦である。巴紋と朱紋帯がある。13は丸瓦である。



第26図 出土遺物実測図 (13) (1 : 4)

報告番号	登録番号	器種	地区	出土位置	出土遺構	取上時層序名等	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	064-04	土師器小皿		C101		攪乱	口:8.7 高:1.8	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 3/4	
2	064-03	土師器小皿				表土掘削	口:8.8 高:1.8	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密	並	黄灰 2.5Y4/1	口縁 1/6	
3	064-05	土師器皿		E101		攪乱	口:14.0 高:2.9	外:ナデ・ヨコナデ 内:一方向ナデ・ヨコナデ	やや粗、~1mmの砂粒含む	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁 1/4	
4	065-03	土師器鍋		D101		攪乱	口:26.2	外:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや密、~2mmの砂粒含む	並	灰黄濁 10YR5/2	口縁 1/12	
5	065-02	土師器鍋				表土掘削	口:30.1	外:ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ヨコナデ	やや粗、~1mmの砂粒含む	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁 1/12	
6	065-01	陶器片口鉢		A101		攪乱	口:31.6 高:12.1	外:ロクロナデ・ロクロケズリ・ナデ・貼り付け高台後ナデ 内:ロクロナデ	密、~2mmの砂粒含む	良	黄灰 2.5Y5/1	口縁 1/6	
7	064-01	陶器山皿		E101		攪乱	口:8.4 高:2.4	外:ロクロナデ・糸切り 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白 2.5Y7/1	完存	口縁部に自然釉
8	064-07	陶器山茶碗		D101		攪乱	高台:8.6	外:糸切り・貼り付け高台後ナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰黄 2.5Y6/2	口縁 5/12	
9	064-06	陶器山茶碗		E101		攪乱	高台:6.5	外:ロクロナデ・糸切り 貼り付け高台後ナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白 5Y7/1	口縁 3/4	
10	064-02	陶器小型鉢		C101		攪乱	口:8.9 高:5.1	外:ロクロナデ・糸切り 内:自然釉	密	良	黄灰 2.5Y6/1 褐7.5YR4/3	口縁 1/4	
11	064-08	青磁碗		E101		攪乱	口:16.0	外:ロクロナデ後施釉 内:ロクロナデ後施釉	密	良	灰白 5Y7/1 釉:明オリープ灰 5GY7/1	口縁 1/6	
12	066-02	軒丸瓦				表土掘削	径: —	外:巴紋・朱文帯 内:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR6/3		
13	066-01	丸瓦				表土掘削	厚:1.7	外:不明瞭 内:ナデ・ヨコナデ	やや密	良	黄灰 2.5Y6/1		

第12表 出土遺物観察表 (9)



第27図 第7次調査区遺構平面図 (1 : 200) ・ 土層断面図 (1 : 200)

Ⅶ 結語

1 SD701について

平成16年度に行われた第8次調査で検出された、細長いB地区全体を西から東に通る大溝SD701の性格については、第一に区画用であることが考えられる。

この調査区と近い位置にある平成2年度のケカノ辻・角垣内地区での第3次調査は、道路建設予定地の南北に細長い調査区で行われた。その調査では、中世12世紀後葉～15世紀中葉の区画溝と思われる東西に走ると考えられる大溝の一部が多数確認されて、昭和18年当時の地割地図との照合の結果は、ケカノ辻・角垣内地区での整合性については良好であった^①。今回はこれら大溝と同類のもの的一条が長い範囲にわたって検出され、先の調査で分からなかったこれら大溝の様子が明らかにされてきたと考えられよう。

実際にこの大溝は、岩出小字清水と中角小字向井との字界に沿って通っていることから、区画が古い時代から現代まで引き継がれている傾向を考えると、区画用の溝であったことが考えられる。

その他には、農業用としても考えられる。実際にこの溝の南側は現在も田畑であり、この溝の水が当時の農業用水として使われたことが考えられる。

水の流れについて言えば、B地区西端には、愛宕山北山裾から続くと考えられるSD735、SD736、SD741などの溝が、SD701にほぼ直行の形で交わる。つまり山裾から湧き出た水がこれらの溝を通過して、SD701に流れこんだわけである。しかし、この落ち込み辺りは高度からみると山裾でも分水嶺あたりであり、水は東側だけでなく西側にも分けて流れていったと考えられる。東側に流れる水は農業用水として使われたと考えられる。ただし東側の水の流れを追っていくと、水の流れを妨げるような溝の低部が一段高くなった堰状の盛り上がりも数箇所見られる。これは日照りのときには堰と堰との間が溜まり水になり、日照り時の灌漑用水になった可能性なども考えられよう。

またSD701では溝底部を中心に、12世紀後葉～14世紀前葉を中心とする11世紀～16世紀にかけての大量の中世土器が出土した。これは3に掲載した表でわかるようにこの調査で出土した全土器数の約38%にあたる。日用品である山茶碗や土師器小皿・皿・鍋などが多かったが、この大溝は不要品を捨てる廃棄土場の役割も果たしていたといえよう。

2 掘立柱建物、柵について

第8次調査区で検出された掘立柱建物で全ての柱穴が検出されたものは、山裾にあるA地区のSB849のみである。それは規模的に小さい。時期はこれを構成するピットから土師器小片が出て中世のものと判断できるが、詳しい時期は不明である。

B地区では、掘立柱建物と判断したものはSB732、SB733、SB734、SB829、SB832、SB833と、どれも調査区のほぼ中央を端から端まで通るSD701の南側にある。しかもそれら掘立柱建物の柱列が調査区外南方に延びるため全体を構成する柱列は不明である。建物の時期については、SB

732を構成するピットから土師器小片が出たのでこれについては中世の建物と判断できるが、さらに詳しい時期については不明である。

しかしこれらの建物は、平成2年度の第3次調査で確認された建物の方角ともほぼ同じであって、面積的にはいずれも大規模なものでないが、人が住む広さを持った中世の人家であったと考えられる。今回の調査で出土した遺物の豊富さから考えるとB地区内は集落の一部にあたるといえ、これら掘立柱建物は確認されている岩出中世集落の北西に位置した建物の一部であったといえよう。

柵は、S A 729を構成するピットから土師器小片が出土し中世のものと判断できる以外は時期不明で

ある。近くの掘立柱建物との平行関係はみられないことから、塀ではなくて柵と判断した。

3 遺物について

第8次調査の出土遺物については、土器組成を調べるために器種カウントを行った^⑧。(土器のみで、それ以外の鉄製品や石製品等は除く)それを調査区全体(A地区とB地区の合計)の出土遺物と、大溝SD701の出土遺物についてまとめ表にした。

調査区全体では、個体換算で671.77個体であった。それを質類別の割合でみてみると、土師器78.13%、陶器20.84%、磁器1.02%であった。全点数のうちの点数割合で多い器種は、土師器皿(南伊勢系)の33.15%、土師器小皿(南伊勢系)の33.27%、陶器山茶碗の18.61%、土師器鍋(南伊勢系)の10.19%であった。

この結果は、土師器皿・小皿・鍋と山茶碗が主体で、その他、割合は少ないが、瀬戸・常滑・渥美産の陶器や、青磁などの貿易陶器も含まれるのは、平成2年度の第3次調査の遺物内容とも同傾向と言え、またこれは南勢地方の中世を中心とした遺跡の出土遺物内容とも同傾向といえる。

大溝SD701だけについてみれば、個体換算で255.36個体であった。それを質類別の割合でみてみると、土師器70.92%、陶器27.94%、磁器1.14%であった。全点数のうちの点数割合で多い器種は、土師器皿(南伊勢系)の36.68%、陶器山茶碗の25.98%、土師器小皿(南伊勢系)の20.97%、土師器鍋(南伊勢系)の12.18%であった。全体の割合との対比からは、同器種の数値には幾分差はあるものの、SD701の土器組成も調査区全体と概ねは同傾向といえる。

遺物を時期の点から見れば、SD701の遺物は、時期的には12世紀第IV四半期末～14世紀第I四半期頃までの土師器皿・小皿(南伊勢系)が多く出土した。また土師器鍋(南伊勢系)でも大半が同時期に属するもので、一部が中世のそれ以前とそれ以後の時期のものであった。山茶碗では、尾張型第6型式と、渥美・湖西型第6型式Ⅲの1に相当するものが多く出土したが、これらも同時期に含まれる。さら

質類	器種	採用部位	カウント点数	個体換算数	比率(%)	
					個別	質類別
土師器	鍋(南伊勢系)	口縁	821.5	68.46	10.19	78.13
	羽釜(南伊勢系)	口縁	48.3	4.03	0.60	
	茶釜(南伊勢系)	口縁	11.0	0.92	0.14	
	皿(南伊勢系)	口縁	2672.5	222.71	33.15	
	小皿(南伊勢系)	口縁	2682.4	223.53	33.27	
	その他(南伊勢系)	底部	50.5	4.21	0.63	
	皿(その他産)	口縁	12.0	1.00	0.15	
陶器	山茶碗	底部	1500.5	125.04	18.61	20.84
	山皿	底部	59.0	4.92	0.73	
	練鉢	底部	40.5	3.38	0.50	
	平椀(瀬戸産)	口縁	6.0	0.50	0.07	
	天目(瀬戸産)	口縁	2.0	0.17	0.03	
	播鉢(瀬戸産)	口縁	1.0	0.08	0.01	
	その他(瀬戸産)	底部	32.0	2.67	0.40	
	甕(常滑産)	底部	13.0	1.08	0.16	
	壺(常滑産)	底部	13.0	1.08	0.16	
	練鉢(常滑産)	底部	9.0	0.75	0.11	
	甕(渥美産)	底部	1.0	0.08	0.01	
	壺(渥美産)	底部	4.0	0.33	0.05	
磁器	青磁・椀	底部	70.0	5.83	0.87	1.02
	青磁・小皿	底部	8.0	0.67	0.10	
	白磁・椀	口縁	3.0	0.25	0.04	
	青白磁・合子	口縁	1.0	0.08	0.01	
計			8061.2	671.77	99.99	99.99

第13表 第8次調査区土器組成

質類	器種	採用部位	カウント点数	個体換算数	比率(%)	
					個別	質類別
土師器	鍋(南伊勢系)	口縁	373.3	31.11	12.18	70.92
	羽釜(南伊勢系)	口縁	19.3	1.61	0.63	
	茶釜(南伊勢系)	口縁	0.0	0.00	0.00	
	皿(南伊勢系)	口縁	1124.0	93.67	36.68	
	小皿(南伊勢系)	口縁	642.6	53.55	20.97	
	その他(南伊勢系)	底部	2.0	0.17	0.07	
	皿(その他産)	口縁	12.0	1.00	0.39	
陶器	山茶碗	底部	796.0	66.33	25.98	27.94
	山皿	底部	18.0	1.50	0.59	
	練鉢	底部	25.0	2.08	0.81	
	平椀(瀬戸産)	口縁	0.0	0.00	0.00	
	天目(瀬戸産)	口縁	0.0	0.00	0.00	
	播鉢(瀬戸産)	口縁	0.0	0.00	0.00	
	その他(瀬戸産)	底部	2.0	0.17	0.07	
	甕(常滑産)	底部	1.0	0.08	0.03	
	壺(常滑産)	底部	12.0	1.00	0.39	
	練鉢(常滑産)	底部	2.0	0.17	0.07	
	甕(渥美産)	底部	0.0	0.00	0.00	
	壺(渥美産)	底部	0.0	0.00	0.00	
磁器	青磁・椀	底部	28.0	2.33	0.91	1.14
	青磁・小皿	底部	5.0	0.42	0.16	
	白磁・椀	口縁	2.0	0.17	0.07	
	青白磁・合子	口縁	0.0	0.00	0.00	
計			3064.2	255.36	100.00	100.00

第14表 大溝SD701土器組成

に輸入陶器の青磁碗も龍泉窯系のものがほとんどであったが、時期的には同時期に含まれるものが主であった。

SD701以外の遺構の出土遺物についても、同じく同時期に属するこれら遺物が主で、つまり調査区全体の遺物が同時期に含まれるものが主であった。

出土遺物の傾向としては、近接する平成2年度のケカノ辻・角垣内地区での第3次調査区の出土遺物と器種的、時期的にもほぼ同傾向といえる。

つまり、遺物を使っていた年代の中心が12世紀第IV四半期末～14世紀第I四半期頃（鎌倉時代を中心とした時期）にあるといえる。

また石製品である石鍋・温石は、第3次調査に続

き出土した。温石は鎌倉での出土例は多いが、特に伊勢地方での出土例は極めて珍しい。2度の発掘を通して出土したことで、岩出遺跡群が伊勢地方の温石の代表的出土地といえるのではないだろうか。

ところで、この第8次調査のB地区の東延長上ごく近くにある第5次調査区と第7次調査区からはそれぞれ包含層、及び表土と攪乱跡からではあるが、第8次調査区と土器組成的には同内容の遺物が出た。

これら調査区の面積は少ないので出土遺物も量的には少ないが、これらの調査区も近接地ゆえに、同一の土器組成傾向を持つととらえればよい。

4 岩出中世集落について

過去の発掘から岩出中世集落は12世紀中葉～13世紀初頭頃から形成され始めて、13世紀後葉～14世紀前葉が集落の最盛期であったと考えられている^③。今回の発掘で出土した中世の12世紀第IV四半期末～14世紀第I四半期頃を中心とした大量の遺物は、岩出中世集落の発展・繁栄の時期と一致し、また人家と考えられる掘立柱建物が複数検出されたことから、岩出中世集落の居住地が清水地区にある第8次調査区のB地区にまで広がっていたことが確認された。

この岩出中世集落は過去の発掘では近畿自動車道付近の左郡地区・所り垣地区からその北側のケカノ辻・角垣内地区の各調査区まで確認されたが、それが今回の調査でさらに広がっていたことが分かった。ゆえに、今回の3調査の発掘があった一般農道整備事業玉城南地区の道路建設予定地と、愛宕山東側山麓、近畿自動車道、県道岩出新田線で囲まれる範囲を始め、それがさらに広がっていた可能性も高い。つまり、清水・ケカノ辻・角垣内・左郡の未発掘地も、岩出中世集落であった可能性が大きい。岩出の北東を中心に広がる現集落は昔から人の定住には適するところにあり、それゆえに当時も集落が広がっていた可能性が高いことを考えると、当時の岩出中世集落の集落範囲は、現集落の倍以上もの広

さを持つ大きな集落の可能性も出てくる。

〔註〕

① 伊藤裕偉『岩出地区内遺跡群発掘調査報告—一度会郡玉城町岩出所在、ケカノ辻・角垣内・蚊山地区の調査』三重県埋蔵文化財センター 1994

② 遺物器種カウントは、表の器種についてカウント部位を決め、その部位を12分割する形で、その残りが分母12（完形の場合）に対して分子が幾つ残るのかを、分子の点数で表して調べることをした。

〈カウント部位〉

土師器鍋・皿・小皿・その他…口縁

土師器羽釜・茶釜…口縁と鈔

上記以外の器種…口縁と底部

なお、カウントを2つの部位で行った器種は、数値の多いほうを採用した。個別換算数については「カウント点数÷12」で計算し、その数値は少数第3位を四捨五入し少数第2位まで求めた。個別の比率（%）は、「対象となる個体換算数÷個体換算数の合計」で求めて、少数第3位を四捨五入し少数第2位まで求めた。なお、表下欄の合計は、全て縦列の合計である。

③ 前川嘉宏ほか「蚊山遺跡左郡地区」（『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告』第6分冊 三重県埋蔵文化財センター 1993）

写 真 图 版



A地区・B地区(航空写真)



A地区全景(西から)

図版2 第8次調査区(2)



B地区全景(東から)



B地区西側(西から)



S D701他遺構 (22~29B・Cグリッド付近 北西から)



S D701他遺構 (28~34B・Cグリッド付近 西から)

図版4 第8次調査区各遺構(2)



S D 701他遺構 (23~29B・Cグリッド付近 西から)



S D 701他遺構 (9~20B・Cグリッド付近 西から)



土坑〈SK〉群(18~23B・Cグリッド付近 西から)



遺物出土状況(SK800 SK779 南から)

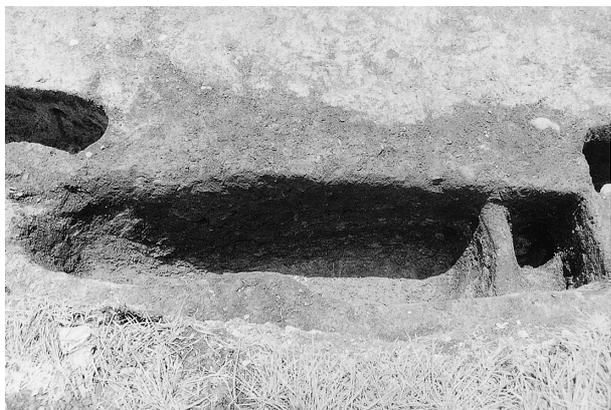
図版6 第8次調査区各遺構(4)



遺物出土状況 (SK800 南から)



SD701土層 (i-jライン 東から)



SK707 (半切 南から)



SK712 (半切 南から)



SD841 (北から)



SD843 (土層ベルトを残した段階 北から)



遺物出土状況 (SK846 南から)



SB732他遺構 (北から)

図版7 第8次調査区各遺構(5)・第7次調査区



20BグリッドP i t 2 (S B 732) (半切 西から)



37BグリッドP i t 12 (S B 833) (半切 南から)



S A 731 (西から)

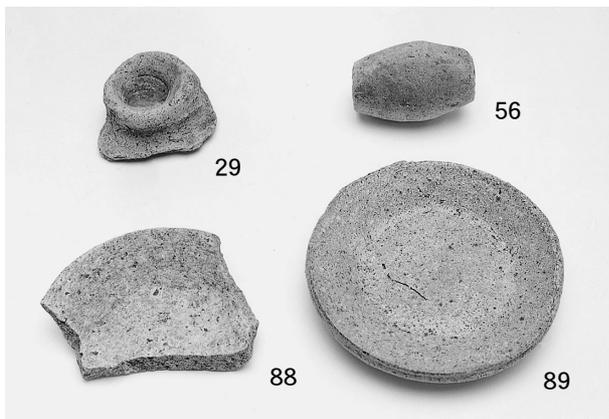
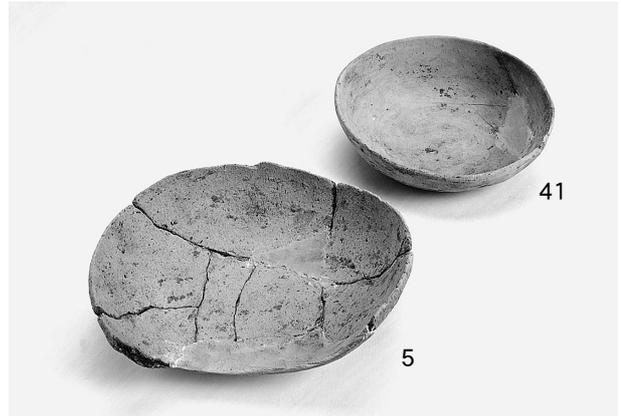


S A 730 (南から)

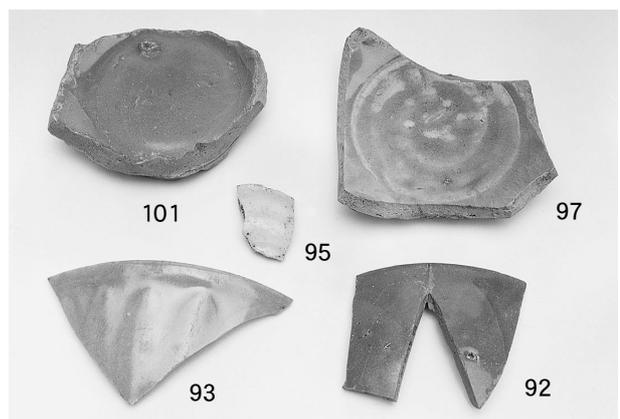
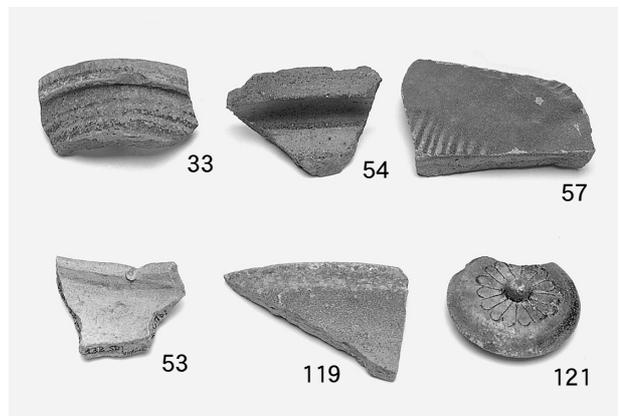


第7次調査区全景(東から)

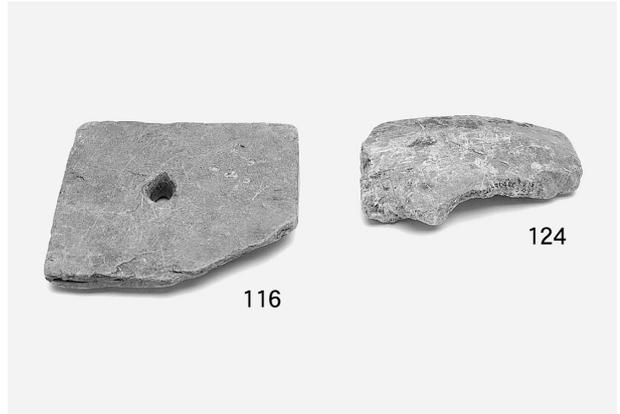
図版8 第8次調査区出土遺物(1)



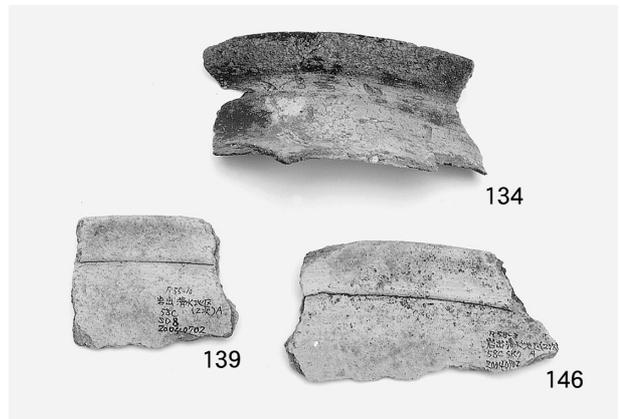
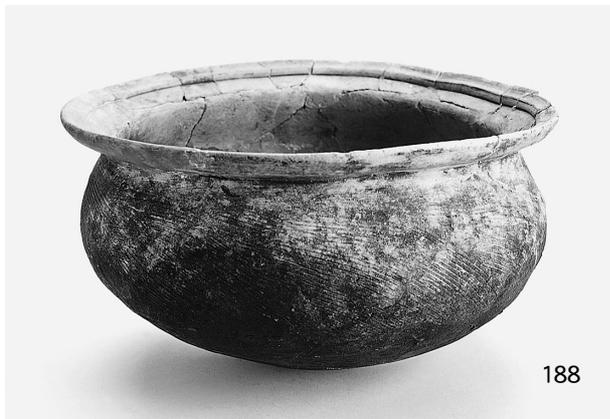
図版9 第8次調査区出土遺物(2)



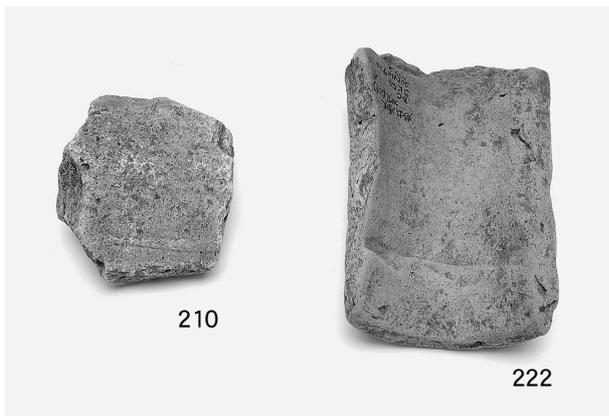
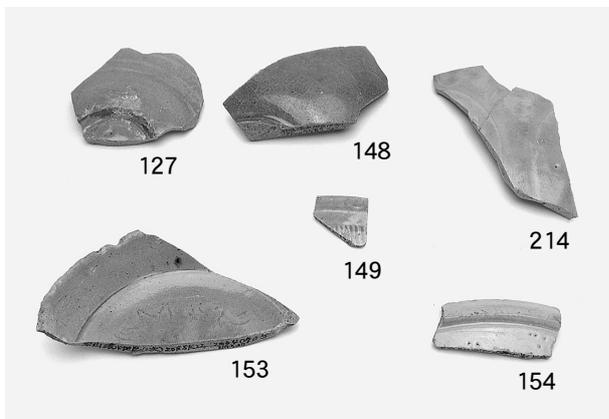
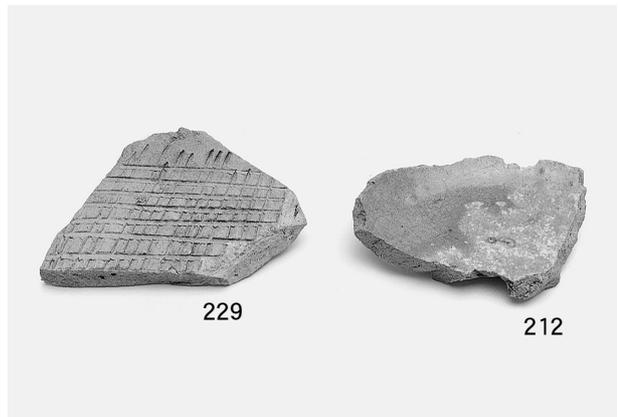
図版10 第8次調査区出土遺物(3)

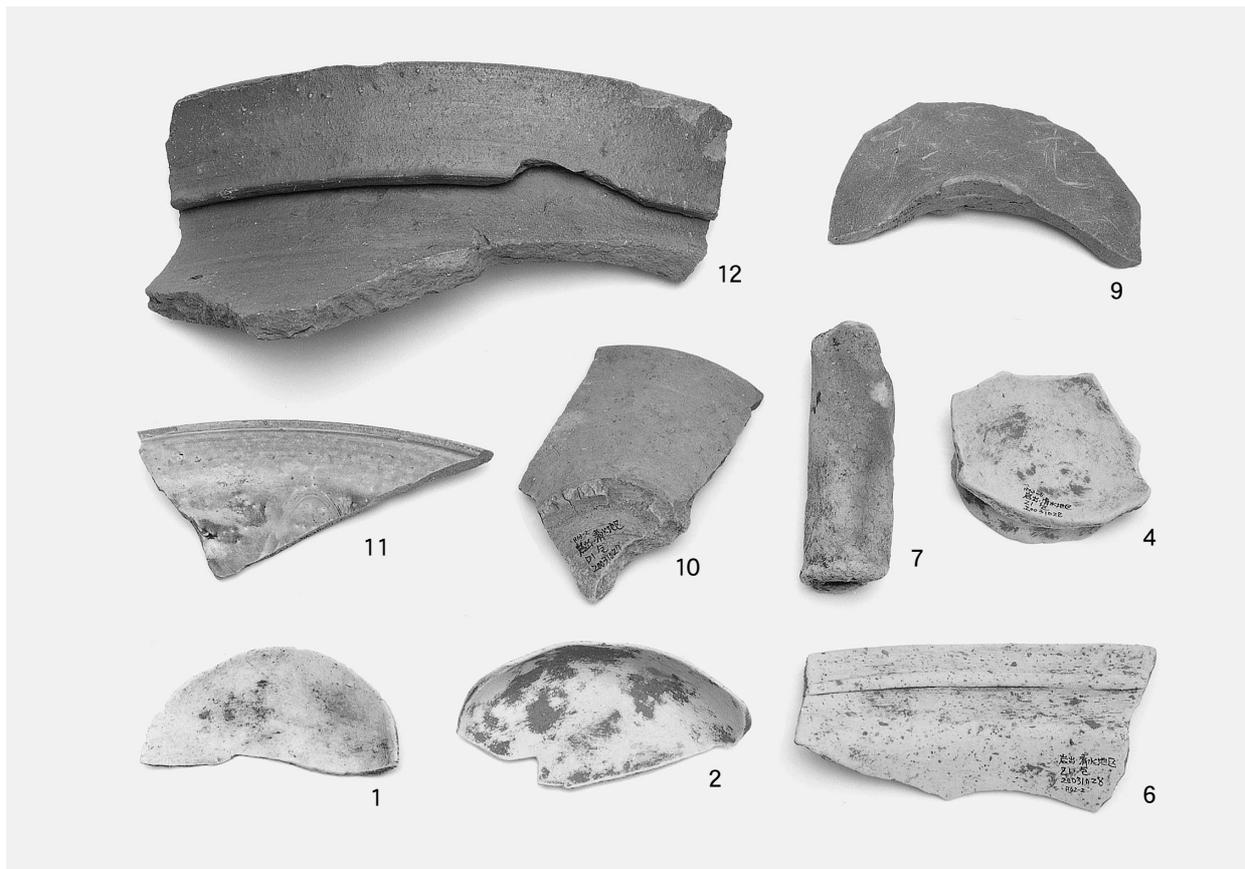


図版11 第8次調査区出土遺物 (4)

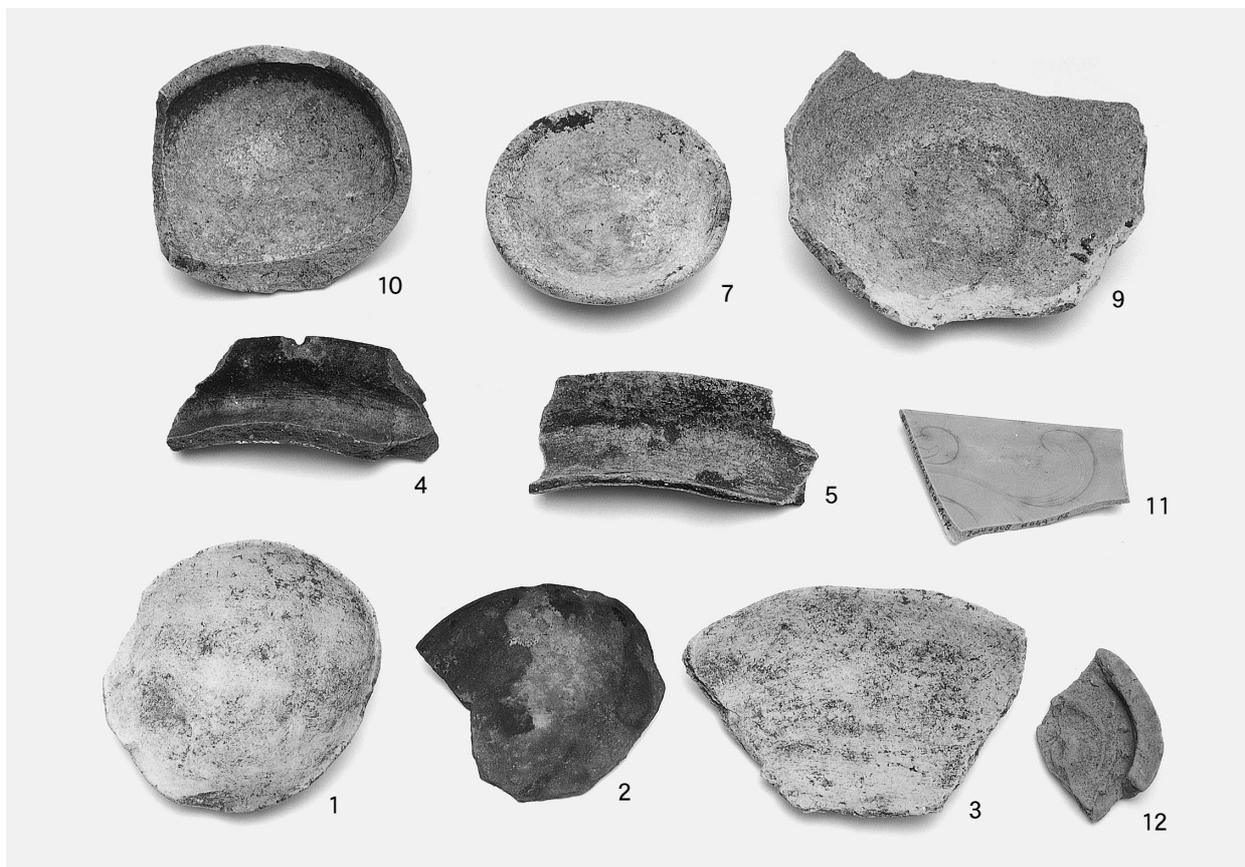


図版12 第8次調査区出土遺物 (5)





第5次調査区出土遺物



第7次調査区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	いわでいせきぐん(だいご、なな、はちじ)はつくつちょうさほうこく
書名	岩出遺跡群(第5、7、8次)発掘調査報告
副書名	
巻次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	267
編著者名	木本勝己
編集機関	三重県埋蔵文化財センター
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 Tel. 0596-52-1732
発行年月日	2006年3月22日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いわでいせきぐん 岩出遺跡群 (第5次調査)	みえけんわたらいぐんたまきちょう 三重県度会郡玉城町 いわであさきよみず 岩出字清水	461	302	34° 28' 01"	136° 38' 57"	20031027 ～ 20031031	100㎡	平成15年度一般農道整備事業 玉城南地区に伴う本調査
岩出遺跡群 (第7次調査)	三重県度会郡玉城町 つじ 岩出字ケカノ辻	461	302	34° 27' 59"	136° 38' 59"	20040302 ～ 20040309	65㎡	平成15年度一般農道整備事業 玉城南地区に伴う本調査
岩出遺跡群 (第8次調査)	三重県度会郡玉城町 岩出字清水	461	302	34° 28' 03"	136° 38' 52"	20040520 ～ 20040813	1645㎡	平成16年度一般農道整備事業 玉城南地区に伴う本調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岩出遺跡群 (第5次調査)	集落跡	鎌倉、室町時代	溝、土坑、柱穴	土師器皿・鍋、陶器山茶椀	岩出遺跡群の旧称は蚊山遺跡。近くに中世伊勢神宮祭主の居館があったと推定され、第5次～第8次の調査地はそれに付随する集落地の一部である。
岩出遺跡群 (第7次調査)	集落跡	鎌倉、室町時代	土坑、柱穴	土師器皿・鍋、陶器山茶椀・甕・鉢 青磁、瓦	
岩出遺跡群 (第8次調査)	集落跡	平安時代末～鎌倉・室町時代	土坑、大溝、溝、柱穴、掘立柱建物、柵	土師器皿・鍋・羽釜、陶器山茶椀、陶器鉢・甕、青磁・白磁、石鍋、温石、土錘、鉄製品(全重量141.6kg)	全長約130mの大溝が検出された。

岩出遺跡群 (第5次調査)	当遺跡は、宮川左岸の低位～中位段丘上にある岩出地区内全域に広がる岩出遺跡群の北西端に位置する。宮川用水管理設時の攪乱のために検出した遺構は少なかったが、溝と柱穴を確認した。小さな面積であるが集落の一端を確認することができた。
岩出遺跡群 (第7次調査)	鎌倉・室町時代の柱穴群や「土取り」と考えられる攪乱などが見つかった。小さな面積であるが集落の一端を確認することができた。
岩出遺跡群 (第8次調査)	溝、大溝、柱穴、掘立柱建物、柵が出たが、遺物から鎌倉時代を中心として平安時代末から室町時代にかけての遺構といえる。特にB地区で確認された大溝は、調査区の東西を端から端まで通る約130mあまりの大きなもので、農業用の他、区画用にも使われていたと考えられる。この溝の底部を中心に、鎌倉時代を中心とした中世の遺物が大量に出土した。この溝の南側には掘立柱建物が確認されたことから、当遺跡も過去の発掘で明らかになった岩出中世集落の一部であると考えられる。

三重県埋蔵文化財調査報告 267

岩出遺跡群(第5、7、8次)発掘調査報告
～三重県度会郡玉城町岩出所在～

2006(平成18)年3月

編集発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷(有)山文印刷
